

平成25年3月12日

1. 出席議員

議長	杉原豊喜	副議長	山崎鉄好
1番	朝長勇	2番	山口等
3番	上田雄一	4番	山口裕子
5番	山口良広	6番	松尾陽輔
7番	宮本栄八	8番	石丸定
9番	石橋敏伸	10番	古川盛義
11番	上野淑子	12番	吉川里己
14番	末藤正幸	15番	小池一哉
16番	小柳義和	17番	吉原武藤
19番	山口昌宏	20番	川原千秋
21番	牟田勝浩	22番	松尾初秋
23番	黒岩幸生	24番	谷口攝久
25番	平野邦夫	26番	江原一雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長	筒井孝一
次長	松本重男
議事係長	川久保和幸
議事係員	江上新治

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
技		監	松	尾		定
政	策	部	角			眞
つ	な	が	宮	下	正	博
營	業	部	森		孝	畑
營	業	部	北	川	政	次
く	ら	し	山	田	義	利
こ	ど	も	蒲	原	惠	子
ま	ち	づ	石	橋	幸	治
山	内	支	成	松		薫
北	方	支	坂	口		勉
会	計	管	浦	川	正	盛
教	育	部	古	賀	雅	章
教	育	部	白	濱	貞	則
水	道	部	松	尾	満	好
総	務	課	中	野	博	之
財	政	課	水	町	直	久
企	画	課	平	川		剛

議 事 日 程 第 2 号

3月12日（火）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成25年3月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
1	23 黒 岩 幸 生	1. 一般質問について 1) 議会活動と一般質問回数をどう思うか？ 2. IT行政推進について 1) 行政ナビ研究部署の立ち上げは？ 3. ごみ処理場建設について 1) 経過と問題解決にどう対処したか？ 4. 放射能問題について 1) 放射能に対する考え方を深めるべきでは？ 5. 工業団地利用について 1) 立地条件を活かした活用方法は？
2	20 川 原 千 秋	1. 産業関係 1) 地場産業の振興について 2. 行政関係 1) みんなのバスの運行について 2) 債権管理条例の制定について 3. 教育関係 1) 教育の再生について 2) ICT教育の方向性について
3	1 朝 長 勇	1. 市営住宅の今後の方向性について 2. これからの庁舎のあり方について 3. 特色ある教育政策について 4. 企業誘致について
4	4 山 口 裕 子	1. 高齢化社会の対応について 1) みんなのバスについて 2) FM放送開局について 2. 経済政策の公共事業の促進について 3. 武雄市の国際戦略について 4. 子ども達の支援について

順番	議員名	質問要旨
4	4 山口裕子	5. おもてなしの町づくりについて 1)花いっぱい運動について 2)イベントなどの対応について
5	5 山口良広	1. 行政視察対応について 2. 教育問題について 1)学校におけるいじめ対策について 2)体罰に関するアンケートの公表について 3. 農業問題について

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を開始いたします。

一般質問は、16名の議員から59項目についての通告がなされております。日程から見まして、本日は5番山口良広議員の質問まで終了いたしたいと思っております。

質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の報告のとおりでございます。

議事の進行につきましては、特に御協力をお願いいたします。また、執行部の答弁につきましても、簡潔でかつ的確な答弁をお願いいたします。

それでは、最初に23番黒岩議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。黒岩幸生でございます。

東日本大震災から丸2年の月日が流れたところでございます。亡くなられた皆さん方に心からの御冥福と、そしてまた、一刻も早い復興を祈念いたすところでございます。

本日、私1番バッターということで、久しぶりでございますけれども、大変緊張をいたしております。と申しますのも、今や世界的に有名な樋渡市長さんに挑むわけでございますので、きょうは傍聴席にうちの身内一同寄せました。ごらんのとおり、空席を除けば満席という、たくさんの傍聴者の皆さんの力を得ながら樋渡市長に挑んでまいりたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

冗談はさておきまして、先日テレビを見ていたわけでございますけれども、その中で園田

天光光さんというんですかね、園田外務大臣の奥さんでございますけれども、現在94歳だということでございます。日本で初めての女性代議士になられた方ですね、代議士というのは衆議院ですけども、その方の対談を見ておまして、何人かで見えおったんですけども、そのときに園田先生がおっしゃるに、こうおっしゃったんですね。最近の議員はサラリーマン化していると。国会議員のことでしょうけれども、最近の議員はサラリーマン化しているとおっしゃった。そのとき、私の隣におった人が、名前は伏せますけれども、その方がサラリーマンと議員は違うとおっしゃったんですね。私ももちろんそのとおりでと思いました。しかし、その次言われた言葉が違うんですね。ぐさっと刺さりましたけれども、サラリーマンは8時から17時まで一生懸命仕事ばせんぎ給料ば削られる。休むぎ賃金カットされる、しかし、議員はたとえ一般質問を何もせんで家業に精を出しとっても賃金は減らん。どんだけ長期に休んでも給料も減らんやろうもん、こうおっしゃったので、ぐうの音も出なかったんですね。幸生、今度今までの一般質問を出せということでございましたので、命令を受けて、皆さん方の報告をしたいと思います。

24年度3月定例会の一般質問でございます。24年度というのは、この年最後でございますので、今回まで入れて、22、23、24と、計12回、今回まで皆さんの通告を入れて12回ということでカウントいたしております。見えるですね、見えんぎと思うて書いてきたんですよ。

12回が上田議員と宮本議員、11回が上野議員と黒岩、私ですね。10回が山口裕子議員、松尾陽輔議員、山口昌宏議員、谷口議員、江原議員、8回が平野議員、7回が山口等議員、山口良広議員、そして吉川議員、川原議員、松尾初秋議員、6回が朝長議員、5回が古川議員となっております。4回以降につきましては、25年度にまだまだ4回のチャンスがあるわけですね。皆さん丸々していただければ4回になりますので、これはあえてカウントいたしておりません。もし私がこのまま25年度の3月定例議会で一般質問することがあれば、全体を教えたいと思います。

そこで、市長にお伺いですがけれども、一般質問の回数と言っているんですけども、一般質問と議会活動をどのように日ごろ思われているのか、答弁を求めたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まことに答えにくい質問ありがとうございます。

私は、掛け算だと思っています。幾ら数が多くたって、中身がなければだめだと思っていますので、誰がどうだとは言いませんけれども、掛け算だと思っています。

一方で、議会活動は、私も政治家ですのでよく思うんですけど、例えば、集会であるとか、あるいは各種行事への参加であるとか、あるいはひまわり通信を出されておりますけれども、

そういう各種のチラシであるとかビラであるとか、そういったことの総合判断の中で有権者が決められるものだと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ありがとうございます。

この括弧の中は討論回数なんですね。今、赤にしましたけど、実はこれで前と後ろに動かしているんですよ。だから、前は黒いパネルがございまして、その次のパネルに、ここで回しますと、赤くなるというふうにしております。全てこれで一般質問動いております。上田議員が11回、私15回ですね。これ討論回数です、反対、賛成ありますけれども、松尾陽輔議員が2回、山口昌宏議員が13回、谷口議員が4回、江原議員が23回、平野議員が22回で、山口等議員が1回、山口良広議員が6回、そして吉川議員が2回、こう書いていますけど、松尾初秋議員が2回ですね、ここね。これを多い順に比べてみますと、こうなるんですね。

（発言する者あり）はい、すみません、間違うとるごたるですね。ここですね。ここ飛ばしますけれども、平野議員と江原議員で45回、そして黒岩から山口良広さんまでが45回、つまり反対、賛成の形でずっと議会は動いているんですね。だから、こういう形で動いているということを知っていただければ結構だと思います。

一般質問については、先ほど市長が言われましたように、有権者が判断することだということでございますので、それくらいにしたいと思います。

今回、私、5件について出しておりますけど、2つ目のIT行政についてでございますけれども、実は北海道情報大学に行ったんですね。熊本の方をお願いをして、北は北海道から南は沖縄まで情報大学に行ってみたいということでIT委員会と会派で行ってまいりました。そのとき、これ皆さん何に見えますか。これ図書館なんですね。この窓の向こうに10万冊あるんです。それが自動的に出てくるというのを見まして、このパソコンで出るんですね。この窓つながりについて質問をしてまいりたいと思います。つまり、この自動書庫出納ステーションということで、ここから出入りをするんですね。つまり、パソコンという静から自動ステーションですから動へ、さらには進化していくナビ、これは2年ぐらいしょっちゅう私ここで話していますけれども、進化していくナビ、つまり行政ナビをここで開発しようということで、市長ぜひとも今回は一歩踏み出してほしいということで質問をしてまいります。

3つ目は、ごみ処理場建設についてでございます。

処理方式を決定し、これどこかの新聞で書かれましたけど、後で言いますが、まず目的を決めるんですね。資源化もいいでしょう、しかし、私が訴えてきたのは、平成22年の4月に広域圏議会議員になって訴えてきたのは松浦地区の安全・安心なんです。安全・安心、つま

り松浦地区に処理場をつくりますので、その安全・安心について頑張るべきだということ
を訴えてまいって、処理方式が決まっていっただけですね。もう1つは、4市5町の財政支出
を抑制してきた。これは伊藤元康前局長が一生懸命力を入れたところなんですね、財政支出。
これも後で時間があつたら話をします。そういうのを3年間かけて検討してきましたので、
そのことについて価値観の共有をしていきたいということで質問をしたいと思います。

さらには、放射能問題、この放射能問題ですけれども、これは福島県の地図なんですね。
つい最近、2月でしたかね、周辺1歳児の被曝線量ははかられたんですね。そのときの数字
が南相馬市が20ミリシーベルト、浪江町が20、双葉町が30、大熊町が20、富岡町が10、いわ
き市が30、飯館村が30、この飯館村というのは、玄海原発と武雄市、あるいは福島原発と飯
館村、ちょうど一緒のところなんですね。方向的には真反対ですけれども、だから、いつも
飯館村が気になっているところですね。それから、川内村、この川内村は皆さん御存じです
よね。一時帰省があつたところでしょう。これを見てもみますと、ここが双葉町ですよ、原発
があつたところですね。少し離れた、ここですけれども、これがいわき市なんです。そして、
ここが飯館村、つまりここが30なんです。川内村はここですね、いわき市の上のところ、
川内村は10ミリシーベルト以下なんです。だから、一時帰省されたか知りませんが、最も
低いところですね。それで、富岡町は、ここも10ですよ。そして、大熊町、すぐ隣も20で
すね。これ30キロ圏外が30で、近くが薄いと、こういうことを考えてみますと、5キロとか
10キロ、30キロという話はもうないんですね。

先日、家内と一緒に八幡岳に登つたんですけれども、玄界灘がきれいに見えますよ。原発
と言いませんけどね、それくらい近いんですね、距離的に20キロ、30キロというのは。だから、
我々は放射線の実態を本当に知らなければならぬと思うんですね。そして、正しく怖
がるということが大事なんですね。なめてもいかん、恐れ過ぎてもいかんということなん
ですね。

先日新聞に載っておりましたけれども、玄海原発第1号機は廃炉へ先陣かと書いてあるん
ですね。1号機は日本で一番危ないと言われる原発ですね。それは、これ何回も話しますけ
ど、脆性遷移温度が高いということですね。脆性というのはもろくなるということですね。
これもここで一回話したことありますけれども、私が昔ヨットに乗っておつたころ、ステン
レスのこんな大きいのが一瞬に切れたんですね。ステンレスというのは、皆さん、外から見
てもさびがわからんですね。鉄はさびて腐っていきますけど、ステンレスはほとんどわから
ない。しかし、電食作用を起こすんですね。もろくなる。つまり、脆性遷移温度が一番高い
のが原発ですね。だから、反対、賛成もちろん大事です。しかし、より今よりいい条件を
探していくというのも大事だということをお聞きしたいと思つています。

それから、工業団地利用についてでございますけれども、これは怒られるかもしれませんが
けれども、一つの考え方ですよ、市長さんね。これ宮裾にございます武雄・北方インター

工業団地ですかね、見てわかりますように、非常に日当たりがいいところですよ。こっちが南、朝から晩まで日が差すところ、高台ですね。すごいところですよ。ここに太陽光発電事業を考えたらどうなるかということですね。市長さんが初日の演告のときに、本部ダムの話をされたんですね。1メガワット、このことについても熊本の私の知り合いに聞いてみたんです。ざくっとですね。1メガワットの仕事をするために総事業費が約3億円、敷地面積は1万坪弱、若木は6,000坪ぐらいですか、そして利益が3,000万円か4,000万円上がるそうですね。だから、今誰でも知っているのは、土地さえあれば七、八年で取り戻すということですね。4,000万円だったら大体7年半で取り戻しますからね。しかし、敷地がないですよ。それで、工業団地を考えたら5万坪ぐらいですかね。そしたら、毎年2億円入りますよという一つの話ですけどね。こういうことを時間があつたらしていきたいと思います。

それでは、本題に入りますけれども、IT行政推進についてでございます。

行政ナビの開発をしようという意味でございます。これはフェイスブック活用の連携に意欲、これ新聞に書かれたんですね、北國新聞とかですね。フェイスブック積極活用の武雄市議会が来訪ということで、実は2月14日の北陸中部、あるいは北國新聞に掲載されたんですね。これは皆さん、9人の方が行かれたときですね。フェイスブックによる情報発信の先進都市、その議会から武雄市議9人が金沢市を来訪、話に聞いてみますと、研修に行ったとき、もう新聞記者さんの方、待っていたそうですね。それだけ今武雄市が有名になっているということで、それは市長ですけどね、世界の市長と言われるぐらいですからね。議会はもうだめですから、恥かかんように今頑張っているつもりですけども、実は我々も北海道に行ったときに、実は熊本に頼んだ人が、北海道の教育委員会の方が佐賀県の武雄市から研修に来てくんしゃったばい——来てくんしゃったばいと言いんさんやったばってんね。佐賀弁しか知らんけんばってん、とにかく話題になったそうですよ。私は又聞きでしたので、まさかまさかごまやろうと思ったですね。しかし、これ見てわかるように、今武雄はこれだけ注目されとつとですよ。だから、我々議会はもっともっと頑張らなければと思います。市長に負けないように、気持ちで頑張ります。

フェイスブックというかF&B（ファンバイ）ですね、F&B（ファンバイ）も市長は一生懸命されていますね。先日、インドネシアですかね、どこですか。

〔市長「シンガポールです」〕

シンガポールに行かれたところでございますけれども、そのように全国的なものにフェイスブック、これも載っているわけですね——F&B（ファンバイ）、すみません、フェイスブックとよく間違えるんですね。これに今度改めて武雄小町というのを出されるそうですね。これは馬油クリームだそうです。馬油というのは皆さん御存じだと思いますけど、小さな子どもなんか持っている人は、ちょっとやけどしたとき、これを塗れば水膨れにならんとですね。だから、馬油をどこでもそろえてある。そしてもう1つ、昔下手くそばってんゴルフをしよ

ったんです。こっちが下手くそまめのできとですね。そこに塗っておけば、次の日はそのまめが消えるんですね。そういう効果を持っているんですね。しかし、これべとべと感が普通あるんですね。しかし、この武雄小町は微粒子のクリームなんです。超微粒子ですね。以前これを見せてもらったときは、スプレーというですかね、スプレーだったんですね。スプレーできるほど、油は普通スプレーできない。スプレーできるほど微粒子なんです。しかし、スプレーをすればどうしても高価になるということで、クリームをつくられたそうですね。

ここですけれども、これよかじゃなかですか、「楼門に恋に焦がれし、花一輪」、これと美人ば書いてあるんですね。奥さんの顔かわからんですけれども、私が言いたいのはここじゃなくて、ここのところなんです、市長さん。武雄小町、ここですけれども、馬油クリーム武雄小町と書いてあるんですね、「武雄」。

それで、お伺いですが、F & B（ファンバイ）商品にできる限り「武雄」を使ってもらおう。もちろん、いろんな自治体としていますから、共存もしなきゃならないけど、その中でも競争は競争ということで、やはり武雄の市長ですから「武雄」を使ってもらおうと思いますけれども、どのようにお考えか、お伺いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄小町は試作品の段階で、私は性格も弱いですし、肌も弱いので使ってみたんですけど、物すごくいいです。これナノテクノロジーって微粒子の技術を生かして、最先端の科学というのは、ああこういうことなんだということを思って、かつ値段もそんな高くないんですよ。F B良品に出す意味というのは、基本的に私どもが手数料を取りませんので、その分だけ安い価格で出すことができるということです。これうちの看板商品として出していきたいと思っています。

一方で、議員御指摘のとおり、「武雄」をなるべく使うというのは、僕ら基本的にあれですもんね、なかなか表に出せない性格なので、そこは御指摘のとおり、F B良品 TAKEO の部分は「武雄」というのをきちんとつけた上で出していきたくたい。おっしゃるとおりだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長はトップですので、言えなかったら我々議会の役目かなという考えを今しております。

行政支援システムとして3D検索の活用と書いておりますけれども、手塚治虫氏、漫画家ですね、「鉄腕アトム」ですか、この方が約50年前に3Dテレビを発想、こういうものが将来出ますよと50年前に言っているんです。この発想の大事さですけれども、発想が起業を生

む、まず発想からだという考え方を言っていきたいと思いますが、私がよく言う3D検索、三次元検索、これ繰り返しますけれども、三次元ということは次元がある。次元は何か、これ線なんです。だから、次元検索は右か左かしかできないわけですね。次元検索というのは面ですね。縦と横から検索ができますね。今、京コンピューターの時代ですか、16桁ですかね、だから、1,000万掛け1,000万だと思えますけれども、1,000万の横と1,000万の縦の計算が瞬時にしてできる、その時代です。それをもう一つ進めて、三次元は立体ですね。あらゆる方向の検索ができないかという考え方なんです。立体というのは、ここで何回も言いますが、縦、横、高さ、XY軸にZ軸を加えて探すということですね。先ほど言いましたように、あらゆる方向へ検索するのが三次元検索なんです。変化していくんですけれども、これを紙の世界、つまり行政の中で3D検索をしようということで、2年間ここで話をしようところですね。つまり、二次元の世界で3D検索をするということで理論づけていきたいと思えますけれども——あ、その前にMY図書館もここで訴えました。iPad一つあれば、わざわざ図書館に行かずとも図書館は目の前にありますよ、つまり図書館の本をみんな電子書籍化すれば、それが可能ですよという話をしましたけれども、これは残念ながら著作権の壁でオミットですね。この話はもうやめます。もう1つ言ったのが、これですね。穴あきシート、進化するシート、これも山崎先生に最初習ったところですね、ITとのかかわりで。私が言うことに対して、そしたらねって、このシートに穴をあけたら、あらゆるパソコンから取り込むことができますよとおっしゃったんですね。これ私、前にパネルで使ったものですね、ここで。それを持ってきましたけれども、次元と次元と考えると、演劇と映画を見ましたら、映画が二次元ですね、演劇は三次元ですよ。そうすれば、次元というのはとまって動かないのが次元ですよ。残像で錯覚するだけですかね。そして、次元は進化する、動いていくということなんです。つまり変化しない、変化するという。そう考えていきますと、このシートというのは、山崎先生が考えている穴あきシートというのは変化をしていくんです。これ一番大事なところで、変化するというは仕事をするシートになるということなんです。仕事をさせるんですよ。これは一つのいっぱいある窓と考えた場合、北海道に行ったとき思ったんですね。パソコンでしょう、これ次元の世界ですよ。ここはこのパネルですから次元ですけども、実際目を見たところ次元の世界ですね、本が出てくる場所はですね。そうすれば、本は立体的検索をするわけですね、次元の検索をしてくるんですよ。つまり、パソコンからこれを動かすということは、静から動へ動いていくということですね。それが次元検索をさせますよということなんです。

これ誰も行く食堂ですよ。食堂を見てあと思ったのが、当たり前の話ですけども、食堂に食券がありますね。この食券に書いてあるうどんという文字は次元なんです。食券は次元ですけど、うどんという文字は少なくとも次元なんです。しかし、その次元

元とこの窓でつなげば、もちろん先でおばちゃんたちがいろんなおいしいのをつくってくれますけれども、それからここに進化したうどんが出るんですね。

これは北方の宮裾にあります中村電機さんですね。ここは元コヤマエアゾールということで卓上コンロとガスボンベをつくっていたんですね。ここに充填されていたんですね、ガス充填。この方が中国はまだインフラが整備されていないので、中国に送るという話を小山社長がされた。そのとき私が言ったのは、社長さんて、中国でつくったほうがましよて、日本は高っかろうもんと言ったところが、小山社長が言われたのが、全て自動化すると、工場を全て自動化すれば人件費は関係ないですよとおっしゃったんですね。これが今も動いていますけれども、無人倉庫なんですね。これ中を見てもみますと、真ん中だけ見てもみますと、当然こういうことなんですね。両方に棚があって、真ん中を自走クレーンが走っているんですよ。そしたら、パソコンから言われたところに動いて、そこに荷物を置いたり、荷物を取ったりするんですね。パソコンの主導で二次元から三次元へ動いていくんですね。これは窓口です、ここから出入りするんですね、倉庫からのが。ここをこの指導をパソコンがするという考え方なんですね。先ほど言いましたように、静のパソコンから動のほうに動いていくんですね。これが二次元と三次元の窓口だと、つながりだということなんですね。

そうしますと、ここに穴あきシートを窓と考えた場合、市長は以前こういうことをおっしゃったことがあるんですね、概念の物証化、物でないのを物になすんだということですね。そういうことを考えていきますと、理論上、二次元と三次元の連絡窓という考え方を私はしていますけれども、市長はこのことに対してどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

恐らくこれ、もう少しかみ砕いていうと、タグづけの話だと思うんですよ。タグづけで、そこには人の力というのは絶対必要だと思うんです。ですので、進化という話については私も同感ですが、それが自動的にじゃ機械にお任せして進化するというのは、そんなことは無理だというのは、多分そこは議員と認識が違うところだと思うんですけれども、そのタグづけを丁寧にすることによって、私は二次元から三次元になっていくものかなと思っています。

ちょっと間違いがあったら、また教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

そのところですけども、私、もちろん一本指ですし、ワードしかできないんですね。エクセルができない。しかし、エクセルは皆さん知っているとおり、表計算ができますね。

そこで、ある一定の変化をしていっているんですね。そのエクセルはまだまだ恐らく一次元の世界でしょう。これを二次元に広げて、三次元に広げて、エクセルを三次元まで広げていくという考え方なんです。ああ、わかった、そういうことなんですね。エクセルをいっぱい持ってきて、エクセルはよくわからんとぼってんね、今恐らく一本線、一つの線の計算はできると、それをあらゆる方向に行ければ三次元になるということですね。

これ北海道情報大学に行ったときですけれども、この方は理事長さんですね。普通は校舎をバックに写すんですよ。しかし、物すごく雪がひどかった。ちょうど私たちが行ったときだけが——松尾議員が人のよかけんと言ひよんさるけんね、松尾議員が人がよかったために行ったときだけ晴れとったんです。前も後ろも猛吹雪でした。話を戻しますけれども、北海道情報大学に行ったときですけれども、実は20分ぐらい早く着いたんですね。こっちのそうそうたるメンバーの方、もう座って待とんさった。それだけ佐賀県の武雄市を市長が有名にしてくれとるということなのでしょうね。この方が理事長さん、この方が学長さん、この方たちが学部長さんです。そして、事務長さん、そうそうたるメンバーで待ち受けていたんですね。私も緊張しながら話しているんですけれども、私たちが聞きに行ったのは、ITを社会で利用するときにはどのような指導をされているかということを知りに行ったんですね。ITを利用するためには、ITの技術は高校で習うでしょうと、しかしそれを社会に出すためにはどのような指導をしていますかと話を聞いたんですね。そしたら、医療業界の3D、これ表示ですけども、3Dが一番多いそうですね。物すごく詳しく説明していただきました。その後、これは要らんことやったか知らんぼってんが、役所もそのうちペーパーレス時代になると思いますということから、行政文書への3D検索の利用はどうかと聞いたんです。そしたら、理事長さんは詳しくですね、いっちょんわからんとぼってんね、もう難しかとですよ。もう松尾さんはぐあいの悪しゃこう、わからんでじゃなかつたと思うぼってん、こうぐあいの悪しゃしよんさったんですもんね。それで、ちょうど話が切れたときに、いやすみません、私たちが聞きに来たのは、ITの社会利用するためですよと、そんな詳しいはなかばんたと言うたんですね。つまり、3D表示と3D検索、3D検索には本当に物すごく敏感に反応されたですよ、ここに3D検索に行ったときですね。

まあそれは置いて、ここは図書館ですね、先ほど言いました北海道情報大学の図書館です。本は余りありません。それで、各テーブルにパソコンを置いてあるんですね。図書館といえどもわいわいがやがや、それはそうでしょう、大学ですので、ほとんどディスカッションされているところなんですね。本を静かに読む人はヘッドホンをはめとんさったです。そして、ここの一つの机でパソコンで景色を見ながら、状態でされているんですね。だから、静かなともいいかもわかりませんが、大学ですから、わいわい——静かに読みたい人は逆にヘッドホンをはめているという状態でした。

この中で、先ほど言われたこれを見つけたんですね、パソコンと3D検索。ここ返却と書

いていますね。返却するときには目の前にA4ぐらいのマットがあるんですね。そのマットの上にその本をぽんと置けば、厚みが出るんですね。その厚みをコンピューターに入れますから、ここに返却の、それだけスペースがあるやつは出てくるんですね。そこに入れると、そこに入れば、今度パソコンにどこに入ったですよと入っていくわけですね。10万冊の本がそういうふうにして動いている。つまり、これを考えたときには、これが3Dから今度三次元から二次元に行っているんですね、動から静に行っているんですね、ということにつながっていくと思うんですね。

これロータリーシェルフ、これは後で習ったんですけども、病院なんか置いてあるのは、黒岩幸生のカルテと、ここに入れば、出てきて、カルテがぽっと出るやつですね。今までみたいにカルテを探すのに何分とかからんそうですね。

そこで、実はIT委員会で習ったことですね、山崎先生から習ったことですが、これは山崎先生がつくってくれたんですよ。紙を全て高速回線と書いてある、行政文書を電子化して全て高速回線に投げ込めば、必要な書類を必要なとき引き出せるとおっしゃったんですね。つまり、誰でもどこでも自由に引き出せますよ、まさにさっきの本と一緒に一緒だと思うんですね。常に必要な書類を引き出せると、こう山崎先生はおっしゃったんですね。

電子辞書の宣伝のときには、高田さんかね、これだけの本がとか言いさるんですね。この電子辞書に入っていますと。つまり、電子辞書に既に入っているんですけど、考え方によりますと、この電子辞書の後ろにこれだけの本が後ろにあると思ってもいいと思うんですね。そういう考え方をすれば、先ほどと一緒に、電子辞書も二次元と三次元の連絡窓という考え方はいかがでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さっきのエクセルの話で大體わかったんですが、もう1つ、観点で加えたいのは、私、小池議員さんらとともに陸前高田に行ったんですね。追悼式に御招待されて行ったときに、旧市役所がもう建て壊しになっていました、跡形もなく建て壊しになっていた。旧市役所はテレビでもよく出ているんですけども、一瞬の津波で全ての書類が流されてしまったと。残っているのも印刷されているにもかかわらず読めない状態になっているんですね、泥とかいろんなものにまみれて。そのときに思ったのは、これ一石二鳥になると思うんですね、黒岩幸生議員がおっしゃっていることは。すなわち、そういった書類をきちんと残すということ、それと残した上で、それがきちんと、市役所だけじゃなくて、どこでも見れるということですので、これはぜひ進めていきたいというふうに思っています。

ただ、定義づけは、まだ議員と私とで認識がちよっと違うところがあるのは、まあこれはすり合わせが今後必要だと思うんですけども、僕らはそういう意味で広く開かれると、だ

から、まず検索はうちの中でも相当議論があるんですよ。ですので、検索もそうなんですけれども、我々はいち早くこれをクラウドにしていきたいということを思っていて、そこに山崎先生がおっしゃるような3D検索であるとか、そういったことがそのインフラでどういうふうに見れるかということを進めていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今2つのことを一緒に言っておりますので誤解を招いているかわかりませんが、これも実はタグ打ちなんです。自由に出ますよ、びっくりするぐらい。私は最近パワーポイントにはまって、幾ら張っていても思うとおりに自由自在に出るんですね。だから、自由に引き出せると、それが1つ。

もう1つは、エクセルが進化する、今回そこをぜひ市長に勧めていきたいですね。それが二次元と三次元という話を今言っているところですけども、この穴あきシートの窓ですけども、これを例えば子ども手当の窓と考えた場合、これは電子辞書が後ろに入っているという考え方をさせていただくんですね。そうしますと、高速回線でもいいわけですね。そうしますと、子ども手当の場合、仕事の手順書として世帯主を探しますね。そして、家族構成を探します、さらには所得を見ます、そして手当を見て総額が出るという手順になりますね。例えば、家族に5歳未満が何人おるか見ますね、所得制限250万円はだめですよと見ます。そういうのを計算して手当を掛けて総額が出るんですね。この仕事を進化していくと。先ほど穴あきシートで変わっていきますよという考え方をしてもらいますよ。そうすれば、このシートというのが行政ナビですよ。昔ここでカーナビという話をしましたね。カーナビという話をしたとき、宮口さんが私に鋭く言われたんです。カーナビというのは目的が決まっていると、場所が。だから、2点を結ぶだけで簡単にできますよと、行政というのは先が決まっていないんですよと、だから、できないとおっしゃったんですね。しかし、私が言ったのは、それ進化していくんですよと、山崎先生から習ったように、進化していくんですよ。そのとき私が言ったのは、ジネンジョ、山芋、昌宏さんが得意ですけどね。ジネンジョは、点で終わればここから根がずっと下に行くんですね。石に当たった場合、これは自分で判断してここに行って、また自分で判断してずっと下に行くんですね。進化していくんですよ。だから、こういうことをつけていけば、エクセルをいっぱいはめたようにですね。そういうことをつけていけば、この仕事ができるということなんです。カーナビとは違うところですよ。つまり、行政は進化していきますよ、これが私が前から言うマイソフトでございますし、市役所職員さんの仕事の一部、例えば、そろばんのかわりに計算機を使うような、そういう進化する仕事の一部を支援するソフトができていくということなんです。

これは電子化された行政文書ですけども、家族構成がわかれば、選別すれば直ちに年齢

制限ができますね。所得把握ができますから、直ちにこれは所得制限ができる。さらには、手当の付加、これ人数がわかりますと掛け算をすれば総額が出ますね。これが進化するということですし、これを行政ナビにさせようというんですよ。エクセルみたいなのをつくってこうということですね。進化するソフトができるという山崎さんの話の上に乗って話をしています。まだつくってもらっていないんですけどね。そうすれば、これができれば直ちに地域別、あるいは50音別に分けれる。これにプリンターをつければ、直ちに通知書が個人に行くということになるんですね。この行政ナビなんですね。

そこで、以前からこのことについて行政ナビをつくらうという話をしてまいりました。役所としてもある程度の考えはつくってこられたと思いますし、特に今度は、少し以前からこのことについてぜひ聞きたいと言っておりますので、執行部として今どのくらいの考え方がなされているのか、具体的な答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず私どもとすれば、もうこれは報道もされておりますけれども、千葉市、奈良市、福岡市、そして武雄市で4首長によるオープンデータ、行政のデータの推進の協議会を立ち上げました。これで武雄市の担務として、今我々が実際やっているのは、そのプロジェクトチームを今つくっています。そして、これは一遍に行政文書をどんと載せるということよりも、これはうちの中の指摘があって、僕もそうかなと思っているんですけども、より有用性の高い、役に立つ、すなわちオープンデータ、ビッグデータですよ、というのを先にどんどん上げていこうということ、それに応じて、今度政策コンテストを我々やろうと思っているんですね。それで、こういうソフトのものについては、どんどん応募をしてもらおうということを思っています。これはひょっとすると、武雄市から出すかもしれない。ですので、山崎さんとよく相談をして、我々は実態ですね、ソフトの開発というのはなかなか難しく、使えるデータがないとどういうふうにできるかというのはなかなかわからないんですよ。ですので、それは我々は卵と鶏ではないんですけども、行政としてはどんどん情報を上げていくと、それによってソフトが試験的にどういうふうにかちんと作動するかということをやっていきたいと思っています。

それともう1つ、これ山崎さんと話していてよくよくわかったんですけども、皆さんたちは窓口の奴隷です。ちょっとお時間いいですか。

（モニター使用）これ転入。僕も黒岩議員さんに負けないように職員がつくったやつを言いますが、転入手続がどうなっているか、これびっくりしますよ。これまず異動届を記入して、転入者が市役所に来なきゃいけないですね。転入届を、受け付け入力をそこでしなきゃいけないと。そこで、国民健康保険とか小・中学校の転校であるとか、市民課で手続を完

了しますよね。そこで、ごみの出し方等もそこでまたお知らせする。これ窓口が別の場合があるんですよね、市民課の中でも。そして、関連の手続でこのように後期高齢者医療とか退職者の医療の話であるとか、介護保険とか予防接種というのを、本当にこれはいろんな窓口で聞かなきゃいけないというふうになるわけですね、窓口がばらばらに。これは今までそういうシステムだったからできなかったのが、山崎さんとよく話をしていると、いやこれ一括してできるということで、今実は杵藤の、これはここで言う話じゃないかもしれませんが、でも、武雄市のデータというのは杵藤広域圏ですよ、私、管理者ですけれども、広域圏の電算センターでやっているわけですね。ですので、今度これが抜本的にクラウド利用で変わります。変わったときにきちんと黒岩議員さんがおっしゃっているような3D検索であるとか、そういったことがきちんとできるようにシステム設計をしてほしいということを私の名で要請をしています。ですので、今ITでここまでもう可能なんですよ。

話を戻すんですけども、今、庁舎の話が進んでおります。私はどういう形になっていったにしても、基本的に窓口を廃止したいと思っているんですよ。お父さんがお葬式でお見えになった方々が、これは武雄市じゃないんですけども、もうたらい回しされた。しかも、市民課からどこかに行くときに、どこかの課では住民票をちゃんと持ってきてくださいと言われてた、これはおかしい話なんです。悲しみに打ちひしがれて、窓口を転々として、そこでまた持ってきてくださいって、そこで四、五十分かかったと言っているんですよ。だから、それはおかしい。我々は納税というので税金をいただいているわけですよ。ということは、最良かつ最高のサービスをしなきゃいけないと、予算とか制度の中でしなきゃいけないということですので、黒岩幸生議員がおっしゃっているようなシステムを使って、本当に心の通った、血の通ったサービスをきちんとするというので、市民がお越しになるじゃないですか、そのときに座ってもらって、御用向き、転入で来ましたとか、あるいは引っ越しで来ましたとか、あるいは母が亡くなったのでその手続に来ました、あるいは銀行の口座開設でもいいんですよ、そこを一元的に基本的にできるようにするというのが私の次の目玉でも出していきたいと思っています。

ですので、アップルストア、近くだと福岡天神にあるんですかね。あそこは窓口も何もないんですよ。支払いもレジも何もないんですよ。その場で商品が買えて、その場で支払いもできるんですよ。それが今ITでもう可能なんですよ。ですので、私はアップルを起こしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、市長がおっしゃるように、最初に言ったのが総合窓口、この2年の中で私自身も変わったんですけども、総合窓口からワンストップ、ワンストップから今度ノンストップになって

いくんですよね。そういうふうにならなくて、もうすごいですね。東京に行って、Suicaの話をしてください。一瞬に判断するんです。あれができる時代に、すみませんが、市役所は長過ぎるんじゃないかと、仕事で来て40分とかですね。

先ほど、児童手当ですね、私、子ども手当と言いましたが、この児童手当についても、今これだけのシステムが市役所は動いていますけれども、市民はもっとこっちにおるんですね、もう一つ横におるんですね。つまり、市民が望むのは、これは児童手当ですけども、市民が望むのはこういうもので、即通知が来るというように、例えば、転入届に来ます。そして、私が四千三百六十何番地とききましたら、直ちに例えばごみの収集日いつですよと、ステーションはどこですとわかるのができるわけですね。だから、ネット検索すれば京の時代ですから直ちにできる。人間だったら時間がかかるということですね。だから、ぜひともITに変えていこうということなんですから、よろしくお願ひしたいと思います。

空き家対策、これもついでです。ついでというのはおかしいですけども、空き家で非常に今伊万里とかいろいろ組んで、悩んでおられると思いますけれども、例えば、私から見た空き家対策、武雄の仕事の手順書を考えてみますと、まず検索の方法として航空写真を持って来るんですね。この航空写真というのは何枚あってもいいんですよ。1枚じゃなくていいんです、私、1枚1枚で前思ひよった。しかし、最近パワーポイントしてみて、どこからでも何でも出ますからね、タグさえ打っておけばいいわけですからね。タグというのはお年寄りがわからん、本でいうしおりみたいなもんですかね、しおりということですね。つまり航空写真で家屋に全てタグを打つと、そしてほかに住所録と字図をずっと重ねていって、いろんなのを重ねていくんですね。今度は引き算です。それから、生活の動き、いろんな生活の動きですけども、例えば、保険とか住民票などを引いていけば、これが選別していけば、これが空き家の箇所につながる。つまり、全てから引くことが簡単にITの世界でできるということですね。書類を探さんでよかよということの頭の中に、念頭に変えにゃいかんですね。それで、これも暗算、そろばん、計算機とか、ちょっとはしよりますけれども、暗算、そろばんは比較、検討、選別をする、そして答えを出すという話をしましたね。しかし、計算機というのはもちろん真つすぐ答えが出るんですね。じゃ比較、検討、選別を計算機にさせよう、つまり行政ナビにさせようという考え方なんです。エクセルをいっぱい持ってこいということですね。

それで、市長にお願い、これから先ですけども、市役所の仕事は実務ですね。ソフト開発は山崎さんがしてくれるでしょう。いろんな発想を持ってくれば、これがちゃんと回ると、市役所のところをしてもらうということですね。そうすれば、絵で描きますと、仕事、実務、発明、開発というふうになりますね。これ今離れておりますので、これを縮めるんですね。それだけではまだだめなんです。ここに大事なものは、組織的支援が要るんですね。この組織的支援が入って、これでもまだだめなんです。これがちゃんと回らなければならない。

きれいに回ることが、これが私は企業だと思うんです。つまり市役所の仕事を、山崎さん、発案者一緒に回って、組織的支援ができて出ていくと思うんですね。そこで、先ほど言いましたように、このことについては答えてもらいましたけれども、行政の部分でぜひとも協力してほしい、一緒にやっっていこうという意味ですね。先ほど市長は電算センターまで踏まえてやっっていくということでございましたので、この質問は取り下げますけれども、ぜひ前向きに頑張っていきたいと思います。

続いて、ごみ処理場の建設についてでございますけれども、これは宮本議員が出された栄八通信ですね。25年1月(2)、2番目かもしれませんけれども、西部広域ごみ処理が書いてありましたので、誤解があるかわかりませんので、皆さんに教えたいと思うのは、「入札参加1社のみ」、確かに1社なんですね。「ただ、私が以前から言っていたが、」これは知らなかったんですね、宮本議員がこんな考えをされているというのは。それは私も佐賀西部広域環境組合、伊万里の組合にここに来てもらったんですね、事務局を。皆さんに意見を伺わないですかと聞いたとき出なかった。しかし、こうおっしゃっているんですね、「処理方式を限定すると」「選択肢が少なくなる」、これは意味はわかりますよ。しかし、流れとして大きな間違いなんですね。つまり22年1月29日ですよ、佐賀県西部広域環境組合ではセメント原料化方式にすると決めておったんですよ。ほぼ決定やった、それはなぜか、資源化が目的だったんですね。その後、私は4月から安全・安心が目的だろうに変えたんですよ。つまり、目的を持って選別をしていくんですね。ここ違うんですね。しかし、実はあったんですよ、処理方式を限定せずに入札したところが。新聞にA市のことが書いてありましたので、私は知りませんでしたのでコンサルに聞きました。ちょうど伊万里に来るということで、コンサルに聞いてみますと、コンサルが言うにはA市だけじゃなかったんですね。Y市もございました。そこではガス化溶融炉、シャフト炉、ストーカ、灰溶融炉も一緒に入札をしているんですよ、考えられないような。なぜですかと聞いた、私の頭では考えられない。つまり、ダンプカーと乗用車とスポーツカーと、目的もはっきりせずに入札したのと一緒なんですよ、そういうことなかやろうもんと。あったんですね、A市とY市はされています。そして、わけありですよとおっしゃった。わけありを聞いたんですけど、ここでは披露しません、わけありですよ。

皆さんもっとおかしいのが、下の白いほうの丸ですけども、溶融できていないものは違約金を払うというのがここに入っているんですよ。これはびっくりしますね。溶融できてなかったら、つまり高温処理ができてなければ、入札自体されんですよ。参加されんはずですよ。しかし、それを溶融できていないものは違約金を取る、トン当たり1万7,500円だそうですよ。その後、私がじゃ伊万里はどうやったですかと聞いた。コンサルの方が私の顔を見てまじまじとびっくりされたんですね。伊万里はどうやったですかと聞いたもんやけんが、じっと見て、冗談のごとて、議長さんの——私は伊万里で議長しよるけんね、議長さん

から言われるとは思わなかった。あなたが――私ですよ、あなたが平成22年の6月議会と9月議会に安全・安心をしっかりと言ったと、ダイオキシンを言ったと、あれを聞いていて、我々も原点に戻ったと言うんですよ。つつい技術論とかそっちに走っていったけれども、安全・安心を置き去りにしてきたと。だから、あれで安全・安心について変わっていったんですよと話がなされました。

つまり、処理方式を伊万里が決定したのは、先ほど言いましたように、地元の安全・安心、それで伊藤さんは頑張ってきて、財政上して、予定価格を大幅に下げたんですよ。それを3年かけて議論してきたんですよ。

ここです、「1社のみ参加」、確かに1社のみだった、残ったのは。残念かどうかわかりませんが、落札率は98.88%、これが伊万里と鹿島で12月議会ですか、質問があったんですよ。98.88%で、余り高率やろうもん、談合やなかろうかという話ばってん、冗談じゃなかいですね。談合ができないように、むしろ予定価格を伊藤さんが大幅に引き下げたんですよ。予定価格を徹底的に引き下げたから余裕がないから談合できません、皆さんね。その結果が98.88%、これも後で話します、時間が来ればですね。

ごみ処理場建設について、これまでの経過を踏まえて、価値観を共有したいと思います。

ごみ処理というのは、御承知のとおり、当初は埋めていた、堆肥化していた、そしてその後、コンポスト化、これ市長さん知つとですか、二又にあったと。ここやったですね。当時、あの四角のコンポスト、あれどこでも使われると言いつたばってん、捨つところのなかったですね。その後、焼却処理になりました、今杵藤ですね。焼却処理は御存じのとおり、流動床とストーカ、うち流動床ですね。そして、ここですけれども、平成8年以降に政府は予算を出すときに、高熔融処理しなさいと。そうすれば、直融と灰熔融、直融は真つすぐ溶かすやつ、灰熔融は一回燃やしてからその灰を溶かすやつですね。それはなぜか、なぜ高温処理が必要かということ、平成8年ですけれども、焼却灰の無害化なんですよ。ダイオキシン類を1,300度以上で分解する、2つ目は重金属の封じ込めなんです。つまりガラス状の物質になるんですよ。泥を高温で処理する、焼き物ですね。焼き物会社では高温で、1,300度以上でするため固くなりますね、ガラス質になります。そうすれば重金属を封じ込められますよと。さらには、焼却灰がこれで少なくなります。そして、焼却灰を有効利用できますよと、これはちょっと疑問ですけどね。この4つがうたわれた。しかし、特に焼却灰の無害化と重金属の封じ込めが平成8年に高温熔融しなさいと決めたんですよ。しかし、熔融処理を必要としない例外規定もありますよ。それは平成16年、8年に決めて16年に主幹会議をして、18年ぐらいから条例ができたと思いますね。例外1、セメント、ここでセメントが出てくる。例外で出てくるんですよ。ちょっとこれは意味深なのがあるようですけども、まあ例外1がセメントや各種土木資材等に再生利用ができる場合、例外2は最終処分場が15年以上ある場合、例外3というのは離島とか不可能な場合、つまり例外1は再生利用、処分場、そして

離島など不可能な場合ですね。これが平成22年1月29日まで了解されていたセメント原料化システムです。

4市5町で燃やした残りの灰が9万立米、そのうち4万立米をセメント会社、これ前に私がここで使ったパネルですよ。セメント会社に持っていくと、残りの灰を埋め立てると、松浦地区に埋める、こういう方式なんです、セメント原料化方式。これを金で換算すれば、トン当たり1万7,000円ぐらい燃やすのにかかりますよと、これは当時、杵藤クリーンセンターに聞いたんです。そして、セメント会社に資源としてやるんですよ。トン当たり2万5,000円、これを我々が払うんですね。処理してもらおうとですよ。資源ならば向こうが買わにゃいかん。それで10億円なんですね。この10億円もったいなかるうもんと。さらに、輸送費が、これもうち持ちですよ。それはおかしかろうもんで、ここに5万トン埋めるんですから、またお願いして、松浦地区にあと10億円やるから埋めてくれと言わんねと言ったのが22年6月議会の私の質問です。

しかし、直営は幾らかかるかといいますと、トン当たり2万円、ただしこれは非常に難しい面があるんですね。ごみも計画収集が物すごくいるんですよ。ごみの量を安定させとかにゃいかん。そりゃそうですよね。100つくとに70しか来なければ、この値段は2万円が3万円になりますよね。それは計画収集をちゃんとせにゃいかんということですね、というのがセメント原料化方式だったんですね。その年の8月24日、うちの家に地権者の方が来られました。それは松浦地区最終処分場に関する陳情書というのを持ってこられたんですね。厚生省は平成8年に焼却残渣の無害化、先ほど言った分ですね、焼却残渣の無害化、熔融化及び熔融固形化処理を提唱した。つまりダイオキシン封じ込めですね。そのためにはスラグ化が最適だと推奨していると。ちゃんと地権者のここに書いてあるんです。そして、私たち地権者、下流地域住民の将来的な安全・安心を考え、最終処分場に埋める灰はガラス状の熔融したスラグにしてほしいという陳情書を出された。重金属を封じ込めてほしいという陳情書なんですね、22年の8月24日。これに対して、ここですけれども、佐賀県西部広域環境組合の事務局から、各担当課長様と書いて、文書が回った。怪文書と言えるものがね。これは翌日の22年8月25日にこの書類が回された。この中身を大きくするとわかりますけど、人権侵害もいようなことが書いてあるんですね。それはそれとして、当時の事務局はこの請願を無視すると、こがんとは聞かれんということで担当課に流されたんですよ。

8月24日、その後、亡くなりましたけれども、伊藤事務局長が、うちに来られました。伊藤さんが、つき合いですので。そして、地図を見せていただいた。あの人は10月1日に行ったと思いますけれども、地図を持ってきて、ゆきちゃん、がんしとるばいて、見れば、その地権者の方の土地が半分以上ぐらいあるんですよ。だから、これを無視しては処理場ができないということで、ぜひともその陳情者に会いたいということでうちに来られた。私も一緒に行って、それで無理なのは聞かれんよと、しかし、聞かれることは聞くよということで

テーブルにのってくれという話をこのときされたんですね。余り言いたくないんですけども、だから、そういうことで非常に局長は忙しかった、10月に行かれても。当時、再検査を言われとったつですよ。しかし、忙しさにかまけてじゃないですけどね、次に行ったときが、御承知のとおり、手おくれやったんですね。こういう事務局対応、だから、自分が事務局に行っても一人だったんですね。地域住民軽視ですよ。井戸水を飲むときには井戸を掘った人の苦労を思い出せというように、最終処分場いいですよと言ったのは松浦地区だけなんですよ。その松浦地区の住民の方の地権者の方を無視せろという、この事務局態度は絶対許せない。当時、樋渡市長はその対応を知らされていたかどうか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今でも伊藤さんには申しわけなく思っています。伊藤さんは御存じのとおり、市民病院の民間移譲で私の右腕となって辣腕を振るわれて、彼がいなかったら今の病院というのはないというのは、議員の皆さん、あるいは市民の皆さんたちもそれは認識を共有していただけるものと思うんです。私は、その実力を買って、当時、物すごくもめていたんですね。これ難しい話なんですよ、やっぱり。ですので、私はエースの伊藤を、これ非常に僭越だと思いましたが、伊万里に事務局長として頼み込んで送り込みました。まさに私の右腕として送り込みました。それで、伊藤は私に心配をかけたくないんでしょうね。うまくいっていますということを書いて、これが露見したときに、僕は伊藤を怒って呼びつけました。何だこればって言ったときに、今でも思い出すけど、僕に深々と頭を下げられましたよ。彼は一切事務局の何がしのせいにはしませんでした。全て私の責任だって。侍でしたよ。それを思うと、当時、事務局の一人が、多分伊藤を除いて全てそうだったと思うんですけども、地域住民軽視、行政の論理で押し通そうとしたということについて、本当に今でも私は腹立たしく思っていますよ。これがその後も続くんですよ。ですので、今、伊藤は非常に残念がっていると思いますよ。自分がいたら、こうはならなかったのにな。ですので、僕らは伊藤がどういう——呼び捨てで申しわけない、部下ですので。伊藤がどういふ思いでこれをまとめようとしたかということをもう一回きちんと思いをはせる必要があると思っています。

ですので、私は当時、事務局対応については、この件については後で伊藤から、しかも、自分で責任を全部負いかぶさった上で聞いたので、正確には知りませんでしたけど、そのときの伊藤の気持ちを思えば、これは繰り返しになって恐縮なんですけれども、我々は伊藤の遺志をきちんと引き継いで、しっかり対応しなきゃいけないなというように思っております。でも、今事務局も大分変わってきました。変わってきましたので、それで、今、岩瀬を、伊藤に次ぐエースとして今活躍してもらっていますので、私は岩瀬には全幅の信頼を置いていますので、我々とすれば岩瀬がしっかり働きやすい環境をきちんと整えてあげること

について、今、日々心を砕いているところであります。岩瀬に期待をしています。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

本当にありがとうございます。

今、岩瀬君が、もともと伊藤さんと仲もよかったし、いろんな考え方も一緒ですし、今頑張っております。そう言いながらも、やはり4市5町でございますので、大変意思疎通ができないところがあります。それは私も一緒に頑張っていきたいと思っておりますけれども、本当に地元の安全・安心のため高度な環境技術を求められたんですね。こればせろ、あればせろと、非常に難しい注文をされております。先ほど言いましたように、4市5町の財政上を考え、本当に切り詰めた予定価格を下げられたんですね。最後の1社まで逃げるのではないかとというぐらい、技術を上げて価格を下げたんですよ。しかし、それでも新聞に書かれて、1社のみだと、談合みたいに書かれますからね、情けないんですけどね。

これは後で話しますが、そのためにせっかく奔走された伊藤事務局長に敬意を表します。心より伊藤さんの御冥福と御霊が休まらんことをお祈りいたします。

それまで、先ほどいみじくも書いてもらったからわかりますように、目的を決めて、ひどく言えば、どこの処理場に決めるという検討項目を書いたようなのがこれですよ。セメント原料化方式に決まるときに、検討部会での評価項目というのはこういうものだったんですね。公害防止とか温暖化負荷とか最終処分負荷、資源エネルギー負荷、安全・安定10点、こう書いてある、これが30点です。100点ですね。こういうもので審議をして、あれが悪い、これが悪いにして、最終的に資源的にセメントしかないよとされたんですね。よく見てください、ここのところ、赤をつけました。安全・安定稼働はわずか10点ですよ。今考えたらぞっとしますね。安全・安定稼働が10点で、とぼけるなということですね。地域住民に配慮したというよりも4市5町に配慮してもこういうことにはならない。つまり安全・安心・安定稼働が60点以上なからんばいかんですよ、半分以上。私はこれが全てと思っているんですよ。安全・安心・安定な稼働が全てと思うんですよ、少々高くてもね。それが見てください、わずか10点で計算されておるんですよ。そういう評価をしてセメント原料化になったんですよ。じゃ安全・安心・安定な稼働は何かということで3年間かけて伊藤さんを先頭にして頑張ってきた姿なんですよ。

市長にお伺いですが、セメント原料化検討時点で松浦地区の安全・安心、再資源化が重要視されてなかったかという心配をしますけれども、どのようなことでしたのか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も当時——ちょっと宮本議員、よろしいでしょうか、答弁中ですので。あなたの言っていることが物すごく入るんですよ。

再資源化については、当時、私も副管理者ですので、この議論が一番多かったんですね。ただし、この中でやっぱり問題点が出てきて、コストの問題です。コストの問題が出てきたということと、もう1つは出てきた再資源化の物質ですよ。これを県外に出さなきゃいけないという話があって、まさにこれ核燃料の、NHKでも特集があったように、あれを県外に出すような話と同じようにとらえられていて、これはなかなか問題でしょうという話があったんです。その中で、当時、福島原発がああいうふうになる前の話でしたけれども、議論の中で、これも一回ちょっと安全・安心に見直そうよということを最初に言ったのが伊藤さんだったんですよ。伊藤さんがおっしゃって、最初どうかなと思っていたんですけど、だんだん伊藤さんが切々と話をされて、それはやっぱりそうだよ。これ恐らく福島原発がああいうふうになった後だったら、この議論というのは誰でも話ができます、安全・安心が一番だって。しかも、そういった再資源化されたごみを県外に持っていくのは、それはナンセンスな話ですよっていうのは、今だったら言えるんですけど、あの当時、そうなる前に伊藤さんがそういうふうにしたというのは、やっぱりさすが伊藤だと。

それで、さっきちょっと言い忘れたんですが、これ大事な話なんであえて言いますが、僕、病院に行けてしよっちゅう言っていたんですよ。顔色がやっぱり悪かったんですよ。それで、病院問題で活躍をしていたときは、もっとふくよかで迫力もあったんですけど、だんだんだんだんやせていって、病院に行けと言ったときに、いまだに忘れられない言葉があって、私はこれがめどが立ってから行きますって、これがめどが立たない限りは、私は病院は行けません、私は今までいろんな病気も克服してきたので、私はもう大丈夫ですよということを言って、あのときにいまだに後悔していますけど、早う行けともっと言っておくべきだった、首に縄をつけて、黒岩さんと僕とで引っ張っていけばよかったと思いますよ。それはもう詮ないことではあるんですが、それだけ伊藤がこの事業に心を砕くどころか、生命を賭して頑張っていたというのは、ぜひ市民の皆さん、議会の皆さんたちも認識をしてほしいなというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、市長が言われたように、一生懸命仕事をしたということを取り上げたいんですよ。決して情にすぎる気も何もないですけども、安全・安心であれだけ頑張ったのはほかになんかと思うんですね。

これはダイオキシンがどのように論議されたかということですけども、私たち建設常任

委員会はあちこち行ったんですね。まず研修しようということで、これは姫路市にありますエコパークあぼしというところに建設常任委員会で行ってまいりました。ダイオキシン問題ですけれども、ダイオキシンというのは、200トン以上は1立方メートルに0.1ナノグラム以下なんですね。うちも0.1ナノグラム以下なんですね。0.1ナノグラムというのは、ナノグラムってなかなかわからんですね。0.1ナノグラムというのは10億分の1グラムなんですね。ナノグラムの世界はですね。そうしますと、1メートル、1メートル、1メートル箱に10億分の0.1、つまり100億分の1グラムなんです。それはわからん。これ単位を変えたらこうなるんですね。1キロ、1,000メートルの中にそれでも0.1グラムあるんですね。これもまたわかりにつかいですね。それだけダイオキシンは猛毒であるということですね、ベトちゃん、ドクちゃん、遺伝子に傷つける、カネミ油症問題、みんなダイオキシンですよ。これが余り議論されていないようにしか見えない。それは先ほど言いましたように、溶融できていないものは違約金を取るでしょう、溶融できてなかったらダイオキシンが出るんですよ、当然のことですよ。

これもエコパークあぼしの例ですけれども、法規制は0.1ですね。そして、あぼしでの自分のところの規制は0.05ナノグラムなんです。つまり、ダイオキシンというのはいつも言うように自然界に存在しませんね。人類がつくり得た化合物なんですね。ダイオキシンが猛毒であると片時も我々ごみを扱う者は忘れていかんと思う。その測定値、0.000034ナノグラム、もう天文学もはるかに超えた、ほとんど出ない炉なんですね。エコパークあぼし、そういうところにやっぱり見るべきなんですね。

これはうちと一緒に焼くんですよ。だから、ごみ焼却、ダイオキシン、当然しょっちゅう出なければならぬんですけれども、こういう資料が本当に見比べられたのかという疑問を持ちますけれども、いかがでしょうか、答弁を求めます。担当課長でよかですよ。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

ごみ焼却とダイオキシンの件でございますが、これにつきましては提出されておりました。ただし、環境省の基準につきましては、説明がっております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

それが部長さんね、それが私が言うように、目的を持たずに入札するじゃないですけど、論議すればそうなるということですよ。だから、ダイオキシンが一番難点と思いながら行かなければ、だから、最初一番は再資源だったんですよ。もっと言えば、怒られるかわかりませんが、福岡県が一番困っているのがセメント会社ですからね。

これが火力発電と廃棄物発電の違いですけれども、これもあぼしですね。見ていただきたいのは、ここですね、皆さんね。これ建設常任委員会で行ってきて覚えたんですけれども、火力発電といえども43%しか効率がない。ごみでも10%以上ありますよということなんですね。これからごみ発電は絶対注目されますけれども、今言われているのが、発電端効率23%を目指して頑張っているという話が、これはインターネットで引けば出てきます。シャフト炉式ガス化溶融炉の特徴を生かした高効率発電への取り組みということで載っております。

これはあぼしに聞いたんですけれども、平成23年度の発電量、これは事務局で先日この分は、22年は聞いてきておりましたので、調べていただきました。

23年度の発電量4,173万キロワットアワーですね、これは400トン。キロワットアワーというのは電力ですよ。1キロワットを5時間つければ5キロワットアワーの電力が要りますよという意味なんですね。ワット数に時間を掛けたのが電力ですね。だから、4,173万キロワットアワーが400トンで出ているということは、うちは200トン、200トンであれば当然2,000万キロワットは出ますね。お金が、電気事業買取制度価格というのが、何でん40円と思うたら違うとったですね。太陽光が42円、キロワットに変わりますけれども、風力が一番高い、57円ですね。そして廃棄物燃焼発電、これもいろいろあるんですよ。うちの場合は17円で買い取ってくれるんですよ。そうすれば、2,000万キロワットが出る、17円だとすれば3億4,000万円、発電エネルギーが出るんですね。そういう売電価格の比較検討はされていたのか。

こうしましょう、時間がないですから、されていなかったと思うんですけど、されていたら手を挙げてください。——されていないですね。

だから、こういう大きなものを逃した。つまり、最初から言うように、わけありの入札だという話をしましたね。決めているからこうなっていくと思うんですね。先ほどの評価点も一緒ですよ。しかし、こういう大きなものが隠れているんですよ。毎年ですよ、3億4,000万円は。もちろん、そのうちの約4割、1億4,000万円ぐらいは自分のところで使えますからね。あと2億は売電できる。灰溶融はこの電気を使って溶かすんですよ。だから、今もうほとんど灰溶融は撤退でしょう。もったいないからですね。そして、高温が出ないのでスラグの質が違うんですね。これを我々研修で皆さんの税金を使って行って覚えてきたところですよ。

そこで、1社入札、落札率98.88%、これは伊藤さんが頑張った成果ですので、ぜひとも皆さん覚えていただきたいと思います。

市長さんね、これ伊万里の実際やった、ここは入札結果と調査兼報告書、これはほかの事業ですよ。ほかの事業ですから、こういうふうになるということですね。ここは入札参加者が7業者あります。このところでは予定価格と最低制限価格がありますね。ここに落札価格が入っております。そして、ここが入札金額が出されている。この枠の中ですけれども、

これを見ますと、このときは予定価格が4,600万円、そうすればA、B、C、D、E、Fの7業者がこういう入札がずっと入っているんですね。最低制限価格が3,800万円ですよ。そうすれば、3,800万円切っていないので失格になりませんので、落札になりますね。部長さん、これでよかでしょう。——ここにありますね。

このときは落札率が82.8%になります。しかし、伊藤さんはこれじゃないですよ。こういうふうに頑張った、予定価格を下げた、3,900万円落としていった、そうすればここから上はできないので、入札を辞退するということになるんですよ。辞退する、そうすればこれは同じ金額でも、今度は落札率が97.7%になるんですね。こう変わっていくんですね。だから、この歩掛かり表というんですか、それで4,600万円が出る。この差が大きいから、武雄市はそういうことないですよ。大きいから話し合いをして、高どまりで落とそうというのが談合でしょう。彼はそういうことを絶対させんために頑張って頑張って落としてきたんですよ、98.88%でとれるようなね。だから、それは彼の名誉のために言っておきますけれども、1社落札で98.88%、よく頑張ったなと私は言いたいですけど、市長どう思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この経緯は私も後で知りました。伊藤が本当に頑張っていったというのは、議員がおっしゃるとおりなので、やっぱり思うんですけど、僕がランニングしていたときに、中学生から言われましたよ。余り市長さん、栄八さんの通信ば余り上げるぎいかんて、まともに読みよる人は誰もおらんとということを言っていましたので、それもそのとおりだと思っていますので、多分伊藤も今、西方浄土ではこのやりとりというのは笑って見ていると思っています。

ただ、我々としては、先ほどの黒岩幸生議員の御質問と私の答弁で伊藤の名誉は完全に回復されたというように認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これシャフト炉ですね。これ間欠出湯ですけども、これ電気のでき方ですけども、ちょっと見とってください、皆さん。こういうことで、ここに発電機を回して電気エネルギーが来るんですね。ごみを高温で燃やして、電気エネルギーで回収するということを外せば、それは地球温暖化は悪いわ、どこが悪いわ、金にかかるわで大変なことですね。一番大きな電気エネルギー回収ということをうちはやっていくんだと自信を持っていいと思うんですね。つまり、2,000万キロワット掛け17円、3億4,000万円の発電エネルギーを持つ施設ができつつあるということを最後に申し上げまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございます

ました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で23番黒岩議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、10分程度休憩をいたします。

休	憩	10時30分
再	開	10時40分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、20番川原議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。新政策研究クラブの川原でございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから私の一般質問を始めさせていただきます。

今回は大きい項目で3項目、産業関係、それから行政関係、そして教育関係ということで質問をしていきたいと思っております。

まず、産業関係の中で、地場産業の振興ということで取り上げております。この中の1つ目は、市の産品、特産品の販売促進及びPRの取り組み、2つ目には、FB良品の現在の状況等について、3番目には、市長が先月行ってこられましたシンガポールでの商談会、その内容について、そして4番目には、イノシシ肉の普及について、最後の5点目といたしましては、トロピカルフルーツの現状と今後の方向性についてお伺いします。

また、行政の関係では、1つ目に、4月から本格運行をするみんなのバスについて、それから2つ目には、昨年9月議会でも取り上げました債権管理条例の制定について。

最後の教育関係では、1つ目に、教育の再生について、2つ目に、ICT教育の方向性について質問をしていきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

では、まず地場産業の振興の中で、武雄市の産品及び特産品について質問をいたします。

本市の特産品として思い浮かぶものは、若楠ポークとか佐賀牛、そしてイノシシ肉ですね、そういった肉類、それから、米、キュウリ、タマネギ、チンゲンサイ、そういった野菜、また、ミカン、イチゴ、柿、ブドウ、そういったフルーツ類、こういった農産物ですね。それからまた、手づくりハムとか、みそ、麺類、お菓子など加工食品、ほかにも焼き物とか、いろいろたくさんあると思っておりますが、このような武雄市の特産品をいかにこれから売り込んでいくかということが生産者の所得の向上につながっていくというふうを考えるわけでございますが、今、本市ではどのように販売促進、またPRに取り組んでおられるのか、武雄市の取り組みについて、まずお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

3本の柱を掲げてやっておるんです。1つが、例えば物産まつりであるとか、市民の皆さんとか県民の皆さんとか国民の皆さんがお越しいただいて、実際の物に触れていただくということで、物産まつりを中心とした各種イベントですよ。これは市内でやっていくということ。それと連携して、まず数は少ないんですけど、お店であったり、そういった武雄の特にイノシシを中心とした特産品を出してもらうように、市内の取り組みを全面的にバックアップするということがまず1点。

それと関連して、（市報を示す）これは今月号の市報なんですけれども、今月号だったら昭和のイタリアンのS o u R c eさんを特集しています。今まで行政というと、全部並べて、全部だめだったということなんですけど、我々は縦の公平性、すなわち今月号はS o u R c eさん、次の号は何とかさんというふうにして、こういうふうにメリ張りのついたお店を出すことによって、出されたお店、今まで4つか5つあるんですけども、全て前年同月比で3割から、多いところは倍増しております。それは、とりもなおさず市民の皆さんたちがよく知っていただいて、市の頑張っているお店に行っていただくような誘導線として、今、市報を活用しています。

これは別にレストランだけじゃなくて、例えば今回、山田花屋さんを出しましたけれども、武雄中学校でこういうふうにはートのを出していただいたりとか頑張っておられますので、そういう頑張っているところも応援をします。あわせて、こういうお店があるんですというのを、食べるころ、食べないころにかかわらず、出すことによって、しかも、これはフェイスブックに載せていますので、この市報を外の人が見て、今どんどんやってきているという状況になっているというのは、まず1点。

2点目がF B良品です。F B良品でいろんな特産品を出していて、先ほど黒岩幸生議員からありましたように、武雄の名前をきちんとつけた上で、これは全国に出していくということ。通販ですよ。この通販がきっかけとなって、これまたおもしろい現象が起きていて、きょう食べに行こうと思っておりますけれども、朝日のオイランタンが冷凍カレーを出されていて、お店に行くとはよくわかるんですけども、あれなんですよ、「何で来たんですか」と。今、県外ナンバーが結構いっぱいとまっているんですよ。そしたら、「F B良品で食べて、本物を食べに来ました」というので、「何でこがん遠かところまで来っとですか」と聞いたとですよ。そいぎ、「このわざわざ感がいいんですよ。この後、武雄温泉に入っていきますから」というので、そういう意味でいうと、武雄温泉がそういう意味でいう付加価値にもなっているんですね。だから、そういう通販ということですね。

あと、焼き物もそうです。これはちょっと言ったかもしれませんが、2品しか売れんやっただすよ。買ったのは僕ともう1人なんですけど、もう申しわけなく思って、窯元の皆さんに言ったらね、「いや、ぜひ載せとってください」と。「何ですか」と言ったら、「FB良品の焼き物を見て、買いに来てくださるお客様がいらっしゃる」と。確かにそうなんですよね。通販で焼き物って余り買わんですもんね。だけど、それを見ることによって、実際に来てくださると。その後、武雄温泉に入って帰られるというふうにして、それが物すごく複合効果を生んでいます。

長くなりましたけど、3つ目なんですけれども、先週でしたね。先週、NHKのふるさとのフェアであったりとか、レモングラスでいうと伊勢丹の新宿店であるとか、例えば、高級スーパーの紀伊国屋さんのフェアであるとか、そういったところに我々は積極的に職員を送って、その中で職員が武雄の物産をきちんと宣伝しているということで、だから、幾つか分けてやっていますけれども、僕らは集中的にやろうと思っているんです。集中的に。今、おかげさまで、武雄という非常にいいイメージが——これは議会の皆さんたちのおかげなんですけれども、非常にいいイメージができていますので、少なくとも私が市長に着任をさせてもらったときからすると格段に売れやすくなっています。ですので、もう少し次のブランドね、やっぱり由布院ですよね。由布院のようにイメージができるように、今度、次の仕掛けというのは、そういうブランド構築をする必要があるだろうと。今、武雄は、ともすればフェイスブックであるとか、図書館であるとか、それで注目を集めていますので、次の段階というのは、さっき言ったように、いろんな特産品があります、あるいは温泉がありますというのをきちんと届くように仕掛けていくのが議会並びに我々行政の仕事だというように思っております。

余り足の引っ張り合いはやめにして、そういう前向きな方向で行ければいいなと思っていますので、僕も少し性格を直したいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

今、FB良品のことにも触れていただきましたけど、国内におけるFB良品の状況、そのあたりについてお伺いしたいことと、またFB良品の加盟自治体、今、10の自治体が加盟されておりますけど、どのような連携をとっておられるのか、そのあたりをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

FB良品の加盟自治体は、武雄市を初めとして、鹿児島県の薩摩川内市、それから岩手県

の陸前高田市、福岡県の大刀洗町、新潟県の燕三条市、栃木県的那須町、富山県の南砺市、兵庫県の多可町、沖縄県の石垣市、それから香川県の宇多津町の10自治体で今販売を始めております。

次年度以降も参加自治体はふえる見込みでありまして、20から30の自治体へ広げていきたいというふうに考えておるところです。

F & B（ファンバイ）良品は、昨年12月にほかの自治体のF & B（ファンバイ）良品も閲覧、購入できるポータルサイトを構築しまして、情報交換や売り上げ向上を目指しているところでありまして、4月よりF & B（ファンバイ）良品運営の最高議決機関となる全国F B良品連絡協議会を設立しまして、さらに連携を深めていきたいというふうに思っているところです。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと2点修正します。

燕三条市という市はないんですよ。ですので、燕三条の商工会議所が主に運営をされていますので、これはちょっと修正をしたいと思います。

それともう1つが、F & B（ファンバイ）良品と今はもう言っていない。F B良品と統一をしました。これはちょっと失敗したなと思ったんですね。やっぱりこういう間違いがうちの中でも起きるんですよ。ですので、最初からF B良品と統一しておけばよかったなというのを今思っています。

ただ、こんなに伸びるといのはちょっと夢にも思っていなかったもので、実は今、非常に戸惑っています。そして、今、F B良品の担当者会議を武雄で先般開いたりであるとか運営協議会をつくったりとか、点じゃなくて面でオールジャパンに売り込みたいなど。ですので、もう少し平たく言えば、我々はアマゾン、楽天に続く第三極を今目指しております。どことは言いませんけれども、超大手通販の人が私と組みたいというふうに来ていますので、これは組むも組まないも、市民福祉の維持向上につながると、地域の所得向上につながるということであれば、それは組みたいと。ですので、僕らは別にあれなんですね、組むことによって今の価値がマイナスになるようなことはしたくないということなので、魂は売るつもりはありません。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

全国の多くの自治体と組んでいく、連携をとっていくということは、F B良品のアイテム的にもふえてきますし、当初、目標といいますか、商品アイテムを1,000点、それから売り

上げ年商10億円……

〔市長「無理です」〕

という目標もございますが、そういう連携をとっていくということで、F B良品がどんどんふえて売り上げ増につながっていくというふうに思いますので、ぜひこれは積極的に進めていただきたいというふうに思っております。

また、本市におきましても、F B良品に認定されていない商品、まだまだあると思いますので、そのような特産品ですね、そういう部分の掘り起こし、それについて何か対策を講じられるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは本当に御指摘ごもっともで、やっぱりまだ僕の伝播力が足りないなと思っている一つなんですよ。

ですので、今のところ6月にこれはちゃんと公募しようと思っています。公募をして、やっぱりインターネットを使えない人たちがF B良品を使いたいという人たちが物すごく実はふえているんですよ。これは佐賀新聞、西日本新聞にあれだけ大きく取り上げられ、特に、西日本新聞にあれだけ大きく取り上げられれば、それはやっぱり使いたいということなんですけど、ただ、御年配の方がインターネットの利用というか、活用がなかなか厳しいということで、できれば、これはよく議会と相談して最終的には決めたいと思っていますけれども、お歳暮のときに市報の別枠としてカタログを載せていこうと、それと電話一つ入れておけば、24時間365日いけるかどうかかわかんないんですけれども、ネットじゃなくて電話で対応をして、それで送りますということ、あるいは買いますということをやっぴり進めていく必要があるだろうと。

これは実際いろんな集まりに行くじゃないですか。みんなF B良品のことは結構知られています。だけど、残念なことに小売店主の方々がまだなかなか知らないんですよ。ですので、それは実際ちゃんと公募をきちんとする。公募をして、機会は均等にします。その上で、出したい人——これは何でも出すわけじゃありません。やっぱり売れないものを出すと、結局F B良品の価値が下がってしまいますので、やっぱり我々がきちんと目ききをした上で、F B良品の中の委員会が目ききをした上で出すということにしていって、繰り返しになりますけれども、お歳暮のときはやっぱり一番売れるんですよ。売れるので、それをカタログとして全世帯に配布をしていきたいと。そうすることによって市報で、（市報を示す）こういうふうに今回はS o u R c eさんを取り上げましたけれども、お店の宣伝にもなるんですよ。お店の宣伝にもなるし、実際、F B良品を使わなくても、ここに買いに行こうということにもつながっていきますので、これは一石四鳥、五鳥を目指してやっていきたいというよ

うに思っております。これはまたいろいろな異論、反論が当然出てくると思いますので、これについては、議会の広範な御審議をまたお願いしたいというふうにも思っています。それに我々は従っていきたくと。

いずれにしても、やっぱり知られるということは大事なんです。知られるって。ですので、先月号か先々月号かで泰山を載せたんですよ。北方町の黒岩議員さんの家の近くの泰山を出したときに、「知らんやった。ああいうふうに掲載してもらって、行ったらやっぱりおいしかった」ということで、聞いたら週末はほぼ満席です。ですので、そういう意味でいうと、我々は議員が最初におっしゃったように、掘り起こしという、やれ広告だとか、あるいは何かいろんなお金を使ってとあるんですけど、今あるものを生かすという意味では、市報とか市のフェイスブックページをきちんと生かしていくということが大切だろうと思っております。

市報にこんなに威力があると思っていませんでしたので、そういう意味でいうと、もっと早くやればよかったなというようなことを反省しております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

確かに市報を私も見まして、ああ、いいなと思いました。それを見ていたら、ぜひ行ってみたいねというような感じがするわけですよ。ですから、そういう形でお店の紹介かれこれもぜひやっていただきたい。

そして、先ほどお歳暮関係、お中元、お歳暮、そういう形に本当にそういうF B良品あたりもどんどん使っていただけるようにコマーシャルをしていただきたいと、このように思います。

では次に、先月、市長が行かれましたシンガポールに、市長の演告でもちょっと触れておられましたが、シンガポールでの商談会の内容はどうだったのか、また現地のバイヤーの反応や手応え、そのあたりについてお伺いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

シンガポールの商談会は、山口裕子議員さんらと一緒に行了きましたけれども、やっぱりよかったですね。というのが、何が求められているかというのは、よくわかりました。何が求められているかというのは、よくわかった。これは意外と言ったら怒られるんですけども、文八工房って有田町——山内かな。実際、工場は山内にあって、これはF B良品でワインのキャップですとか、これは陶器で見事な文様で出しているというので、日本でも売れているんですけども、これはシンガポリーヤンが物すごくこれはいいと。あと、日本のバイヤー

もお見えになっていましたので、これの食いつきが物すごく強かったということと、あとは嬉野市長、伊万里市長も佐賀県内では御帯同いただきましたので、それぞれやっぱりお茶の手応えであるとか、いろんなものの手応えがそこでわかったと。あと、パッケージをこういうふうにすればいいとかというの、いろんなアドバイスをいただきましたので、そういう意味でいうと、やっぱりシンガポールというのはこれから一番伸びていく市場というのは間違いないし、ある意味、香港が飽和状態になっていますので、我々とすれば、香港は佐賀県にお任せ、これからはシンガポールに僕らは行って、ただ、武雄だけでやっても余り意味がないので、これは現地でも山口裕子議員とも話していたんですけども、なるべく多くの自治体を巻き込んでやっていこうということで、それは山口裕子議員さんがおっしゃるとおりかなと思っていますので、その制度設計はちょっとこれからちゃんと始めたいというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

本当に海外でそういう形で販売ができると、手応えもあったということで、本当によかったなと思っています。

それで、ことしの10月に設置を予定されているというようなことで、シンガポールの事務所ですが、その概要がわかれば。

そして、並行してF B良品の会社もシンガポールのほうに設立というようなことをちょっとお聞きしましたので、具体的にどのようなお考えをお持ちなのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

10月を目途に、2つ今考えています。

1つは、地方政府連絡事務所、在シンガポールですよね。これを立ち上げていきたいと。この前、場所であるとか、いろんな諸条件については実際見てきましたので、そこに出していくと。ただし、これは武雄だけではとても費用的にはちょっともたないので、特に佐賀県内を中心にして、いろんな自治体に幅広く呼びかけて、割り勘ですよ。人生割り勘、仕事も割り勘。それで、その事務所を設置したいと。

ただ、やっぱり日本の地方政府という冠というのは非常に効きますので、そこに私どもの職員を出したいと。少なくとも1人出していきたいと。当該職員は中国語堪能、ぺらぺら、英語もぺらぺら、日本語もそこそこですので、そういうバイタリティーのある人間を10月1日から赴任をぜひさせていきたいと。人は武雄市で出します。一方で、武雄市だけでやって

も、やっぱり情けは人のためならずですよ。やっぱり全体をやることによって武雄市の利益がきちんと上がってくる。これは国益だと思っていますので、そういう意味で、さっき言ったように、例えば事務所費用とか、さまざまなプロモーション費用というのは割り勘して出していこうと思っています。今のところ、最低でも10自治体は加わってくれるそうですので、そういう意味での拠点になると。

F B良品に関しては、これはその組織がやるというのはちょっとおかしな話になりますので、今、三重県の株式会社エクストラコミュニケーションズ、この前の商談会も主催していただいた会社が現地法人をシンガポールに立ち上げられますので、そこをお願いをして、F B Iを創設しよう。F B良品インターナショナルです。決して捜査機関ではありません。F B Iを立ち上げていただくということで、そことさっき言った地方政府連絡事務所というのはよく連携をして売り出す。

具体的に言えば、幾つかあるんですが、1つは、まず市場調査は絶対大事。全然わからないですから。市場調査が大事。マーケティングですよ。その次に、特産品の販路開拓であるとか、実際そこに物を置くであるとか、その次に多分通販というのは来ると言うんですよ、実際の通販が。ですが、なるべく10月のときにF B良品でシンガポールで出すものについては英語版をやっぱり出していく必要があるだろうと思っていますので、ことしの10月が一つの潮目になっていくのかなというように思っております。

ただし、これは誤解なきように言うと、F B Iに入らない、あるいはF B良品に入らない自治体を排除するつもりはありません。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

ありません。ですので、幅広くやる気がある自治体に呼びかけてみて、そこで一緒に点ではなくて面で、地方という面でやっぱり日本を売っていくということが必要だろうと思っております。

私から最後にしますけれども、シンガポールがうまくいった後は、次はオーストラリアに行きます。その次はアメリカに行きます。ですので、世界一周ということでF B良品が世界の第一極になるように頑張っていきたいというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

地方の自治体が世界に目を向け、そういう市場を開拓するということは大変すばらしいことだと思います。地域の所得の向上に向け、今後もまた市長にしっかり取り組んでいただきたいと、このように思ったところでございます。

では次に、イノシシ肉の普及についてお伺いをします。

現在、イノシシ肉を商品化したものはどのようなものがあるのか、また武雄市内においてイノシシ肉を食せるところ、食べられるところですね、こういう店舗はどこにあるのか、お

伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

現在、販売しているイノシシ肉は、精肉ではロースやもも肉など7種類を販売しております。また、加工品については、ジャーキー、ハンバーグ、ウインナー、たれづけの4種類を加工センター「やまんくじら」やF B良品で販売をしているところです。

市内の飲食店で常時イノシシ肉が食べられるところは、旬彩このみ、それからレモングラフィティーハウス、それからセンチュリーホテルの3カ所です。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

今、市内では3カ所ということでございますが、イノシシ肉を武雄の特産品としてもっと拡販をするというには、そういうイノシシ肉を食べられるお店、料理店、そういうのもっとふやす。もちろん旅館でも取り扱っていただくというようなことが大変重要なことだと思いますが、そういう意欲を持った店舗に対して、市としての何か支援、そういったのは講じておられるのか、そのあたりについてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

市内の飲食店やホテル、旅館等には、イノシシ肉料理を出してもらうように働きかけを機会あるごとに行っているところであります。

意欲がある店舗においては、メニュー化するためのイノシシ肉の提供を行うとともに、定番化したらイベント時のチラシや雑誌等に情報提供を行っているところであります。

また、フェイスブック等を利用して店舗等をPRするなどの支援を続けているところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

そういう支援をこれからももっとしていただきたいと思いますが、この前、先日ですか、食談会ということをちょっと私もお聞きしまして、センチュリーホテルでパルファム、グランという——これはセンチュリーホテルのあれですね。その料理長の——すみません、これはセンチュリーホテルじゃなくて、竹林亭ですね。御船山の竹林亭で古賀料理長さんが食談

会、特別モニタープランということで開かれるということをちょっとお聞きしましたもので、そういうのを食べてみたいなと思って問い合わせをしましたが、残念ながら日帰りプランは満杯でだめでしたが、このようにフランス料理に武雄産のイノシシ肉を使われるということは大変PRになるんですね。

そういうことで、こういうイノシシ肉というのをもっとPRしたい。しなければならないと思っておりますが、このイノシシ肉の効能なんですよ、効能。体にいろいろいい、そういう効能。これは江戸時代にヤマクジラ——山内の処理センターも「やまんくじら」と言いますが、ヤマクジラと称されて、寒さ厳しい冬の栄養補給食、つまり薬食といいまして、ボタン鍋とされたそうでございます。

そのイノシシ肉は、牛肉や豚肉と比べて低カロリー、それから高たんぱく質ということで、疲労回復や美容にいいというふうに言われております。特に、女性にうれしいコラーゲンも豊富に含まれているということでございますので、このようなイノシシ肉の効能というのをもっと前面に出してPRすることが、このイノシシ肉のイメージアップにもつながってまいると思いますし、もっと市民の方にも食べていただけるんじゃないかと思っておりますが、そのあたりについてどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

おかげさまで、武雄町出身で、東京京橋の日本を代表するフレンチレストランのシェ・イノ——牟田議員さんと同級生だって聞きましたけれども、その彼が行うあしたの食談会はすぐソールドアウトなんですね。これもまた全国からお越しいただくんですよ。それは竹林亭の魅力というのもあるかと思うんですけども、場所は関係ないんですよ。魅力的なことをちゃんとやったら、わざわざお越しいただくということですので、これでやっていくということで、ちょっとあしたきちんと総括をしなきゃいけないと思っているんですけども、今後、もう少し市民の皆さんたちが気軽に参加しやすい——というのは、やっぱりイノシシを食べる習慣って武雄にないわけですよ、そもそも論として。ですので、例えば、議長さんがよく行かれている豊さんとか、そういったところにも呼びかけてみて、もっと広く市民の皆さんたちにお越しいただくような市民の食談会をどんどんやっていく必要があるだろうと思っています。やっぱりロコミにまさるものないですよ、ロコミに。

ですので、市民の皆さんたちがおいしかったと、もっと食べてみたいというのをいろんな方々に宣伝をしていただくような機会を今後つくっていかうかなと思っているのと同時に、その効能というのは、議員おっしゃるように、食べてみたときにきちんと申し上げるということも大事だと思っていますので、いろんな形で市民を巻き込んでやっていきたいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

ぜひそういう市民の方が気軽に行ける食談会をよろしくお願ひしたいと思います。

もう1つ御提案でございますけど、ここは市長も行かれたことがある「このみ」さんですね。そこで、もちろんイノシシ料理を出していただくわけでございますけど、このメニューにシシ肉のレモしゃぶ、これはシシ肉とレモングラスということでございますけど、レモングラスを使ったスープでシシ肉のしゃぶしゃぶを食べるということでございます。これに武雄温泉水、武雄温泉の水ですね、というのを使ったらどうだろうかということで、今、店主さんも研究もされております。

それで、私も思うんですけど、武雄のイノシシ肉、武雄のレモングラス、武雄の温泉水というマッチングというのができれば、もっと武雄温泉というのもこうなってくるし、こういうしゃぶしゃぶも、ああ、温泉水を使ったしゃぶしゃぶだなということで、もっと何か食べられるようになってくるんじゃないかなというふうに思いますので、そのあたりについていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

ありがとうございます。確かに温泉水というのも、なかなかいろいろ制約もあると思いますが、そういう部分に使える温泉水という形になれば、ぜひそういうことも実現できると思いますので、市のほうもぜひバックアップをお願いしたいと思っております。

では次に、トロピカルフルーツについてお伺いをしたいと思います。

一昨年、栽培状況を見せていただいたわけでございますが、その後、どのようになったのか。今の現状、状況ですね、それについてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

平成23年度より試験栽培を開始しておりまして、現在2年目になります。ことしは、リュウガン10本ほどに実をつけたところであります。25年度につきましては、ライチに実がなる見込みです。

現在、リュウガンが155本、ライチが15本、ジャボチカバが7本……

〔市長「余りいろいろ言うぎいかんばい。盗まるっぞ」〕

ということですので。これが状況です。

〔市長「企業秘密です」〕

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

現在の状況はわかりましたが、確かに栽培に携わっている方も、これを何とか武雄の特産品にしたいということで頑張ってもらえると思います。

では、これからこのトロピカルフルーツをどのように展開をしていくのか、今後の方向性についてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり商品として出すには、まだちょっと糖度が足りませんので、糖度が20%を超した時点が出せるときかなと。ちなみに甘いスイカと言われているのは、大体糖度が15%なんですよ。20%というと、もう強烈に、おっというぐらい甘い。

しかし、今どうなっているかという、ライチとかリュウガンとか国外産しかないんですよ。これは缶詰だったり冷凍なんです。おいしくない。ですので、我々とすれば、答弁書には販路開拓と言っていますが、販路開拓は要りません。実際、欲しいというニーズがありますので、そこにF B良品であるとか、いろんなお力をかりて出していくということをしようと思っています。

ですので、今、トロピカルフルーツ係なんですけど、実際出すときは、めでたくトロピカルフルーツ課に昇格させます。昇格させて、トロピカルフルーツ、T F 課ですかね。トロピカルフルーツ課長に据えようと思っている人がいますけれども、それが先人となって伊勢丹の新宿店とかいろんなところに切り込んでいくと。それをやることによって、実際やるときは恐らく契約農家という形になると思うんですよ。今、苗は一元的に管理していますけれども、契約農家の皆さんたちが所得が向上する。しかも、その農家の人たちがまた、米の傍ら、これもいいよねという形で広がっていくような仕掛けをしていきたいと思っています。

これはちょっと時間がまだかかりますので、2年後の目玉としてやっていく。その前に、いろんな販路とか商路とかというのは事前にもう話をしています。これはちょっと名前を言うわけにいきませんが、大手の通販の会社がぜひこれはやりたいと、一元的に取り扱いたいということになっていますので、これも議員の皆さんたちのおかげなんです。やっぱり武雄というと、何か非常におもしろい、新しい取り組みをしているというイメージがあ

るんですよ。ですので、そういう意味でいうと、議員の皆さんたちが前向き、後ろ向きの発言をいっぱいしてもらっていますので、非常に感謝をしております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

経済ベースに乗せるには、まだもう少し時間がかかると思いますが、仮にそういう形で市内で販売、栽培ができるというようなことになったときに、その果実として、いい製品ばかりじゃないと思うんですよ。その中に、どうしても不良品とか、ちょっとそういうのが出てくると思うんです。

そういったときに、ちょうどこの前、テレビを見ておりましたら、ダイエットのゼリーというテレビショッピングの通販があつておまして、ヒルズダイエットとかいってですね。それを見ていましたら、いろいろな種類があるんですけど、マンゴーとかバナナ、メロン、それからブルーベリー、オレンジ、その中にライチというのも入っていたんですよ。こう見ていると、ああ、そうか、ライチもこういうのに入るのかと思って、そういう商品的にはならない部分ですね、そういった分も生かしていけるということを考えてときに、こういう加工品的な部分にも回せば、もっと所得的にもいいんじゃないかと、そういった感じを受けたところですが、そういった用途ということもこれから考えていかなければならないかなと思うんですよ。そのあたりについてお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、そのとおりだと思うんです。今、ちょっと僕がびっくりしたのは、前、紀伊国屋さんのバイヤーと話していたときに、「市長、一番売れているのは何だと思いますか」と言われて、売れ筋、伸びているという意味で、ごぼう茶らしいんですよ。ごぼう茶が突発的に売れていると。何でごぼう茶、多分ごぼうを煎じたやつにお湯をぶっかけて、少し焙煎もすると思うんですけども、飲んだらやっぱりそこそこおいしいんですね。——そこそこじゃない。ちゃんとおいしいんですよ。これは流れていますから、余計なこと言えないんですね。ですので、おいしいんですね。

それで、そういうことかと。ごぼう茶が何で売れているかということ、ダイエットで、これも何かテレビが扱ったりとか口コミで売れていると。それで、今度F B良品の大刀洗でごぼう茶とレモングラスを組み合わせたお茶を出そうという話もしていて、これなんですよ。ですので、例えば、リュウガンであるとかライチは滋養強壮で非常に台湾とか中国の方々が好んで飲まれると。特に、リュウガン茶はお正月に縁起のいい、体がぼかぼか温まるという意味でも、例えば、ドリンクであつたりとか、あるいはタブレットですよ。今、物すごい

市場が伸びているタブレット。何と言うんですか、タブレットって。（発言する者あり）食べるやつね。多分ちょっと間違いました。

ですので、そういう加工して付加価値をつけて出していくということもあるだろうというように思っていますので、単体で出せないものは、そういうふうにして加工して出していくと。そのためにも、やっぱりブランドなんですよ、ブランド。だから、2年後にもう少し武雄のブランドが上がっておかないと、やっぱりこれはなかなか見向きもされませんので。これは議員も同じだと思うんですけども、やっぱり知られているということはすごい大事なんですよ、知られているというのが。やっぱり知っているのと知らないのと同じのが出てきたときに、値段が割高であっても知っているほうをみんな買うんですよ、消費行動として。

ですので、やっぱり今すごく知られるということ、武雄市に図書館が今度リニューアルオープンするということもあって、もっと武雄が知られるということに僕らはもっと注力していかなきゃいけないなというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

ぜひ2年後、3年後にそういう形になっていければと、そのように思っております。

では、次に移ります。

次は行政関係ということで、みんなのバスの運行について質問をいたしたいと思います。

みんなのバスが実験運行を終えました。それで、4月1日より本格運行ということになるわけですが、これまでいろいろな検討を重ねて、地域の利用者の声とかをもとに、いよいよ本格運行するわけですが、これまでの経緯といたしますか、それと今後の運行の趣旨、それについてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

みんなのバスにつきましては、4月から本格運行ということを予定しております。これまでは、平成22年9月から実験運行という形で行ってまいりました。

（モニター使用）この間、みんなのバスにつきましては、実験運行で約3万5,000名の方が乗車いただいております。月間に換算しますと1,250名、1日に50名強の方が乗っていらっしゃるという形で利用いただいております。今度、新年度からは最適なダイヤ等を考えまして、ルートの見直しを重ねてきたところであります。

これまでの実験状況を踏まえまして、永続的に持続可能な交通という形で継続をしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

有償化ということでございますが、この有償化をするということで、これまでの利用者に対してどのような影響をお考えなのか、そのあたりについて伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

有償化しますと、利用者が減るということを想定しております。実験運行段階では、先ほど3万5,000人と申しましたが、1年に換算しますと約1万5,000人という形になります。この数字が1万人程度になるのではないかと想定しているところであります。

ただ、そうでありましても、減少するにしても、とにかく、これまでバスにつきましては、民間がバス路線からずっと撤退していくという状況が続いてきております。こういうことから、やはり自前で運行可能な制度設計という形で考えているところでございますので、御理解をお願いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとここは大事な点なんで補足しますけれども、私はただがいいと思ったんですよ。ただがいいと思ったんですが、ちょっと重複するかもしれませんけれども、いろんなアンケートであったりとか、いろんな御要望を實際承っている中で、やっぱりただだと、どうしても市が負担をするということになって、継続できないんじゃないかと。だから、私たちが幾ばくかでも払って継続ができるんだったら、ぜひ継続をしてほしいという本当に切実なお声がありました。ですので、これを僕は反対だったんですけども、やっぱり多聞第一、いろんなお声を聞いた上でかじを切るということ。

それと、これはうちの企画課はよく頑張ってもらったんですけども、これは有償化すること、すなわち旅客運送になることによって特別交付税80%の措置の対象になりますので、そういう意味でいうと、二重、三重に、使っていない市民の方々の負担も減るということになりますので、そういう意味でいうと、有償化というのは持続せしめるという意味と市民負担という観点からすると、やっぱりこれはやむを得ない措置と言ったらちょっと語弊があるかもしれませんが、私自身はこう思っております。

そして、やっぱり何でこれが総体的にうまくいっているかという、まだ海のものとも山のものともわかんないときに、例えば、サクセスの川口喜三郎社長さんであったりとか、あるいは新武雄病院さんであったりとか、武雄中央ライオンズクラブさんであったりとか、快くバスを寄贈してもらったんですよ。これは普通の自治体だったら、行政が買え、買えと言

われるんですけど、やっぱりこの団体であったり個人の皆さんたちというのは、市民負担をそれでするのは本末転倒でしょうということで御寄贈をいただいたという意味でいうと、サクセスの川口喜三郎さん、新武雄病院さん、そして武雄中央ライオンズクラブさんには、この場をかりて、また重ねて御礼を申し上げたいと思っていますし、またバスをお待ちしております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

先ほどの部長の御答弁で、有償化することで利用者の総数が減る。年間延べ1万5,000人が1万人ということの御答弁がございましたが、ということは、今まで利用された方の5,000人ほどは今度利用しないという形になるわけでございますが、何でしないのか、そう減るのか、そのあたりについて、わかってあったらお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

（モニター使用）少し文字が小さいのですが、これは地元にお配りしております地図をここに示しております。山内町を例にして言いますと、ピンクのところ、船ノ原地区を回る路線、あるいは今山のブルーのところ、こういうところでみんなのバスを走らせております。今山地区のブルーでいきますと、今山の北のほうから三間坂駅まで行くという形で、三間坂まで用事があるというような方については、長距離になりますので、乗られるということはあるかと思いますが、大野病院ぐらまで行くときに、ちょっと歩いてもいいねというような方については、若干その料金との関係を考えられる方もいらっしゃるんじゃないかと。これは事例ですよ。

そういう200円という有償化の部分ですね、この辺とのバランスが出てくるのかなということで試算上は想定したところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

この200円という料金が、先ほど市長ただでもよかったんだということもおっしゃいましたが、やはり経済的に困窮しているといいますか、生活弱者、それとか少ない年金で生活されている高齢者の方にとりましては、やはり若干重いんじゃないかと。もちろんいろいろなアンケート調査もされて、料金設定もされたとは思いますが、そのあたりの配慮といいますか、そういうのは行えなかったのか。

例えば、本当は200円なんですけど、半額の100円にする、そういう一つの証明のパスみたい

なものを与えて、それを見せていただければ100円になりますよとか、そういった弱者に対してのそういう配慮というのはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘のとおりなんです。これはアンケートを我々がとったときも、そういった声が幅広く寄せられておまして、今のところの制度設計では、障がいをお持ちの方、これは証明をいただくことになるんですけども、半額の100円と。それで、生活保護受給対象世帯、受給者の方に関しては、交通費の中で見るということになりますので、実質ゼロ円ということになってまいります。

ですので、生活弱者であるとか身体的にハンディキャップをお持ちの方であるとかというのを、やっぱりみんなのバスですので、皆さんに乗っていただくという意味では、最大限の配慮をしてみたいと、このように考えております。

そして、実際また運行をするに当たって、もっとこういうふうにしたほうがいいよねとかになった場合については、さらに修正をかけていこうというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

もともとみんなのバスは、交通不便な地域に住む高齢者、そういった方たちの買い物とか通院ですね、こういうのに行くのが本当に大変だからと、その移動手段として始めたわけでございます。ですから、このような高齢者、弱者が一番必要としている、いわばそういった事業だと思います。ですので、ぜひそのあたり御検討いただきたいというふうに思います。

それから、2点ほどちょっと確認でございますが、料金のことでございます。

今、小学生以下と障がい者の方は100円というふうになっております。そしたら、小学生以下ということでございますので、幼児も入るのか、それから乳児、赤ちゃんですね、そのあたりはどのようになるのか、そのあたりについてお伺いたします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

陸運局の認定を受けて、バス交通の認定を受けるという形になりますので、通常のバス事業者と同じ取り扱いになります。通常のバス事業者が小学生以上は有料でございますので。乳児は無料でございます。一人で乗る場合は1歳から料金は発生しますが、大人と一緒にありますと、子ども1人分はただというのが、いわゆる通常のバス事業の認定を受ける場合の料金体系ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

わかりました。

では、みんなのバスの最後の質問でございますが、さっき映っておりましたが、今、運行しているみんなのバスが余りにもちょっとシンプルな部分で、これをもっと目立つように車両に子どもたちの絵でも描いたらどうだと、こういう質問が以前、上田議員さんからあったと思うんですよ。そのとき、財源的な部分があるのでということで、今のところまだ実現はしておりませんが、今回、せっかくの本格運行ということで始まるわけでございますので、ぜひそのあたりも実現をしていただきたい。

そしてまた、そういう財源の問題でございますけど、それは車両の一部に企業等の広告を載せるとか、そういった広告料をラッピングのほうに充てるというようなことも考えられると思いますので、そのあたりをぜひ実現していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

川原議員、補助金額については、一応今回の予算に上がっておりますので、そこら付近の特に……

〔20番「はい。もうこれで終わります」〕

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕は企業広告については反対です。というのは、みんなのバスというのは、やっぱりみんなのバスなんです。ですので、財源が足りないからといって、それを企業にして、その企業の名前をそこに出す——いや、今でも寄贈いただいた新武雄病院さんとか、武雄中央ライオンズクラブさんであるとか、あるいはサクセスさんは入れてはいますが、それはそのものをいただいていますから、それは意味があるんだけど、企業広告という観点で絵を塗って、そこに何とかと描かれると、それは何か市民の、少なくとも僕は何かそれはちょっと違和感があるなと思っています。

ですので、もしそれをやると——ただ、目立たないというのは事実なんです、僕の性格と一緒に。目立たないというのは事実なので、それはいかにして目立たせるかということについては、ちょっとやっぱり考える必要があるだろうと。ただ、ラッピングすると1台につき少なくとも50万円から100万円かかるんですよ。ですので、それも踏まえて、やっぱりちょっと考える必要があるだろうと。目立たないということは僕も非常に心苦しく思っていますので、ぜひ川原議員が私たちの知らない間に塗っていただくということを期待したいと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

私もいろいろ考えたんですけど、その財源をどこから出すかということで、一つの御提案を申し上げたわけでございます。

やはり市民に愛されるバスといいますか、そういう形で今後も運行ができればと、そういうふうに思っております。とにかくこのみんなのバスが、みんなが乗れるバスにぜひしていただきたいというふうに思っております。

では、次に行きたいと思います。

次は債権管理条例の制定についてお伺いをしますが、これは先ほど申しましたように、昨年9月の議会で取り上げた分でございます。

その後の取り組みの状況について進展があったのか、そのあたりについてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

現段階の状況でございますが、債権管理の方法、あるいは事故の取り扱いなど、調整事項を整理しているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

今、整理をされているというような御答弁でございますが、市の債権については、市が滞納債権について、地方税法の例により滞納処分をすることができるといった強制徴収債権と、また強制徴収するには裁判所の決定を受ける必要のある債権、また私債権とありますが、そういう滞納債権として問題になるのが非強制徴収債権や私債権と思いますが、これにはどのようなものがあるのか。この内容ですが、どのようなものがあるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

非強制徴収債権でございますが、公債権のうちでは農業集落排水事業使用料、生活保護費の返還金などがございます。

私債権におきましては、住宅使用料、奨学金の貸付金等がございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

非強制徴収債権や私債権は滞納処分が行えないので、何度も何度も督促をしなければ納付に応じてもらえないというような状況もあると思います。

それで、現在の滞納状況についてはどうなのか、その点についてお伺いしたいと思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

滞納状況でございますが、平成23年度の決算ベースにおきましては、収入未済として28債権、合計1億3,700万円程度でございます。

主なものといたしましては、住宅の家賃、これは4,600件の5,500万円、水道使用料、これは2,500件の6,800万円、また災害援護資金貸付金の返済金では17件、270万円というふうに、一部でございますが、このようなものがございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

かなりの額の収入未済額があるわけでございますが、その滞納債権の徴収を行うには、どんな業務ですね、どのような業務を行って、それからどれくらいの時間を費やしているのか、そのあたりについてお伺いしたいと思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

業務でございますが、各債権を管理している担当課におきましては、督促状の発送、あるいは債務者との交渉、分納、猶予などの処理を個別に行っているということでございます。それと、収納対策室におきましては、市営住宅の家賃及び保育料の担当課と共同いたしまして、年に四、五回、一斉催告や年間20日程度の夜間を中心とした集中した戸別訪問を実施いたしております。

また、一斉催告の前段でも、担当課におきましては自主的な納付をお願いして、督促状の発送を行っております。また、市税とか住宅家賃、保育料にあわせて、出納閉鎖に向けて5月中にも15日間程度、夜間、休日の戸別訪問を実施して、折衝を行っております。

水道課におきましては、水道使用料の滞納者に対し、毎月の督促状の送付、さらに3カ月ごとに停水予告通知の発送、悪質滞納者には停水処分を実施いたしております。

これらの業務をするには、相当の時間をかけているというのが実態でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

大変よくやっただいただいていると思いますが、かなりの時間も要するというございます。

例えば、債務者が無資力、つまり財産がないと、それからまたこれに近い状況にあつて、資力の回復が望めない、著しく困難というような状況で、明らかに徴収ができない、徴収の見込みがない、そういった場合というのは、どう頑張っても取れないといひますか、だめなわけで、そういった督促に多くの時間を割くよりも、今の現年度分の徴収にもっと力を入れたほうが新たな滞納者をふやさないといった意味でもいいのではないかと思ひますが、ぜひそういう方向も考へて切りかえるべきではないかなと思ひますので、そのあたりについていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

今年度からは、現年度分について納期までに納入できていない方については担当が電話催告をいたしておりますが、既に滞納されている方、これに対する対応について、相当の時間を割いているというのが現状でございます。

御指摘のように、滞納者、滞納額を減らしていくには、新たな滞納者をつくらぬというのが肝要かというふうに思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

地方自治法第96条では債権の放棄は条例の定めにより可能と、そういったことございます。が、他市においては債権管理条例を定めて、どうしても徴収できない債権の定義をして、それを放棄できる旨の条例を制定されております。

武雄市におきましても、ぜひ条例制定の上に効率的な徴収を行い、そして税収増に取り組んでいただきたいと、そのように思ひますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

他市の事例もございますので、債権管理条例につきましては、25年度中に制定できるように進めていきたいというふう考へております。

しかしながら、債権放棄の適用につきましては、債権者が無資力、あるいはこれに近い状態、あるいは資力の回復が困難と、そういう状態など、税負担の公平性に鑑み、慎重に規定

するということが必要と考えております。したがって、議会、あるいは市民の皆さんのこれについての御理解も必要かと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

ありがとうございました。

では、次に移ります。

教育関係で、教育の再生についてお伺いをしたいと思います。先日の新聞を見ておまして、その報道によりますと、全国の警察が昨年1年間に摘発、補導した少年事件、このうち、いじめが原因だったものが260件で、前年の113件から約2.3倍にふえたということが掲載されております。そして、これは昨年10月、滋賀県大津市で中学2年の男子生徒がいじめが原因で自殺をしたということが社会的に大きく注目をされ、警察に対応を求めるケースがふえたためではと、そういったことを警視庁の担当者が分析したというふうに記事が掲載されておりました。

私が思うに、これは一気に2.3倍ふえるというのはどうかなと。ただ、今まで表に出てこなかったものも、それに近い数字があったんじゃないかと思うわけでございます。今回の大津の自殺の事件をきっかけに、こういう数字が出てきたのではないかなというふうに自分なりに思ったところでございますが、これは何で警察に対応を求めるのかと、求めるケースがふえたのかということは、これまでいじめ等は学校である程度対応してきたということですが、やはりそれでは不十分ということで、警察のほうにお願いしたほうが、対応を求めたほうがいいんじゃないかということになってきたのではないかなというふうに思ったところでございます。もちろん武雄市ではしっかり学校で対応していただいておりますので、そういうことはないとは思いますが、質問に入ります。

本市の小・中学校において、いじめの現状は今どうなのか、まずその点についてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市内のいじめの状況でございますが、教育委員会が把握しておりますのは、小学校1件、中学校1件でございます。といいますのは、今お話にありましたように、学校での対応で納得、了解できた、あるいは解決したと、そういう事例もほかにはあろうかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

いじめは、やはり早期発見、早期対応というのは大変大事だと思っております。そしてまた、なかなか見ただ目でわからない陰湿ないじめ、そういうのもあると思いますので、定期的なアンケートをとるとか、それからまた家庭や保護者との連携も大事だと思いますので、今後もそのあたりは継続的に対策を講じていただきたいと思います。

また、最近、道德教育の充実ということをよく耳にするわけですが、本市の小・中学校では、その道德教育をどのように行っておられるのか、現在の取り組みについてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

学校で行っております道德の授業としては、週1回、年間35時間を予定しております。調査してみますと、小学校、中学校ともに35時間以上の授業をいたしておりまして、全国的に中学校なんかは60%等の状況を見ますと、非常に充実した指導をしているものというふうに思っております。

また、保護者授業参観のときに一斉に道德を公開するというような試みもやっているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

先日、政府の教育再生実行会議、そちらからいじめ対策についての提言というものがなされたわけですが、その内容は、道德の教科化、またいじめ対策の法律化、いじめに向き合う責任のある体制、そして、いじめの被害者の保護、加害者の指導、それから体罰禁止の徹底、そういったものが盛り込まれているわけですが、

私は今回のこの提言を実行するというので、今のいじめ問題の全てが解決できるとか、そういうことはもちろん思っておりませんが、でも、一定の効果はあるのかなと、そういうふうに私は感じたところでございますが、教育長はこの提言についてどのようにお受けとめになっているのか、そのあたりをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

提言がなされまして、いじめとか体罰とか非常に深刻な問題が片方には発生しているということも背景としてあるわけですが、50年以上にわたりまして、昭和33年から道德としてあるわけでありまして、教科、道德、特別活動という分け方で普通これまで分類されてきました。そうしますと、教科とか特別活動と道德がどのように結びついて、本当に

人間味に通じる、人間性の育成に通じるものになってきたかと、そういう反省はこれまでも実際になされてきていたところでございます。

あと、幾つか心のノート、つまり教科書に匹敵するようなこと、あるいは評価等の課題等も幾らかあろうかと思いますが、計画的に体系的に育もうという面では、教科化も一つの方向であろうというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

本当にいじめという問題は、こういういじめや体罰、そういったことで子どものとうとい命が絶たれるというのは本当に痛ましいことでございますので、こういったことは断じて繰り返してはならないという思いでございますが、これは学校だけでなく、やっぱり家庭、地域、そういったものが一体となって、子どもを守り育てていくといたしますか、そういった体制がぜひ必要だと思えます。

近年、コミュニティースクールというものがあまして、その指定を受ける学校がふえてきました。このコミュニティースクールについて、本市はどのような取り組みをなされているのか、この点についてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほど出されました教育再生実行会議の提言の中にも「学校、家庭、地域、全ての関係者が一丸となって、いじめに向き合う責任のある体制を築く」という項目がございました。心の問題に限らず、学力等も含めまして、地域と家庭、学校が連携した指導というのが子どもを育むということは、今もかつて同じことだというふうに思っております。

その一つの方策として、学校運営協議会、コミュニティースクールというのを現在、北方中学校で24年度試みてもらいました。25年度、希望をとったところではありますが、北方の小学校でも同時に並行してやっていくということでございまして、地域の方が、これまでであった学校評議員会よりも、さらに運営の大事なところまで御意見を聞いて、校長先生と連携して地域とともに取り組むというのがコミュニティースクールでございます。今後もより進めたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

ありがとうございました。いじめの問題も、こういうコミュニティースクール、こういう部分を実行していきながら、解決も幾らかできるのじゃないかと、このように思います。

もう時間があれでございますが、最後に、ICT教育の方向性について質問をいたします。
武雄市ではICTを利活用した教育を推進し、これまで全国に先駆けてiPadを小学校2校に整備され、また電子黒板を市内全小・中学校に整備をしている状況でございますが、現在の整備状況、これはどのようになっているのか、また今後どのような方向でその整備をまた図っていくのか、そのあたりについてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

間もなく12時になりますけれども、一般質問を続けさせていただきます。浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）電子黒板につきましては、現在、市内小学校で60台、中学校で25台を整備し、学級数に対して約50%の整備となっております。

iPadにつきましては、武内小学校、山内東小学校の2校で4年生以上に1人1台、それから御船が丘小、若木小、北方小で2台、武雄北中で1台を整備し、活用を図っているところでございます。

このICT教育につきましては、子どもたちの意識調査でも80%以上の子どもたちがわかりやすいという声を出しております、有効に働いていると見ております。

今後の整備につきましては、まず電子黒板につきまして当初予算で36台分をお願いしているというような状況でございます。

活用の状況でございます。

特に、山内東小、武内小につきましては、このiPadと電子黒板を連動するような形での活用が図れるようになっております。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

このICTを利活用した事業、本当に子どもたちも興味や関心も高く、そういう思考、理解、そういうのを高める上でも欠かせない事業だと、このように思うわけでございます。

先ほどの答弁では、電子黒板については新年度予算で36台分お願いをしているということでしたが、このiPadにつきましても、まだ未整備の学校も多くあると思いますので、このiPad、これはぜひ進めていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

教育長からおまえ答弁せいという合図が来ましたので、私から答弁しますけれども、やっぱりiPadといっても高いんですね。ですので、iPad miniでできないかなと思って、あるいは一括購入して安くならないかなということで、今度、ICTの協議会を武雄

市に立ち上げたいと思うんです。その中で、広範に議論をしていただいた上で、今のところ座長は松原聡先生にお願いしようと思っておるんですけども、その中で、こういう使い方だっているよねとか、こういうんだったらコストをかけずにできるよねということで、いずれにしても、その議論を経てから次の3月議会を待つんじゃなくて、臨時議会なり6月とか9月の市議会で予算を上程したいと思っています。拡張するのは間違いないです。間違いないので、それはぜひ御安心をしてほしいと。

ちょっと長くなって恐縮なんですけど、学校でこれをぜひ使いたいというところにぜひ声を上げてもらおうと思っているんですよ。そうせんと、押しつけになりますもんね。ですので、学校がこういうふうにも子どもたちにICT教育でこれを使いたいというところに、特に校長先生に手を挙げていただいて、競い合ってもらおうということを思っております。

いずれにしても、拡張の方針で考えていきたいと、このように思っております。教育長、これでいいですかね。

○議長（杉原豊喜君）

20番川原議員

○20番（川原千秋君）〔登壇〕

ありがとうございます。子どもは地域のもちろん宝でございますので、これからの武雄市を担っていく子どもたちへの先行投資ということでございますので、ぜひよろしく願います。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で20番川原議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、午後1時20分まで休憩いたします。

休	憩	12時3分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次に、1番朝長議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。1番朝長議員

○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。それでは、議長より登壇の許可をいただきましたので、1番朝長勇の一般質問を始めさせていただきます。

きょうの質問の内容は大きく4つ、1項目めが前回に引き続き、市営住宅の今後の方向性についてもう少し掘り下げてみたいと思っております。2番目が、これからの市庁舎のあり方について、3番目が特色ある教育政策について、4番目が企業誘致についてという順番で進めていきたいと思っております。よろしく願います。

それでは、まず市営住宅の今後の方向性についてということですが、前回の質問で市営住宅については公営住宅法施行当時の役割が終わりつつあり、その戸数については長期的に見て減らす方向で検討すべきであるという意見を申し上げたところでございますけれども、今回はさらにその問題について掘り下げてみたいと思っております。

まず、全国的な傾向について、公営住宅の管理戸数の推移を見てみますと、ちょっと字が小さいですが、これが2005年からの10年間でですね。で、2005年が一番ピークになっておりまして公営住宅の管理戸数というのが219万1,875戸、ここをピークにしてその後少しずつ減ってきておりまして、2010年度では217万649戸ということで比率としては1%前後ですが、整備戸数という観点で見ると3割ぐらい減っている状況でございます。グラフの黄色が手持ちの戸数ですね。青が借上げの戸数、小さい赤が買い取り戸数となっております。

この減っている主因というのは財政難というのが主な原因で、古い住宅を取り壊す一方、補充を抑えているということが主な要因になっております。

まず最初に、こういう現状を踏まえて私の意見を端的に述べさせてもらった上で、そこから議論を深めていくという方向でやっていきたいと思っております。

冒頭に申し上げましたとおり、公営住宅の果たすべき役割というのは、大きく変化してきており、今後は立地条件や間取りなどを高齢者や障がい者、ひとり親家庭など、福祉政策に重点を置いて再検討していく必要があると考えております。その考えに基づくと、今、和田住宅が建設中でございますけれども、その次が大野住宅というところまでは決定しているようですので、その後については建てかえを一旦凍結して、耐用年数を過ぎた住宅については募集を一旦取りやめて戸数を減らす方向にまず方向づけをすべきではないかと考えておりますけれども、この考えについて市長の見解をお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は議員さんと意見が真っ向から対立します。私は市営住宅というのはきちんと残すべきであると思うし、今そういうニーズがあるわけなんです。かつ市営住宅にしか住めないという方々もいらっしゃるわけですね。だから、私はそういう方々に温かい手を差し伸べることこそが行政だと思っておりますし、しかも、ただその場所に建て直すのがいいかどうかというのは議論があると思うんです。ですので、それについては、これはよく黒岩幸生議員がおっしゃいますけれども、北方の中央線のところがあるじゃないですか。あそこに周辺部の、あえて名前は言いませんけれども、そこを建てかえ移転というふうにするということによって、まちづくりにも寄与するわけですね。そこは、病院にも近いスーパーにも近いということにもなりますので、そういったことも含めて私はどんどんやっていきたいと

思います。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

それではまず、私の考えについて、なぜ私がそういう考えを持っているのかということについて、もう少し説明させていただきます。

まず、現在の、これは昨年の12月末ぐらいなんですけれども、今の市営住宅の入居状況というのを、大体年齢構成を調べさせていただきまして、まず高齢者60歳以上のみの家庭とひとり親で18歳以下の子どもさんがいらっしゃる家庭、または単身、これはちょっと年齢だけで判断ですので、多分生活保護者の方とか障がい者の方などが含まれると思われまして、で、以上の条件に当てはまる層、年齢だけからの推測ではございますけれども、この戸数が全877戸中の大体約半分の440戸程度になっております。で、なぜこういう基準で私なりに戸数を調べたかといいますと、先ほどの空き家の状況というのが、非常に空き家が多くなってきている、それで平成21年の2月の時点で235戸であったものが、約3年後、平成24年5月の時点では倍以上にふえて550戸までふえてきております。このうち、多少の手入れは必要だと思いますけれども、80%程度は入居可能であろうと。

武雄の状況がこういう状況ですけれども、全国の空き家の状況を見てみますと、平成20年の10月時点で空き家が760万戸、これは総務省の調査によります。そして今後の予測として、野村総研のレポートによりますと、まず2003年のペースで新築——これが年間で約120万戸ということですが、このペースで行くと、2040年には空き家率が43%になると。仮に新築のペースを半分にした場合でも、空き家率が36%、2040年ですね、で、お隣はもう空き家というような時代がやってきつつあると。さらに空き家が増加した場合の懸念事項として、地域コミュニティが維持できなくなってくる。そしてさらに治安が悪化、公衆衛生の低下、また景観の悪化、地域イメージの低下、こういう懸念事項が現実起こってくるおそれがある、こういう状況を踏まえた場合に、今後の武雄市の住宅供給の方向性として、まず空き家を武雄市全体の資産と考えて活用するような方向性で考えるべきではないかと私は考えております。そうするためには、ここでさっきの年齢別の調査というのが影響してくるんですけれども、収入面だけが問題で市営住宅を探される方については、まずは空き家を探して、空き家に入居していただくような方向で考えていただくように方向づけができないかと。そのために不動産業者——もちろん、その空き家の持ち主の方の了解は必要ですけれども、不動産業者と情報等を共有して民間活力の導入を図りながら、その空き家のほうに市営住宅の代替手段として住んでいただくような方向で考えるべきではないかと、私は考えているんですけれども、再度これについて市長の見解をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も極力、できない理由というのは言いたくないんですけど、これは無理ですね。というのは、空き家は御存じのとおり、7割から8割まで倒壊寸前だったりとか、あるいはメンテをした場合にさらにお金がかかったりとかということ、それと、とりもなおさず、空き家と、皆さん簡単におっしゃるんですけども、これは法律上の制限がある。

それともう1つは、所有者の御意思というのがあるわけです。所有者の御意思等があるので、それが権利関係が二層、三層に絡んでいるんですね。

ですので、そういう意味でいうと、衣食住に基本的に行政が介入するというのは、私は反対です。衣食住は、やっぱりそれは市民の皆さん方が、やっぱり自分のことですからやっていくというのが基本で、足らざる部分を、市営住宅もそうなんですけれども、そこは市が、民間ができないことの補完として応援をするということが基本で、空き家の場合は、住まいというよりも、むしろ、その懸念という観点からは一緒なんですけれども、極力そこは倒壊しないようにとか、そのためには除却するのがいいのかと。で、その後に民間の皆さんたちが活用するというふうには私はしていきたいと思っていますし、これを行政が、連携でもいいんですけども、なってくると、本当に、その住まいという部分にまで行政が入ってくるということにもなりかねないんですよ。ですので、それは余計コストがかかる話になります、行政が入ると。これは、よく言われたいんですけども、行政が入ると、やっぱりその分だけだけではできませんので、私どもも人件費を抱えていますのでね。

それよりも我々とすれば、今、空き家の条例をつくって、伊万里市さんとかと一緒に共同して、まずどういう空き家があるかとか、その空き家を今度はどういうふうに持っていこうかというのを今、知恵を集めてやっているんですよ。条例も御議決いただきましたので、それが先なのかなと。で、その中で不動産として活用ができるということであれば、それはそれで活用を進めると。我々が例えば、今度1円以上の市有地をオークションにかけますけれども、そういった応援が可能になるのではないかなというように思っていますので、多分、これは順番が僕は逆だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

市営住宅に入居を希望される方、これはちょっとここに話を聞かないと、どういう方が希望されているかというのはわからないわけですけども、やはりどうしても希望の状況等を見ますと、新しいほうに当然といえば当然なんですけれども、希望が偏るので、そういった場合に市営住宅——当然税金を投入して建設するわけですので、私としては待機者がいるからふやす——ふやすというか、減らせないという考えにはちょっと、私自身は同意できない

という考えを持っております。市営住宅を建てかえれば、やっぱり新しいものができて、安く入れれば当然住宅を探している方というのは、まず市営住宅を探そうという方向になると思いますけれども、そういう意味で、戸数をどうするかというのはまだ様子を見ながらということで、どちらにしても短期的にできることではありませんので、もう少し状況を見る、これは可能、できると思いますけれども、どちらにしても、より弱者に市営住宅を使っただけということを考えて場合に、今の抽選方式といいますか、これをもう少し面談等を取り入れて、より立場の弱い方というのを優先して入居していただくような方向にまず持っていくということはどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、結論を言うのでできません。これね、言うはやすし、やってみたらわかるんですけども、じゃ、例えば、障がいをお持ちの方で選ぶとなったときに、何を基準でこの方はオーケーでこの方がノーだということを言えるかというのは、多分それは無理なんです。だから、面接をやってというのは、それは無理なんです。ですので、これね、ちょっと誤解があるようなんですけども、もともとあれなんです。市営住宅に入られる方というのは、広い意味でいうと住宅困窮者なんです。所得に制限があるんでね。そういう意味でいうと、それは、住宅困窮者という意味では等しく皆さんは平等なんです。ですので、そこでより弱いといったときの、よりというのを行政が判断できるとは、僕はとても思えない。そうすると、恣意的な話とか、絶対また、よかれと思ってですよ、絶対出てくるわけですよ。ですので、我々は、もうこれは最善じゃないにしても、よりほかの方法をいろいろ考えてみました。その結果、等しく抽選というのが、やっぱり受けられた方もそうだし、それともう1つは我々納税者から見てもそれが公正かつ私は忠実でいいんじゃないかなというように思っております。

いずれにしても、我々が住宅政策でやっているのは、要するに待機の方が多いからやっているわけじゃないんですよ、やっているわけじゃない。さっき、冒頭申し上げたように、やっぱり武雄市にいろんな方々に住んでほしいと思うんですよ。だから、所得が低いから武雄市に住めないといったら、それはかわいそうじゃないですか。武雄市に住みたいけど、所得が低いとか少ないから住めないって。しかも武雄市はアパートの値段とかマンションの値段が近隣と比べてやっぱり高いんですよ。やっぱり今、人気が出てきているので。だけど、その所得で、住む、住めないというのをするというのは、余りにも僕はかわいそうだと思うんです。ですので、私は待機の方が多いとかではなくて、やっぱり行政というのは温かい気持ち、特に弱い方々に手を差し伸べるのが行政の最大の役割だと思うんですよ。ですので、これはしっかりやっていきます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

私の頭の中にあったのが、1つの例としてですけれども、私の同級生が就職して、結婚して、まだまだ収入が少ないということで、築何十年やったかはちょっとわかりませんが、かなり古い住宅、一軒家を借りて、家賃は多分1万円あるかないかぐらいだったと思います、正確には覚えていませんけれども。そしてその後仕事を頑張られて、自分で一軒家を持たれたという方がいらっしゃいましたので、そういうイメージで捉えていました。築年数が古いのを我慢すれば、安いところでもあるはずだという考えが私の中にあった。それをもとに今回の提案につながったということで御理解いただきたいと思います。

戸数については、当面今までどおりやっていくということであったんですけども、どちらにしても、またさっきの話に出ましたけれども、今後の長期的な方向性として、やはり高齢化が進んで市営住宅に住む方、入居される方というのも高齢化が進む、またはひとり親家庭のお母さんとか、社会的にも住宅そのものだけではなくてそのほかにも行政のサポートが必要になってくる可能性が高いということで、戸数は別として立地に関して長期的には——今も市長のほうから1つ話は出ましたけれども、再配置を行っていくということが必要だろうと思います。私がイメージしていた今後の長期的な市営住宅の立地条件というのが、なるべく小学校のほうに近い敷地を探して、建物の集約化、ある狭い範囲になるべくそういうサポートの必要な人たちを近づけておくという方向で、また建てかえの位置については検討していくべきだろうと思っております。これによってやっぱり、入居される高齢者の方と学校の児童との触れ合いとか、相互見守りとか、孤独死対策、児童クラブとの連携とか、いろんなソフト面の対応ができやすくなるということで、この建てかえのタイミングで立地条件を見直すという考え方は、さっきもありましたけれども、お持ちであると考えてよろしいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

先ほど市長答弁にもありましたように、立地場所については立地条件と、それから背景の問題等ありますので、その配置については柔軟に対応していかざるを得ないと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

それでは、市営住宅の問題についてはこれで終わりにしまして、次に今後の庁舎のあり方

についての話に行きたいと思います。

まず庁舎のあり方についてという話に入る前に、今の現庁舎の耐震の問題について、対策の検討が行われると思っているんですけども、耐震補強をするのか、現地で建てかえるのか、または移転するのか、その辺の検討状況について経過をお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

庁舎の耐震補強の検討状況についてでございますが、補強改修を行うといたしますと、補強のためのブレス——いわゆる筋交い等ですね、とか柱とか、こういうものを庁舎内に設置する必要があります。その結果、執務面積の減少、あるいは利用者の窓口サービス等々の不便性、こういう課題が発生してきますので、その解決案としましては、別棟が必要になるのかなというふうに考えているところであります。また、補強改修をしますといたしましても、建物そのものの延命化、このことが解決されるということではございませんので、投資効果については非常に低いのではないかという状況を検討しております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

今回この庁舎のあり方についてという問題を取り上げさせていただきましたのは、まずは庁舎を移転するかどうかは別としても、建てかえの方向で考えていただきたいということで取り上げさせていただきました。その理由について、これから述べていきたいと思います。

これまでは、市民の視点で考えた場合に、庁舎よりも先に整備すべき施設があるという感覚から、庁舎の建てかえや大規模改修については十分に議論が進んでこなかったと。そしてきのうで2年になりましたけれども、2年前の東日本大震災において多くの自治体庁舎が被害を受け、災害対応拠点として機能を果たせず、復興事業にとっても大きな障害になったと。これによって、防災拠点としての庁舎の重要性が改めて認識されてきている。防災拠点としての役割、これを考えた場合に、単に強度の問題ではなく、耐用年数、またバリアフリーの対応、先ほど言いました災害時の対応機能などを考えると、また新幹線の問題もありますし、その辺を総合的に勘案した場合、建てかえの方向で考えるべきと考えておりますけれども、これについて見解をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

現在、庁舎の件につきましては、特別委員会を本議会において設置していただきまして、その中で検討していただいております。市長のほうからは、3つの案があるということで、

補強改修も含めましてその3案について検討してまいっているところでありますが、先ほど質問者がおっしゃいましたように、防災拠点としての機能、あるいはさらには市民の利便性の向上、こういう面から、現在、どういう機能向上を図るべきかということについて検討している状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

それでは、まず私のほうから1つの案として、建てかえるとした場合にこういう庁舎ができるのではないかとということで、1つ提案をさせていただきたいと思っております。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○1 番（朝長 勇君）（続）

まずは情報化の進んだ今だからこそ実現できる、災害時の対応能力にすぐれた庁舎が建設できるという可能性がある。具体的な方法としては、1階には最低限のカウンターだけを置いて、残りはフリースペースとしてふだんはギャラリーやカフェなどの多目的スペースとして確保すると。一方、2階は、執務機能は2階以上に設置して、カウンターや廊下をなくして省スペース化を図ると。これによって一般論としてですけれども、大体2割ほどスペースを削減できそうと。これによって建築コストの削減にもつながる。

で、具体的にちょっと絵を描いてみますと、1階についてですけれども、まず市役所で行う業務の8割近くが証明書等の発行業務ということで、それについてはパソコンとプリンターがあれば対応ができるということで、市民の方がいらっしゃる場所に膨大な書類を置く必要もないし、職員がそこに、同じフロアにいる必要もないということで、カウンターのみを1階に設置してフリースペースとして、あとは多目的スペースとして活用してもらおう。こうした場合にどういうことが可能になるかということ、例えば災害が起きたときに1階を片づけて災害時のボランティアとか救援物資の受け入れという、非常に広いスペースを使用できる。大災害になると、どうしても物資や情報、人というのが市役所に集まってくるということで、屋根つきの広いスペースを確保するために1階をこういう構造にしておく。

2階についてですけれども、左側は大体旧来のレイアウト、武雄の場合は真ん中に吹き抜けがありますけれども、今後設計するとした場合に、この中廊下とカウンターを廃止して、市民の対応については相談コーナー等を設けてここで対応するというにすれば、ここでもスペースの削減が可能になる。対応の根拠としては、今申し上げたとおり、今であるからこそ膨大な書類を、発行業務をする場所に置いておく必要がないということで、こういう構造が実現できるのではないかと考えております。これによって、災害発生時には1階がボラ

ンティアや物資の受け入れ、対応拠点として機能すると。2階以上が情報収集や対策会議などの本部機能として集中できると考えます。こういう市役所の構造について、今聞かれてどう思われたか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず私の所見は、午前中の黒岩幸生議員に申し上げたとおりであります。

で、議員ね、その議論の前に、ちょっと議会でやってほしいのは場所をどうするかと、あるいは建てかえなのか、耐震するかというのは先の話なんですよ。で、それに応じて、場所で、こういう機能があるということを言わないと、聞いている人を見ると、市民は「あ、これは違うところに建てかえるんじゃないか」というふうになりますよ。ですので、やっぱりこれは特別委員会で、どなたが委員長か僕は知りませんが、特別委員会でしっかり議論をする話だと思いますよ。

その上で今、私のほうから議会にお願いしているのは3つ案を言っているじゃないですか。1つは耐震の設計をもう1回し直すということが1パターン、2パターンがここに建て直すということ、それと3パターン目が移転をするということなんで、まずその話を詰めてくださらないと、やっぱり物事順番がありますよ、順番が。なんで、それはね、ぜひそこをお願いをしたいと思います。ですので、特別委員会でしっかり御議論をぜひお願いをしてほしいなど。で、我々は我々で考えがあります。ありますが、やっぱりこれは議会がしっかり決めていただくのが、僕は筋だと思っているんですよ。

で、私は私の考えがあります。私も市民を代表している立場でもありますので、それについてはもう少し熟慮してから、うちも中で検討させていますので、その時点でちゃんと意見を申し上げたいというふうに思っております。特別委員長とよく議論してください。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。1番朝長議員

○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

それでは、ちょっとまず、構造そのものよりも立地条件をどうするか、新幹線と絡めて考えた場合にどうするかというのを、まず、その前にやることがあるということが今の市長の考えということで、これに関してはまたタイミングを見計らって、出す場面があれば提案させていただきたいと思います。

それでは、3つ目の特色ある教育政策についてに移ります。

今、日本は年末に政権交代して安倍政権のもとで長引く不況から何とか脱して成長軌道に乗せようということで、通称アベノミクス、成長戦略、金融緩和、財政出動ということで、

3本の矢という政策が行われているわけですが、この金融緩和はちょっと別として、財政出動に関しては実際もう具体的に予算に反映されてきていると。そこで、成長戦略と考えた場合にやはり地方がやるべきことは何かと。この財政出動というのはどうしてもそれだけでは長続きしないと。それが効いているうちにまた次の対策を考えていかなければならない。そして大きく成長軌道に乗せていくというのがこのアベノミクスのビジョンであると思うんですけども、そういうのを考えたときに、地方として何をすべきかと考えると、やはり大きく変わろうとしている時代に対応できる人材というのを育てておく、これが地方の大きな役割の一つであろうと考えますが、教育長の見解を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

全体の成長戦略の中で武雄市の教育というのは、非常に途中をつなぐのが難しいわけですが、ただお話にありましたように、例えば、ICT教育を進めさせていただく中で、全国からかなりの方が見に来られるわけでありまして、で、そのほかにもいろいろ視察に見えたりする場合もあるわけです。そういう意味では教育においても中央とか地方とかという枠は以前ほどは薄れているのではないかと。地方の役割も非常に期待されている面があるのではないかとこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1番朝長議員

○1番（朝長 勇君）〔登壇〕

教育に関してはいろいろところで各公民館や学校、いろんな場面で精力的にやられているというのはもちろんわかっておりますが、やはり子どもたちが大きく伸びていくためには、まず目標を持っていただく、持ってほしいと。で目標を持って持てととっても、なかなかそうばつと子どもたちも思いつくようなものではないと思いますし、やはりそういうお手本といいますか、そういうものを大人が示して行動の規範としてもらうようなことが必要だと思いますけれども、こういう取り組みについて今現状どういうことが行われているか、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

以前と比べましてたくさんの方が、小学校、中学校等に入っているというのが実情であります。ざっと、例えば、今年度だけ見ましても、小学校で101件、中学校で24件、1件の中に、例えば老人会で50人行きましたというような例もありますので、人数としては非常にたくさんの方でありますけれども、本当に積極的に学校に入っているという状況です。

また学校からもできるだけ先生たちがコーディネートする形で、この学習だからぜひこういう方をお願いしたいということで働きかけてどんどん入っていただいている。そういう意味でいろんな面で行動の規範という言葉がさっき使われましたけれども、先輩から直接聞くことで、自分の生き方に比べてみたりと、参考にしてみたりというようなことが、どんどん出てきている状況だというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

私自身もいろんな講演会とか研修とかに行って、第一線で活躍されている、世界を股にかけて活躍されているような人の話を聞く機会がよくあるんですけども、やはりそういう方の話を、みずからの人生を重ねるそういう姿を見て、非常に感動を覚えるし、わくわくするような気持ちを覚えることがよくあります。で、そういう気持ちをぜひ子どもたちにも味わってほしいというのが、物すごく私の中にありまして、やっぱりそういう方というのは非常に何というか、山あり谷ありの人生を歩んでこられた方が多い。多少脱線しても志があれば、頑張れば、世界に通用する活躍ができるような人間になれるんだと、そういうみずからの実体験を語っていただくような方の話を、ぜひ、特に中学生あたりは年齢的には今から自分の進路を決めていこうと、そういう思春期の子供たちに、そういう大きな実績を残した方の生き方というものを伝えていくような取り組みができれば、大きな目標があればやっぱり非行に走ることもないであろうし、いじめをすることもないであろうし、そういう目標を持たせるといふところにもう少し力を入れてやっていただきたいと思うんですけども、これについて、再度見解をお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

平成23年度から、武雄の先輩に学ぶ授業ということでさせてもらっております。御存じのとおりに市政アドバイザーの古賀純二さん、あるいは松尾亜紀子さん、それから今年でいきますと、セバスポールワールドフレンドの水谷さん、あるいはロケットで、高等学校の先生ですけども山口さん、そういう方に中学校等おいでいただいて、実際に生徒の前で実演してみたりお話を聞かせていただいたりということでしていただいております。

その話を聞いた、あるいは見せていただいた生徒の一例を出したいと思いますが、シェフの体験談でレストランなどはとても厳しいんだなということを知りましたとかですね、あるいは、小さな目標を立ててそれに向かって走っていくことが大切だと思いましたが、あるいは私も水谷さんみたいに将来に向かってできたらいいなと思いましたが。高1のときにアメリカへ行きたいということを実現的にそうされているというようなことで、中学生の諸君

も非常に自分に引きつけて、話を引きつけて聞いて、夢の実現、今、各中学校のキーワードは夢であります。おっしゃいましたように、そういう夢を持って、目標を持つことでいじめであったり、あるいはそういう問題行動等よりもよりプラス方向の積極的な生き方を求めているという状況でありますので、お話ありましたように、今後もそういうすばらしい先輩方の話を聞く機会、これは市長さんの幅広い交友関係の中から御紹介いただいた方ありますけれども、そういうことで、地域の方とともに、そういう先輩の先生方のお話を聞く機会も今後もできたらいいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

ぜひ、そういう子どもに目標を持たせる活動というのを今後もさらに工夫を重ねながらやっていていただきたいと思います。

それでは、最後の企業誘致についての質問に入ります。

まず、工業団地、宮裾地区の工業団地の企業誘致活動についての現状の状況について、概要についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

武雄北方インター工業団地の、今の現在の誘致活動の概要ということでございますが、平成23年の10月に分譲開始をいたしまして1年6カ月を経過いたしました。これまで企業訪問等による情報収集や企業誘致のイベントへの参加、あるいはモノレールの広告など情報発信をいたしてまいりました。それから県の企業立地課、あるいは首都圏本部、あるいは東京在住の企業誘致のアドバイザーの皆さんとも連携を図りながら活動をしてきたわけです。

このほかにも、日経新聞等への工業用地のナビゲーターといいますか、情報を掲載する欄がございますが、その掲載とか、あるいは銀行、あるいは証券会社、建設会社等に、武雄市にこの18ヘクタールの一面ワンロットの工業団地を準備いたしておりますという、これまで種まきというふうなことで申し上げておりましたけれども、そういった形での種まきをこの1年6カ月の間にやってきたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

現在中国には――海外に進出されている企業というのは、中国に対して進出された企業が多いわけですが、現状、今、アジアに進出された企業が、どういう経緯というか、傾向があるかということ調べてみますと、まず平成12年からの6年間ぐらいについては、ア

ジアに進出する場合には65%が中国を選んでいたと。その後、18年から24年、ここ最近の6年間で見ると49.6%ということで、非常に中国からほかのアジアの国々へ分散されている。この背景というのが領土問題や、最近問題になっている環境汚染、または中国の経済成長に伴う人件費の高騰ということで、進出した企業にとっては非常に操業の環境が悪化しているということで、九州経済白書にもあるんですけども、国内回帰、また中国に進出したけれどもまた国内に戻る、またはリスク回避として中国プラスもう1カ所というような動きが出てきていると。

実際に今、中国に進出されている企業、製造業の企業のアンケートでは、44社中16社が中国の領土問題等で何らかの影響を受けていると。この数字というのは、去年のまだ政権交代の前の円高の状況でこういう回答がっております。その16件のうち、5件については、もう今のところ影響はないが、移転を検討していると。中国からまた別のところに移転を考えている、そういう企業があると。さらに今の状況を加えて考えると、円安が進行して輸出企業にとっては非常に有利な状況、追い風が吹いている。そういう状況を鑑みて、今、中国に進出されている企業にターゲットを絞って誘致活動をするべきではないかと考えますけれども、これについて見解をお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

議員御指摘の中での、今回、平成24年、昨年6月に若木の工業団地、武雄工業団地に三京ステンレスさんの進出が決まり、この3月に間もなく開所ということで、今、作業がなされております。この三京ステンレスさんにつきましては、本社は東京ですが、中心工場は中国の瀋陽市にございます。先ほどありましたように、九州白書でも御紹介がっておりますが、なかなかやっぱり中国の工場におきましては、技術が定着をしないとかいうような問題がございまして、それに加えてチャイナリスク、領土問題等の問題が出てまいりましたということで、今回、県と市の粘り強い誘致活動と、先ほど申されました、その三京さんの国内回帰への方向がうまくかみ合って今回実現したわけでございます。

中国のほうに進出をしている企業というのはもう何千社、何万社という形であってございますが、こうした企業さんのほうにもアプローチをしていくのも一つの方向だと思います。現在、その海外の企業を含めまして経済産業省、それからジェトロを窓口にしまして、海外からの企業を国内に引っ張ろうということで、今、取り組みがいろいろなされておりますけれども、御承知のように国内では非常に法人税が高いというふうなこと、あるいはいろいろな行政的な手続が煩雑であるというふうなこと、国内の立地がなかなか進まないという現状もございまして。経産省等もここら辺の点については十分配慮しながら、昨年11月にアジアの拠点化推進法を制定して、いろんな制度改善を行って誘致を働きかけておりますので、そう

いったことも含めながら、海外の企業に対するアプローチもジェトロ、国、含めて情報交換しながら進めていければというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

いろいろな方法でもう当然やられているとは思いますが、そういう時代の流れを的確に捉えて焦点を絞った誘致活動を続けていただきたいと思います。

最後の質問ですけれども、企業誘致、誘致するほうばかりでは当然不十分で、今、進出していただいた企業について、当然経営状況と、最悪撤退ということにならないようにどういったフォローがされているか、これについてお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

進出いただきました企業さんに対してのその後のフォローということでございますが、私たち、進出していただいた企業に対しましては定期的に訪問をいたしております、そのときの各社の業績、あるいは今後の事業計画、見通し等を確認させていただいているところでございます。この際に、一昨年6月に条例改正をいたしまして、進出してきた企業さんに対する優遇措置等も御紹介をいたしますし、既に立地をさせていただいている企業さんにも御利用いただける制度がございます。そういったことを定期的に訪問する際にお尋ねをいたしまして、御紹介をしているというふうなことで、できるだけ、御用聞きという形ではないですけれども、そういった情報開示、収集を含めてやっているとところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番朝長議員

○1 番（朝長 勇君）〔登壇〕

その後のフォローについてもしっかりやられているということで、今後も続けていただくことをお願いして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で1 番朝長議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、5分程度休憩をさせていただきます。

休	憩	14時17分
再	開	14時25分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、4 番山口裕子議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。4 番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

議長の登壇の許可を得ましたので、ただいまより4番山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

今回は、7項目ほど質問を挙げさせていただいておりますが、私としてはちょっと多かったかなというふうに思っておりますが、的確に質問させていただきたいと思います。

この質問に入る前に、どうしても言っておきたいことがありますので、それに対して市長さんにお答えいただきたいなと思っております。

それは、私も9、10、11日と東北の被災地のほうへ行ってまいりました。報道もいろんな形で報道されておりましたが、行ってみると、本当にいろんな思いがまた込み上げてきました。それに対して、やっぱり武雄市もいろんな形でほかの自治体よりはというか、そういう形で市長もいろんな支援をしていただきましたが、行ってみると、本当ますます同じ日本国民として東北の方たちを支援していかなければならないんじゃないかなというふうに思いました。

チーム武雄という形で何チームか送っていただきましたが、昨年、太鼓の協力お願いということで、イベントのお願いということで行かれた一人が、何かしら丸2年がたって、向こうの人たちに頑張してほしいという気持ちを伝えたいということで、色紙に言葉を書くことを始められました。それが100人になっていく途中に、ああ、向こうの子どもさんたちに遊んでもらったらということで、竹とんぼを100本、それと、竹でできたぶんぶんごまを100個ほど預かることになりました。本当に市民の人たちは、思いをどんなふうに伝えたいのかなという形で、向こうの人に沿うにはどうしたらいいのかなというふうにたくさん声を寄せていただきました。そのときに私もその色紙とですね、それを持っていくことになりましたが、やはり相手が見えるという支援ですね、それが一番じゃないかなというふうに思います。

今後とも、そういう支援を続けていってほしいということと、それに対しての質問と、あと、職員さんが2人派遣されておりますが、その方々、上田さんと古賀さんの話を現地で聞くこと、またはお住まいの仮設から職員の住宅ができたということで、その部屋も見せていただきましたが、本当に大変な御苦労があって仕事をされています。そういう上で、やはり市長はもっとそういう方の支援もしていかないといけないし、今後、ぜひとも続けていってほしいというふうに私は思っておりますので、そういう形で市長は今後、被災者のほうの支援をどんなふうに思っておられるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先般、小池一哉被災地特別委員長と山口裕子総務委員長とともに被災地に入りました。

その際に、さまざまな方とお話をする機会があって、非常に印象に残っているのは、細くてもいいから、ずっと継続的に続けてほしいと。要は、いきなりどんとか、ばんとかって、それはうれしいんだけども、もうそれで終わってしまうというような不安がすごいあるっておっしゃったんですよ。これは、異口同音いろんな方々がおっしゃったので、僕らがやらなきゃいけないことは、やっぱり細くてもいいから、5年、10年きちんと続けていくということ、これは毎日じゃなくてね、1年に一遍でもいいんですよ。で、もうつくづく感じたのは、そういう心のつながりというか、さっき山口裕子議員さんがおっしゃったように顔の見えるつながりですよ、支援じゃなくて。それがやっぱりすごく求められているということが、すごく感じました。

ですので、我々は、今、職員を、非常によく頑張ってもらっています。古賀龍一郎なんか、もう市長の右腕で、もう向こうの職員やったですもんね。非常にうれしく思いました。で、物すごく高く評価されています。上田哲也についてもしかりです。今度、4月にまた新たな職員を、上田哲也と交代ということで我々出向させますけれども、うちのエースをまた出していきたいということを思っています。で、先ほど御指摘があったように、やはり温かい、彼らがやっぱり働きやすい環境を我々は整えていく必要があるだろう。これは、我々の責任としてしっかりやっていきたいと思っています。

そして、帰り際にある市民の方から言われたのは、来年もぜひ来てくださいと言われたんですよ。私、選挙前やとけなと思ってね。ですが、もうこれは乗りかかった船ですので、自分の選挙よりもね、やっぱりもう私が行くことで少しでもね、何というんですかね、被災地の皆さんたちの心が晴ればね、それはやっぱり僭越ですけど、ぜひ行きたいということは思っております。ただ、私一人で行くのもね、それは私も微力ですので、大勢の方にまた今度は広く呼びかけてまいりたいということは思っております。何人か目をそらしている方々もいらっしやいますけれども、ぜひ一緒に行って、心と顔を届けに行くと。

そういう意味でいうと、私たちだけだったんですよ。陸前高田市の追悼式で首長が行って、議会のしかるべき要人がお見えになったというのは私たちだけだったんですよ。ですので、そういう意味で武雄は本当によくやってくださっているということをいろんな方々がおっしゃいました。

それと、ちょっと私からは最後にしますけれども、おかげさまで今、私はバブル状態で、発信力があります。これはいいにつけ、悪いにつけありますので——そうです。ですので、どうせこの賞味期限もあと1年ぐらいしかもちませんので、その間に被災地の置かれた状況であるとか、我々の感じていることをどんどんやっぱり発信していこうということは思っています。特に今、ブログのアクセス数が1日、場合によっては20万超えています。ですので、それもいつまでも続くかわかりません。最初は2人でしたので、見ている人。僕と妻だけでした。いつ、そうまた戻るといってもわかりませんので、今のうちにやっぱりきちんと責任

感をね、そういう意味での発信という意味でも果たしていきたいというように思っております。

それと、やっぱりもう少し僕も性格をソフトにしていこうと思っておりますので、御指導のほどよろしくお願ひします。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

（モニター使用）これが確かにお渡ししたという形ですね、戸羽市長さんと、私は寝ていますが、竹とんぼですね。これは伊万里の市民の方だったんですが、これとぶんぶんごまとかをですね。そしてまた、この後、教育委員会を通して子どもたちにお渡ししますということでした。

あと、最後の日はこんな形で、この方が大友さんですよ。皆さん、議員さんたちが最初5月に被災地支援という形で、泥水とか、いろんな家の中の瓦れきとかを撤去された方のやっておられるゆいファームという法人は、東北震災の補助金をいただかれて、このように大きな立派な施設というか、そういうのが建ちましたということで、よろしくお願ひいたしますということです。この周りは瓦れきがそのままだし、少しずつ田んぼとかも復旧していますが、本当にこういう施設を建てて、その周りにハウスが10棟ぐらい並んでいたんですが、これがまた、この大友さんが元気を発信されてというか、大友さん自身がトラクターとかいろんな機械もですね、重機も使って農業をされるということなんですね。だから、また私たちもできることがあれば応援しますからということでお話を得て帰ったところで、訪れたことは突然だったから、本当に喜んでいただけました。報告という形で、ますますの武雄市の支援もしていかなければならないんじゃないかというふうに思いました。よろしくお願ひいたします。モニターを終わってもらっていいです。

それでは、私が挙げておりました第1番目、高齢化社会の対応についてですが、まず、先ほど午前中の川原議員と重なりましたが、みんなのバスという形で挙げさせてもらっています。これは、私も何度となくお伝えさせていただいておりますが、今山の区民の皆さんが本当に活用されて、区長さんが十分なる話し合いとか対話集会をして、どのようにしたら一番いいかという形で先進地的に実験運行をさせていただいて、また、このたび4月からも運行させていただくようになりました。で、料金の問題とか、いろんな問題が挙がっておりますが、うちの区民の方は、本当にお金を払うことによって気兼ねしないで乗れるということ、そして、お金を払わないと、これがひよっとしたら財政難で終わってしまうんじゃないかという不安を抱えていらっしやったので、とてもいい運行になっていくんじゃないかということをご期待されております。

また、私が武雄市全般の大きな集会に出たとき、それは女性だけの会だったんですね。で

も、ちょっと見渡せば、70歳以上くらいの女性たちが多かったんですね。その中でちょっと印象に残っているのが、みんなのバス、みんなのバスと言うけど、これは一部の人のバスやもんねということで、とっても私は心痛かったんですね。そんなふうに、私もあと何年かしたら免許を終わりにして、こういうのにお世話にならないといけない時代が来るし、今からは本当に今までみんなが味わわなかった高齢化社会になっていくことを考えれば、これが運行されます。そしたらまた、そういうふうに必要なとされているところの実験運行とかをやったりやりながら、皆さんの、本当の意味でみんなのバスになるように考えていかなければならないんじゃないかというふうに思っておりますが、市長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、答弁に入ります前に、やっぱりこれ、今までやったところで、やっぱり濃淡であるんですよ。あって、特に今山地区はうまくいっています。北方もうまくいっていますけれども、うまくいっていて、その要因というのは、やっぱり区長さんの存在なんですよ。特に草場区長さんが、私の中学校のときの恩師で、怖くて優しい恩師だったんですがね、その方が本当にここ、特に1年半ですよ。もう粉骨砕身頑張っていた。だから、呼びかけもそうだし、こういうふうに乗らましようねということをおっしゃったんで、行政にお任せ状態のところって、基本的にうまくいかないんですね。ですので、区長さんがどういうふうなお気持ちを持たれているかということで、希望も含めて、それは幅広く応じていきたいと思っております。その上で実験運行をして、で、これね、やっぱりこれは市民負担に伴う話ですので、走らせても誰が乗らないとかというと、これは全部市民に負担がのしかかっていますので、やっぱりそれは実験運行しながら、本格運用するかどうかというのはきちんとやっぱり判断を、議会とよく相談してしなきゃいけないなというように思っています。私たちとすれば、本当にお困りの地域、やっぱりあります。ありますので、特に周辺部ですよ、武雄市の中でも、周辺部の皆さんたちに温かい手を差し伸べるというのがみんなのバスの趣旨ですので、そういった方向でまたふやしていきたいと思っております。

ですので、今度お金を200円取るということになりますけれども、これは心苦しいばかりであります。しかし、皆さんたちがこれを使ってくださる、乗ってくださることによって、さらにこれが広がっていくということになりますので、ぜひこれをごらんになられている皆さんは、みんなのバスを自分たちのバスとして御活用していただくお願いをする次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やはりバスが通っている地区からすると、ないところの人から、あんだのところだけよかもんねというふうに言われて、それを無料で乗っていると、本当に気兼ねせんといかんみたいなことをおっしゃっていましたので、今回きちんとですね、200円だったら、本当にそれでもタクシーで行っているときは何千円とかかって行かれていたわけですから、とてもいい運行になるんじゃないかというふうに期待をされています。

だから、本当に必要とされているところが実験運行を通してあれば、今後、やっぱりふやしていかなければならないんじゃないかというふうに思っております。やはり私もそういう集会の中で、あれは一部のバスやんとかいうふうに言われると、本当にその方の対応ですね、その地区の区長さんに相談なさって、そういう方が多くあれば、そこの実験運行に持っていかれたらどうですかとか、その次の進めようがありますので、やっぱり今回、こういう実験運行を通してこういう形になったのを今後とも考えていただきたいと思っておりますので、また答弁をよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

山口裕子議員さんを初めとして、お一人お一人お名前を申し上げるわけにはいきませんが、みんなのバスをそういうふうを活用してほしいとおっしゃっている議員さんには本当に感謝したいと思います。その上で、先ほど申し上げたように、我々とすれば、やはり手の届かないところにしっかり手を届けると、暖かい光を差し入れるというのが行政の役割ですので、そういう意味で、議員さんがうまく地区の皆さん、区長の皆さんたちをつないでくださるということについては、本当に感謝を申し上げたいと思っています。

ですので、先ほど区長さんのお力ということを申し上げたんですけど、やっぱりそこには議員さんのお力もあろうかと思っておりますので、ぜひそういう意味でのお力添えをお願いしたいと、このように思っております。

やっぱりね、私も言われるんですよ。これはあすこやけん走りようけんねとか言われて、それはすごくやっぱり返答に窮するんですよ。ですが、やっぱり新しいことをやる時というのは批判はつきものです。図書館もそう。ですので、それで僕らは歩みを批判を受けているからといってとめるのではなくて、よりよき方向にするというのが、それが今の樋渡市政だと思っていますので、ぜひそういう意味での前向きなお力添えをお願いしたいと思います。私もちょっとプラカードをつくらうかなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そういうことで、よりよいみんなのバスになっていくように願っています。

それでは、次の質問で、高齢化社会の対応についてのFM放送開局についてなんですが、私も、市や武雄市長がフェイスブック・シティ課というふうに課をつくられて、先進的に情報を皆さんに伝わりやすいようにインターネットを使ってやっておられますのに、私が何もフェイスブックとか、そういうものを見ることもできずに、発信することもできないのでおかしいかなと思って、昨年12月ごろよりスマートフォンとかを持ちまして、一生懸命勉強して、ああ、どういふものかなというふうにやっておりました。で、それをやってみて、行政からの発信とか、いろんな形でここに情報が載ってくるのはとてもわかりやすく、リアルタイムというか、今のこと、今、こういう行事があつているとか、こういう行事の準備をしているとかいうのが入ってくるのは、ああ、とてもいいことだなと、ああ、こういう形を知らないで私は過ごしていたんだなというふうにして、自分なりに勉強して、FBにアップしたりとかいうことをやっておりました。

だけど、私は50代ですが、私の周りに聞いてみると、フェイスブックとかもですね、やっぱりやっていないとか、できないとか、そういう仲間も多くてです。よ、高齢者の方たちにもこういうフェイスブックでという形で、IT寺子屋とかもいろいろあつていと思うんですが、これで情報発信する仲間というのはそう急速にふえないと思うんですね。でも、武雄のことを知りたいとかなると、やっぱり情報誌の市報とかが一番いいなというふうにも私も、だから両方、インターネットとか、目で見るとか、ペーパーで見るとも大事だということ。を今まで言ってきましたが、それよりも、以前にコミュニティーFMですか、放送の開局の話がちょっと出ていましたが、これが農作業をしていたりとか、一日中ラジオをかけていたりということが気軽にできて、ラジオを用意するのも手軽だし、これが情報発信するのに満遍なく伝わるんじゃないかなというふうに思ったわけですね。だから、あの後どういふふうになったかわかりませんが、武雄のコミュニティーFM開局に対しては、市長さんはどう思つていらっしゃるか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私がコミュニティーFMつてぶち明けたときは、それはまた異論反論ありました。後ろからも、行政の中からもね、いや、これはコストに合わんぞとか、あるいは民間の方々でもね、何でケーブルテレビのあるとけ、こればせんばいかなですかとか、いろいろ言われましたよ。ですが、やっぱりね、やります。それはやっぱりね、この前、被災地に伺つたときに、仙台の若林区の、それは裕子議員さんも一緒に聞かれていたと思うんですけども、大友よし江さんのおうち、あれね、すごくきれいになっています。朝長議員さん、山口等議員さん、上田雄一議員さんもボランティアでされていたところ、あれ、家ですね、ちゃんと建て直つとですよ。まあ、小さくなつていまして。小さくなつて、もとからある木をうまく活用

して、前よりもよっぽど住みやすくなっています。そこが、あれって思ったのは、その隣に防災無線があると。しかし、防災無線、よし江ちゃんが何て言ったかという、窓ば閉めたらワンワンワンてしか聞こえんすもんね。チャイムは聞こえても、何て言いよんさあか全然わからんすもんね。小池議員さん、そがん言いんさったですよ。

ですので、そういうことを考えたときにね、僕はもともと防災無線で全部がカバーできるなんて、それは無理なんです。例えば、議長のお住まいの船ノ原、やっぱりあそこまで谷合いになってくると、聞こえるところと聞こえんことああすもんね。ですので、それを考えたときに、もう絶対にFM局というのは必要です。

で、24年9月で議会のお力をかりて電界調査をやったときに、僕は報告を受けました。ある一部分がやっぱり聞けないんですよ、武雄の場合は。一部分が聞けないんですよ、どんなに頑張っても。ですので、それで、じゃあやらないかということも議論をしたんですけども、そうであっても、60点でもやろうよということで、今、私自身は判断をしています。ただし、行政にはノウハウがありませんので、ことしの4月に総務省の地域おこし協力隊という制度があって、この制度でお二人を招聘します。1人はテレ朝のディレクター、もう1人は、全国にコミュニティーFMを立ち上げた技術の非常に秀でた方がいらっしゃいますので、この2人を招聘して、地域おこし協力隊になっていただいて、FM局の開設に向けて実際動いてもらおうということは思っています。ただ、これは御存じのとおり、総務省の認可事項なんです。認可事項ですので、今、私が立ち上げると言っても、すぐは立ち上がらないんですよ。ですので、そこはきちんと制度設計をして、あと、これはやっぱりね、財政上の話、これは事務方の言うとおりであります。財政の課題があります。それと、スポンサー集めもあります。ですので、これもしっかり検討していきながら、そこも後顧の憂いのないように武雄モデルというのをつくっていきたいと思っています。

そういう中で、私がうれしいのは、やっぱりフェイスブックをやられていない方々がほとんどなんです、武雄市内って。そういう人たちが、市長さん、いつFMでくっとですかで聞かるっすもんね、地域回りばしよったら。そのときに、こうおっしゃるんですよ。武雄市もお金のなかけんね、私がディスクジョッキーで出ますて、その辺のおぼっちゃんの言わすわけですよ。それが本当の意味での市民参加なんです。ですので、そういう意味できょうもディスクジョッキーになれるような中島さんて来ていますけれども、そういう方々をきちんとやっぱり取り入れることによって、市民協働型のコミュニティーFM局をぜひ開設していきたいというふうに思っております。ただ、場所とかね、最初、図書館にしようかなと思ったんですけど、図書館も、もう図書館オンリーというかね、それでFM局を開設するような場所ありませんので、恐らく局そのものについてはこの庁舎が、朝長議員からも質問があったように、多分、庁舎の中の一角がコミュニティーFMの局になっていくということと考えたいなと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に私の年齢でも、フェイスブックとは何ぞやとか、FB良品を買いたいけど、どうしたらいいのとか、いろんな声が上がってくる中、こういうFM放送で流れてくると、より多くの人がそれに参加することができるんじゃないかというふうが一番に思ったんですよね。本当に平等に情報をとることができるんじゃないかなというふうに思いました。

あと、大友さんのところへ行ったときに、やっぱり台所にラジオがあり、洗面所にラジオがあり、リビングというか、こたつのところにラジオがあり、本当にまだ恐怖にさらされて生活されているということをおっしゃるんですね。何かちょっと音でもしたら、すぐラジオという感じで、やはりラジオが一番情報をとりやすいというふうにもおっしゃっていたんですね。

あと、今やっぱり建物がみんなガラス窓というか、サッシが二重になっているから、なおさら外のそういう防災無線機の音がとれないということがあるそうなんです。だから、そういうものを密に、さらに防災無線機をより多く建てていくよりは、こういう、お金はかかるでしょうけど、FM放送局の開局というのがいろんな面で解消してくれるんじゃないかなというふうに私は思いました。情報としてもですね。あと、いろんなことを、商品とか、企業とかも宣伝とかしたかったら、協賛金というんですか、コマーシャル代というんですか、そういう形で運営をやっていけば、ある程度できてくるんじゃないかというふうに、素人考えですけど、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そういうふうにごやっておられるコミュニティーFM局ってあるんですね。例えば、FMうるまは、これはインターネットでも配信されていますので、聞くことが可能なんです。これはどういう運営をしているかという、会社とか病院が番組の枠を丸ごと買うということなんです。例えば、1時間を20万円とかで買うと。それで、その中で、例えば、当該病院はそこで健康講座をやるというやり方をやっているんですね。ですので、恐らくうちもそういうパターンがあると思います。

ですので、番組枠を、これは時間帯によって多分変わってくると思うんです。たくさん聞いてくださる時間帯というのは、やっぱり高く設定しているとかというふうになると思いますので、番組を市民、あるいは企業、NPO、病院とかに売っていかうことを思っています。その中で、先ほど申し上げた健康講座とか、食育講座とかというのをやってもら

おうと思っていますし、徳島のコミュニティーFMで一番人気があるのは、高校生とおばあちゃんのかけ合いが一番人気があると。お互い何を言っているのかわからないというのがすごく人気があると聞いていますので、そういう市民パワーも、武雄高校の放送部も含めてね、あるいは青陵中であるとか、武雄中であるとか、そういった若いこれからの世代のパワーを活用すると。で、その人たちがすぎですよ、絶対、親とか、じいちゃん、ばあちゃんも聞きます。ですので、そういうふうによく市民パワーをね、まあ、ちょっと僭越な言い方になりますけど、活用をしていくことが大事だろうと思っています。

それを、今、音楽もですね、これはおかげさまで、JASRACがすごく理解してくれたと思うんですけども、我々が最初、10年前、僕、インターネットFMを高槻で立ち上げた張本人の一人なんです。そのとき、コミュニティーFMを立ち上げようと思ったんですけども、物すごく音楽を流すにもお金がかかったのが、今、コミュニティーFMで音楽を流すといっても、年間でも10万円とか20万円の世界なんですね。前は桁が違っていたんですよ。ですので、音楽もやっぱり配信をしたいですよ。

だから、そういうふうにして、やっぱり今、お金がそんなにかからなくなってきていますので、せめてこれがコミュニティーFMがひとり立ちするときに、そういうスポンサーであるとか、そういったところから人件費ぐらいはきちんと元が取れるようにしていく、そのための応援はぜひ必要だと。これは行政が丸抱えだったら、番組もつまらないし、全然おもしろくもなんともないんですよ。ですので、そういうふうにはひとり立ち、一本立ちできるように、我々は応援をしていく必要があるだろうと。で、当然、この議会中継もスーパーコンテンツとしてFM局で流していきたいと思っております。後で議員さんたちの解説があったら、またなおよろしいというように思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にここは期待したいなというふうに思っております。誰でもよく作業しながらとか、何かながらにですね、よくかけるのがFM放送なので、よければ自分たちの地元の情報が入ってくるFMというのはとても魅力的じゃないかというふうに思っております。ぜひともこれが早く開局できるように整えていただけたらなというふうに思います。

それでは、次の質問に行きます。項目の2番目ですが、経済政策の公共事業の促進についてです。

もうこれはストレートに言わせていただきます。いつも私が挙げさせていただいておりますモニター、すみません。（モニター使用）これが梅野有田線の通学路がないところです。これは私がフェイスブックで、朝のふれあい運動が終わったときに挙げさせてもらって、本当にコメントもいろいろいただいた写真ですが、この政策で議会改革のときに市長が、この

お金はどういうのに使われますという形でおっしゃいました。それが道路の安全点検とか、防災事業、それに農業の暗渠排水とか、学校の施設などに使われていくみたいにおっしゃいましたね。

私は、もう本当にストレートに言わせていただくのは、この財政政策って、一時的な公共事業の促進で挙げられますが、結局、未来の子どもたちの借金になると私は思うんですね。ならば、ぜひとも毎日の通学がこういう状況で行っている中、何とかその事業費を充てるのが、補正なりなんなりですね、できないかなというふうに思っております。46億9,000万円がいろんなことに振り分けられていくでしょうが、ぜひとも取り残された歩道のない県道を何とかしていただきたいなというふうに、ここで言わせていただきます。

部長さんも一生懸命頑張っていたら、ここのちょっと手前になると思うんですが、側溝を全部やりかえて、70メートルほどきちんとふたをする、それぐらいまでしか今のところできませんということでおっしゃいました。今山区にも区長さんが、県道の問題はありますが、武雄市も一生懸命頑張ってもそういうところまでしかできませんという報告もありました。この側溝を70メートル掘り返してふたをすることで、ちょっとだけ広くなりますということなんですが、この経済政策のこういう対策、緊急経済対策のお金をぜひともここに緊急に回していただくことはできないものかというふうに考えるものですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ここは私もね、自分はランニングでよく使うんですけども、やっぱり子どもたちが、結構大型のダンプが多くて、風圧で飛ばされる、僕ですら風圧で飛ばされそうになるぐらいのところなんです。ですので、非常に危険だということは認識は、それは議員と全く同じです。

その中で、これは稲富県議に頑張ってもらって、県道梅野有田線ですよ、ここで、まず水尾団地のところというのは、前のところは拡張歩道として予算が今度の補正でつくことになりました。これが1億5,000万円です。ここをどうするかということについては、その水尾団地の前の歩道が完成してから次に取りかかりたいということですので、これはどれぐらいかかるんですかということを知ったら、早くても2年後だということを知りました。

ですが、もともと補正の前というのは、水尾団地の前ですらね、話はなかった話なんです。これは稲富県議が頑張って、言い方は悪いんですけど、ねじ込んだんですね、あの突破力で。ですので、今度また補正が出てきます、恐らく、今の感じで言うと。そのときに、2年後と言われてはいますが、これは早く早くということは私自身も力を尽くしていきたいと思っています。ここが危険だというのは十分認識をしております。ただし、何もやらないよりは、さっきも言ったように、側溝ぐらいは速攻でつけよう。

ですので、それでできない理由よりできる理由、そして、少しずつでもよくしていくということについては、それはきちんと意を払っていきたいと思っております。これは区長さんとか、山口裕子議員さんとか、もう本当にこれは一生懸命やられて、よく承知しています。ですので、その気持ちに答えるべく、我々としては、これはあくまでも県道なんでね、それは私がやるとかやらないとかの世界じゃないということなんですけれども、自分ができることは精いっぱいこはしていきたいと思っております。事故があつてからでは遅い。それはよく認識をしております。ただし、公共事業というのは、いいも悪いもこれはありますけれども、順番というのはやっぱりあるんですよ。そこはぜひね、本当に申しわけない、心苦しくは思うんですけども、そういった点を共有をしていただければありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

それは今までそういういい答弁を聞きながら、やっぱりどこも危険なところを最優先だからですね、承知しています。このたび、緊急経済対策という形で46億9,000万円ということだったからですね。

それと、ここが、ダンプがすごく行き交うようになったんです。それは、梅野が本当に歩道つきの拡張された道路がきれいにできましたね。で、こちら伊万里から大野までの線がきれいにできましたから、ここだけが取り残されてしまったわけですよ。だから、山口工務さんの前、今山からおりていったところですが、そこは何回も何回もアスファルトがひび割れて、何回も何回も補修しているわけですよ。対応できないんですよ、トラックが行き交う量がふえたからですね。だから、このアスファルトでさえ対応できない状態で、ここは取り残されているので、そこもちょっと写真に撮ってきていなかったですが、そこも承知していただきたいなというのと、これが本当に46億円もついてうれしいなと思うけど、このお金というのは次世代の借金だと思うんですね。ならば、ぜひとも学校の通学にですね、とてもこういう状況で危ない中行っている子どもたちを優先してほしいなという気持ちで、歩道をもう一度ここで言わせていただきたいなというふうに思いました。

それと、宮下部長も先ほどですね、みんなのバスでどれくらい利用が減るかというところで、ひょっとしたら大野病院まで行かれる人が歩いていくというので減るかもしれないと言われたんですが、本当、確かにここは歩道があれば、皆さん歩いていける場所なんです、大人も怖くて歩けないわけですよ。だから、きっと高齢化のおばあちゃん、おじいちゃんたちも、大野病院までは歩いていける距離なんですよ。だけど、ここに歩道がないし、吹き飛ばされそうになるので歩けないという状態なんです。だから、きつとうちは減らないで、みんなバスを利用されるんじゃないかなというふうに思ったところです。

再度ですね、部長、本当にこの対策にお願いできないかというところで答弁いただきたいです。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

山口裕子議員さんには何回となく御要望いただいております。私としては非常に心もとないものでございまして、歯がゆい思いもしておりますが、先ほど市長が答弁しましたように、この路線は山内町区間に限りまして、歩道がほとんど整備されておられません。現在、2工区にわたって、宮野工区——水尾団地のところですね、それから大野工区ということで着手がなされております。このうちで、宮野工区——水尾団地のところです。これに一昨年から重点的に予算が配分されておまして、24年度もたしか1億円、今年度、25年度は補正を含めまして1億5,000万円ということで、とにかくそこを早く終わりたいという県の考え方でございまして、その後、めどが立った時点で今山工区に着手させていただきたいということが明確になっております。したがって、年度的には明確にできませんが、2年程度まだかかるだろうという話を聞いておりますので、そういう時期になろうかなと思います。

それから、あわせて危険箇所の点検が昨年ありました。この関係で、24年度の予算、これは国の経済対策の予算でございまして、この予算をもって、小規模ではございますが、先ほど議員御指摘の側溝の反対側のところをですね、70メートルという距離でございまして、していただくようになりました。あわせて、路面の標示を若干減速するような標示になっているかと思っております。以上のような対策でございます。

先ほど市長が答弁いたしましたように、一日でも早く、一年でも早く着手できるように、県議さんたちの応援を受けながら進めてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

いろいろ重々わかっております。しかし、学校施設とかにも充てられるようになっていますが、まず、学校施設までに行く子どもたちの歩道ですね、宮野も本当に危険というのわかっていますし、ここの状況が今もう本当に悪くなっているんですね。大型トラックが朝早くから頻繁に行き交う、そういうことも踏まえて、緊急として対応してもらいたいなというふうに、またここで言わせていただきたいなと思って挙げさせていただきました。

また、県議さんたちもこの状況をしっかりわかっていただいて、推してもらわなければならないと思いますが、本当ここで充てられたのが、私たちはできるだけ子どもたちに負担のない社会に思っているのです、ぜひたくは言わないと、道路の拡張は要らないから歩道だけをというふうに最低限で要望してきておりますので、そこら辺を踏まえてさらなるですね、

できるだけ、ちょっとでも早くできるようにお願いしたいものです。わかりました。

それでは、次に行かせていただきます。3番目、武雄市の国際戦略についてです。

これも先ほど川原議員と重なったところがありますが、まず、私は香港ですね、佐賀県が香港事務所を開設するという形で、武雄市は笠原職員がそこで働くようになりました。その後、中国等の情勢も悪くなったりして、どのようになったかわかりませんが、香港はその事業に対してどうだったのか、実績とか、そういうのをお聞かせいただけたらと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

香港の代表事務所に職員を1名派遣しておりますけれども、流通面とか、あと観光面で頑張ってもらっております。その中で、流通面におきましては、香港及び中国大陸、これは南部のほうですけれども、そこの市場調査、あるいは日系スーパー等へ特産品のサンプルを持ち込んで、そこでの情報収集に努めているところであります。それから、観光面では、香港及び大陸南部において、武雄市及び県内への観光客の誘致を目指して、現地旅行社にセールス活動を行いながら、ツアープランの提案まで行ったところですが、昨年の尖閣諸島問題等の影響によりましてツアーが中止になったというふうなことで、手応えが出始めているというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

実績があったのか、なかったのか、よくわからないみたいな感じですが、はっきり観光で、そういう経由して武雄にどれくらいの観光客の方がいらっしやったとか、商品的にはどれくらいアピールすることができたとか、数値的なことで示すことができなかったとは思いますが、じゃあ、市長は香港に職員を送って、香港の実績としてはどう思われたのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとやっぱりあれなんですよね。出して1年で実績を求めるというのは、それは酷だと思えますよ。しかも、我々が想定し得なかったような中国と日本との関係悪化もあって、そういう意味で言うと、当初の予想からすると、すごくやっぱりまだ歩どまりが悪いということをおっしゃるを得ないんですが、それでも笠原を中心にして、本当によく頑張ってるね、先ほどちょっと答弁でもあったと思うんですが、ツアーの造成であるとか、いろんなインバウンドとか、本当に彼はよくやっております。ですので、そういう意味でいうと、

こういう厳しい条件の中では、やっぱりいいスタートが切れたなということは思っています。それは古川知事のすごい熱意も、私どもひしひしと感じていますので、古川県政が香港を中心として、中国の例えば物品であるとか、いろんなインバウンドとかというのは一生懸命やられていますので、それは我々としてもできる限りのことはしなきゃいけないということは思っていますので、そういう意味で言うと、いいスタートは切れたと。

それと、今ちょっと私が何うに、政府間の交流は日中で非常にまだ悪いんですが、草の根の交流はもう始まっているんですね。実際、中国で、これは言うなと言われていまして、言いませんけれども、僕は口が非常にかたいので。中国でも幾つかの政府の要人がお見えになっています。佐賀県にも、日本にも。これね、すごい話で、来たことは言うなと言うんですね。何じゃ、そりゃと思ったら、やっぱり中国の中にも日本、これは日本人でも言われましたけど、やっぱりそれは快く思わない方々もいらっしゃるということですので。ただ、そうはいっても、そういうふうに着実に改善に向けてなっている。

やはり、私は中国に対してはいろんな思いがあります。領土問題もありますけれども、そういう領土問題とか、過去の歴史とか、いろいろ日本も反省しなきゃいけないのはあるんですけども、そうはいっても、やっぱり隣人の国とは特に仲よくしなきゃいけないと思いますよ。ですので、それはやっぱり私どもも草の根交流の一環として、いろんな国としての問題、課題というのは双方あるにしても、そういう心豊かなというか、心温まる交流というのは絶対必須だと。私も中国人に何人か友達があります。いますけど、本当にいい人たちなんです。靖国の話をすると顔つきが変わりますけどね、これが教育の成果かと思いますがね、それ以外については本当にいい人です。すごく友達も大事にされますので、そういう温かい交流をね、我々地方政府、行政がちゃんとやっていく必要があるだろうということは重ねて思う次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

1年という形では、なかなかそういうのは見えてこないということもわかりました。今回、シンガポールという形で、FB良品とか、ほかの自治体の市長さん、首長さんたちが参加されて商談会があったわけですが、そのときは本当、シンガポールは自分も初めてだったし、ああ、こういうふうな社会だったのかというふうに、とても治安もよく、企業家の方たちがいろんな国から集まってきて、とても元気のあるというか、人と物とお金が集まってくるようなすごい都市だなというのを感じました。

という形で、市長が今回の議会開会のときに、次はシンガポールですと言われた意味も、ああ、そうだなというふうに思ったんですが、じゃあ、これからはシンガポールをどのようにつなげていくのかなというところでお考えをお尋ねしたいなというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この前、山口裕子議員にも御参加いただいた、写真をちょっと用意しましたので、商談会のね。そのモニターをかえてほしいと思うんですけども、（モニター使用）私が端っこにいて、真ん中がすごい大物バイヤーの方で、嬉野温泉のはっぴを着られた方が谷口嬉野市長さん、そして、その隣が塚部伊万里市長さん、で、白い服を着られた方が大刀洗の町長さん、そして、真ん中のこっちの町長さんが那須町長さん、そして四国の宇多津町長さんで、私ということになっています。

これからの首長というのは、もう現地に飛び込んでいくと。やっぱり話が早いんですよ。もう嬉野市長さんなんか最高に早かったですよ。もうそこで決めていましたから。ああ、これはもう僕は非常におくてなんでね、やっぱり見習う必要があるだろうと思いました。ですので、やれ出張だとかなんとかね、またいろいろ言われるとは思いますが、費用対効果で言うと、やはり僕ら首長が行って、そこでいろんな、例えば、商談をしたり、あるいはいろんな交流を持つというのは非常に大事だと思っていますので、私も市長会では浮いていますけど、浮いていることを生かして市長さんに呼びかけていきたい。このときは日程が合わなくて気の毒だったんですけども、鹿島市、小城市の担当部長さんもお見えだったんですよ。ですので、そういう意味で、オール佐賀県でやっぱりやっていきたいなということを思っています。

シンガポールの皆さんたちも、武雄だけとかいうのはあり得ない話なんですよ。ですので、佐賀県を中心として、地方の産品ですよ、それがうまく観光につながるようにね、ASEANは御存じのとおり6億人の市場があります。しかも、ユニクロの柳井会長兼社長がおっしゃったとおり、もう黄金郷だと言っているんですよ、今。所得もどんどん伸びていっている。ですので、中国のような不安定なリスクが極力ないということと、英語がきちんと通じることからして、県は一生懸命中国をされていますけれども、私たちは、少なくとも私の考えは、基礎自治体はシンガポールに目を向けるようにね、微力ですけど、私自身が先頭に立っていきたいと思っています。

そういった中で、やはり地域の所得向上こそがこれからの社会に一番求められていることだと思っていますので、世界と地方をきちんとつなげるということ、それと、僕が武雄市議会の皆さんたちにぜひ期待をしているのは、やっぱりこれですよ、これ。もうトーク、トーク、トークです。ですので、私の100倍ぐらいトーク、トークの人たちがその辺ごろごろいますもんね。こっちもですよ。ですので、ぜひそういう意味からして、市議会のお力を存分におかりをしないと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

F B良品とかでされると、本当に世界につながっているんだなというのも感じたし、やっぱり国内市場が縮小していく中、アジアというのは大きな市場であるということも今後考えていかなければならないことを思って、シンガポールも本当に武雄市にとっていい観光資源とか、商業施設の一つになっていくように私も願っていきたいものと思います。

それでは、次の質問に行きます。4番目の子どもたちの支援についてお尋ねします。

いじめの問題とか、虐待とか、いろいろな形で最近子どもたちの支援の仕方とかが挙がっておりますが、私は、いろんな保護者の方から意見をいただくんですが、学校に特色があって、そこが選べるような形は今後できないかというふうによく尋ねられます。それは、子どもたちも少なくなってきたので、ちょっと言うならば、ブラスバンドとかをやってみたいんだけど、うちの中学にはブラスバンドがないから、武雄のブラスバンドに入れなかなとか、そっちに行きたいんだけどとか、そういう声も出てきているんですね。

今、やっぱり周辺部とか、子どもたちもどんどん減っていきまして、ちょっと調べてもらった中でも、もう若木小はいつも牟田議員さんがおっしゃっていますが、本当、若木小はもう100人切って97名というふうに資料を出していただきましたし、西川登小も107名、東川登児童も110名、あと、北中も113名とかですね、本当に子どもたちがふえるような政策を一生懸命する中、やっぱり減ってきているのが実情なんですね。そのときにお母さんたちが、何か特色のある学校づくりとか、そういう形で学校が選べることはできないかというふうによく尋ねられるんですね。だから、できないことはないと思うし、そういうのをどうやってやっていけばいいのかというのはお尋ねしてもいいんじゃないかというふうに私は思って、今回出させていただきましたが、まず、部活動というのがもう成り立たなくなって、社会教育の中でやっている人もふえて、とにかくうちの山内なんかバドミントンが盛んで、嬉野のほうから学生さんが親の送迎で山内に習いに来たりとか、バトントワラーとかが盛んな嬉野には、山内西小学校の子どもさんがやっぱりそっちへ送迎して、放課後に習いに行くとか、いろいろな形で社会教育はあっているんですが、学校の部活とか考えたときには、どのような形に今後なっていくのかなというふうにとちょっと思いまして、教育長さんにお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

部活動につきましては、お話にありましたように、絶対数が減っているというところで、生徒、保護者の方の御意見等も踏まえて、それから指導者のことも踏まえて、休部したり、廃部というのが確かにふえているのは事実です。ただ、例えば、1年生が卒業まで続け

たいというのもありますので、人数が少なくても続けているところはありますし、現在では体育連盟のほうでも、2校合同のチームで出場すると、そういうことも現実にあっております。そういう状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

別に僕、教育長に、僕は尊敬していますので、別に盾突くつもりは全くないんですけど、それだとやっぱり不十分なんですよ。2校合同とやってやっても進まない。ですので、ぜひ私が教育委員会に提案したいのは、やっぱり部活で、例えば北中、牟田議員様の出身の北中がね、例えば、いろんな部が廃部になったりするじゃないですか。そうすると、武雄中は今でもマンモス中じゃないですか。そうすると、学校は北中でやって、その後の部活は武雄中でやりますとかというふうにしないと、2校合同とかという、もうそこで心理的な壁になるもんね。

ですので、僕はむしろ、部活の校区外しをぜひ提案したいですよ。そうすることによって、多分、集まれば競争の原理がまた生まれるんですよ。それと、今までなかった交流が僕は生まれてくると思うんで、部活を最初にきっかけとしてね——僕は校区が大嫌いなんです。おかしいじゃないですか。自分のところはここにお住まいだから、ここしか行けないって。ですので、やっぱり行きたいところに行くと。ただし、これは学校制度を、それをいきなりやると多分混乱が生じるので、まず、できるところ、例えば、部活とかを校区を外して、そういうところでしたいというような、例えば、保護者のお気持ちとか、生徒の気持ちを十分にそんたくすべきだと僕は思いますけどね。これができないことはないんでしょう。——できると、うんと言っていますので、そういう方向でぜひ教育委員会には検討してほしいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

この子どもたちの支援の中の一つで、なかなか思った部活動がやれないという形で相談を受けていましたので、今後、校区を超えて部活ができるというような形になっていくというふうに考えてもよろしいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

できませんと言いましたのは、現実には中体連前とか、一緒に練習しないと試合に出られないわけですから、実際にそういう形でやっているわけです。そして、片方は、団体スポーツが

3人とか4人しかいないで、練習の練習しかできないと。そしたら合同での練習というのは可能な限りやっている状況でありますので、そういう形で言ったわけです。

青陵中ができたこともありまして、そういう中での動きというのも一つ考えられる。それから、もう1つは、やっぱり指導者の問題がやっぱりあるわけです。非常にまた、学校の先生方の数も減っていますので、こちらの部活でというようなことも出てくるわけです。普通、ほかの学校に行くといったときには、常に話題になるのは、地域の子どもたちの活動等が片方には必ず問題としてなってくるわけですが、そういうことまで含めまして対応していきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、少子化がどんどん進んでいく中、やっぱりいろんな対応が必要になってくると思いますので、いろんな課題を一つ一つ片づけて、可能な選択ができるようにしていかなければいけないんじゃないかなというふうに私は思います。

子どもたちも減っていく中に、やはり学校自体が分校みたいな感じにもなってくるし、それはそれで、とてもいい特色のある学校運営とかになっていけばいいと思うんですが、あと1つは、保育園とかも選んでいけて、自分の、ああ、こういう趣旨のある保育園に行きたいなという形で、武雄のほうからもよく通われている、多久市にさくらんぼ保育園というのがあるんですね。そしたら、さくらんぼ保育園に通っていて、食事にも十分な自然食を使ったり、遊び物をつくられた遊具ではなく、全部自然のもので遊んだりという保育園に通っていて、じゃあ、今度学校を選ぼうといったときに、ああ、できるだけ木の素材の若木小学校がいいとか、その人は武内から保育園に通っていてもですよ、あと、武雄から通っていても、ああ、若木の自然のあるところに通いたいとか、そういう意見で相談をされたわけですね。だから、今、多久市も小・中が一緒になって、通学バス16台を用意して、新しい学校の施設になるように、今、そういう時代に来ているんじゃないかなというふうに思うので、市長の見解としても、そういう捉え方というか、学校の枠というところを、特色ある学校づくりで選んで学校に行けるといふ形はどうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

現に、例えば、若木小学校であるとか、武内小学校であったり、これは北方小学校もそうなんですけれども、物すごく急速に減っていているわけですよね。今のままだったら、部活はおろか、学校の活動すらできない。そういう意味でいうと、私は校区はないほうが良いと思います。そうしないと、学校間の競争って、やっぱり起きないんですよ。ですので、僕

は5年ぐらい前に言って、なかなか理解されませんがね、例えば、若木小学校だったら、アレルギーの子たちに対応する給食を出しますといたら、これは全国から来ますよ。みんなアレルギーでやっぱり悩んでいるんですよ。みんなというかね、本当に悩んでいる方は本当に悩んでいるし、これは場合によっては、よその小学校でありましたけど、死に至る話になりかねないんですよ。だけど、アレルギーの子たちというのは、話をじかに聞いてみると、何で私が食べられないのって、みんなが食べられて、完全に隔離しているじゃないですか、食べ物。それで非常に気持ちの負担というか、心の負担にやっぱりなっているんですよ。

だから、そういう意味でいうと、特色のあるね、例えば科目、あるいは給食、すごい給食って大事だと思っているんです。ですので、例えば、どこどこの小学校は地元でとれた有機のやつを出しますと。だけど、いっぱいとはれないから、1組と2組では中身が違いますと。いいと思いますよ、人間も違うんだから。上田議員と僕も全然違いますよ。だから、それを無理に合わせるんじゃないで、統一したものに合わせるんじゃないで、やっぱりあるものをちゃんと出していくということをしたときに、やはりここは、僕は競争が必要だと思っています。

ですので、人が少ないから減っていると嘆いているばかりじゃなくてね、例えば、固有名詞を挙げますよ。若木小学校だったら若木小学校、北中だったら北中って、全国から集まると。例えば、不登校の子は全部武雄北中に集まると。みんな悩んでいますもん。そこにちゃんと寄宿舎をつくってやると。それは武雄市内でもね、例えばいじめ、僕も聞いたことがありますよ。例えば、武雄中学校でいじめを受けている子がどこか転向したいと。だけど、もうずっと一緒だとなると、それでできない。だけど、それはできるできないは別にしてもね、いや、私は北中に行けますとか、川登中に行けますという選択肢があるだけでも、子どもたちの気持ちって絶対違うんですよ。

ですので、そういうふうに関係型、競争型のをするには、やっぱりどんなに努力しても、校区がある限り絶対だめです。だから、僕がさっき言ったように、まず、部活で校区を外して、それを見ながら学校の校区も外していくということは、僕は絶対必要だと思っていますし、僕もニュースで見ました、多久の。上田議員さんなんかは、みんなのバスの活用がいいんじゃないかって。僕もそのとおりだと思うんですけど、これはやっぱり本数が足りないんですよ。ですので、そういった意味でのスクールバスで、我々行政として応援をするということは僕はありだと思っていますので、これはよく教育委員会と議論を、で、議会は議会でそういう提言をしてほしいんですよ。議会の議員の皆さんたちというのは、民意のかがみなんですよね。ですので、議会としてこういうふうにあってほしいということは、ぜひ提言をしてほしいと思いますし、私自身は今そういうふうと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

やっぱり1クラスで、どうしても合わない子どもたちとかがあって、自分たちのときは次、来年はクラスがえだというふうにして、また、その子たちと別になったりとか、クラスが変わるからそれで消化されていたものも、もうずっと6年間1クラスしかなかったら、ずっとそれでいくわけですよ。だから、そういうのも一つの選択肢として、こういう形で学校があればいいなというのと、今ちょっともう、いろいろ調べると、西川登小学校は小学5年生は10人切って9人というふうに報告がっているんですね。そういうふうになると、今度は少な過ぎて、何か一つのグループ活動とか、いろんなのが学習的にも困難になってきたりとかする状況も出てくると思うので、私が山内町の議員のときは、まだ少人数学級をとかいて要望する時代だったんだけど、数年でこんなふうに、そんな要望どころか、もう要望なしでクラスは9人とか10人になっているわけなので、このような社会変化を経て、やっぱり子どもたちの支援のあり方も考えていかなければならないんじゃないかなというふうに思っております。

1つは——モニターをお願いします。（モニター使用）よくここの議会でも挙げられていますが、これはスクラムさんです。スクラムさんというのは支援学級教室ですよ。これは一般の教室に入れない子とか、要するに不登校さんという形でここに通ってくる子どもたちなんですけど、とてもいい成果を上げているというふうに聞いています。今現在、15人ここにいらっしゃって、5人は武雄市外からなんです。いい成果を上げていらっしゃるし、やっぱりどうしても、いじめとかいろんな事情があって、ここを物すごくいい居場所として過ごして卒業ができるという、一つの典型的ないいクラスだと思うんですね。だから、これがやっぱり山内のほうからも何人か通ってこられているというふうに聞きますし、これが武雄市に1つじゃなくて、山内にあったらいいんじゃないかなというふうにも声を聞きます。

だから、今やっぱり学校の対応の仕方、どうしてもクラス、幾らいじめはあってはいますか、あってはませんかとか、虐待はどうですかといういろいろ聞いても、本当に結果的に見えてこないものって多いんですよ。だけど、クラスに入れないとか、学校に行けないということは確かにあるわけだから、やっぱり子どもたちが選択できるということが一番じゃないかなというふうに私は思いますが、教育長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

スクラムにつきましては、清香奨学会の御支援をいただきまして、現在、不登校の子どもたちがここまでは行けるぞということで頑張ってくれています。例えば、今年でありますと、全部の子どもたちが毎日来られるわけじゃありませんけれども、在籍としては15名

ほどの子どもさんたちがですね、大体10名前後だったかと思いますが、通っている状況でございます。

子どもたちもいろんな考えがありまして、近くがいいとか、あるいは離れとった方がいいという子どもたちも、それから、ここはもうちょっと飽きた、学校に行ってみようという子ども当然おるわけですし、武雄中学校にはこのスクラムの分室という形で、まだ教室は入れないけど、ここまでは来られますよと、そういう子どもたちもいるわけでありまして、そういう体制で現在進めているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

今、子どもたちはやっぱり地域にはなかなか行けないけど、有田からここ武雄だったら通ってこられるとかですね、それと今、いろんな発達障がいとかいう子どもたちもふえていて、自閉症とか、ADHDとか、アスペルガーとか、いろんな発達障がいを持ったお子さんたちなんかはとても、同級生は苦手なんだけど、異年齢の中でだったらうまくやれるとか、いろんな成果とか、そういう形があって、フリースクールのじゃないですが、異年齢で学ぶ場所とか、そういう新しい学校がいろいろ、全国にはフリースクールという形で運営されたり、そういうのがちらほら見えてきておりますが、あと、市民の皆さんから言われるのは、（モニター使用）これが立野川内分校になるんですが、これの活用、前回は挙げさせていただきましたが、今ここは分校で利用されていますが、よく言われるのが、ここに支援の学校みたいな感じはできないのかというのをよく尋ねられます。それは今ですね、数年したらまた入学してきますよとか、いろんな形で人数はそこそこ変わるんですが、やっぱりもう子どもたちが少ないから、分校はとっても数が少ないです。で、本当に僻地とか、山の上とか、そういうところのお子さんとか学校施設だったら、本当の意味で分校は必要ですが、この立野川内分校は学校も本校も見えているし、どっちを本校にしたらいいのかなというぐらいの距離なわけですよ。やっぱり立野川内もことしは1年生が4人、2年生はゼロという形で、ここは4人の方が利用している分校ですよ。で、体育館もついて、学校施設があるというわけですね。だから、こういう形の施設を利用して、もっと学校は変わっていったいいんじゃないかなという意見をお聞きしますが、その辺の考えの点では、市長さんはどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは所管が教育委員会ですので、教育委員会には教育委員会のお考えがあると思いますので、これは私の市政を統括する立場ではなくて、個人的な見解でよければ、ちょっとお許

し願いたいんですけど、私は、何というんですかね、私も不登校だったんですね。武雄高校時代、立派な不登校生で、もう本当にあと1日休んでいれば卒業できなかったというぐらい重度の不登校だったんです。私は、議員の皆さんたちは信じられないかもしれませんが、集団行動ができません。協調性も皆無です。友達は、皆さん以外ほかにはいません。ですので、そういう悩みを持つ若い世代って、僕も直接接したことがありますけど、結構やっぱりいるんですよ。今の学校ではどうしてもなじめないって。ですが、学びたいという、僕もそうだったんですよ。

ですので、そういう子たちというのは全国にいると思うんで、できればコミュニティースクールですよ、文科省のいう。あるいはフリースクールをぜひ武雄でもやりたいと思っているんです。そのときに新たに校舎をつくるというのは、これはもうナンセンスのきわみですので、そういう意味で、例えば、こういう分校とかね、例えば、空き教室があるのであれば、そこにまずね、小さくしていくのはありだなと思っています。

ただ、これ運営が、市が行うというのは到底これは不可能な話ですので、図書館をCCCと今連携してやっているじゃないですか。ああいう形で、例えば、病院だったら、形態はたがえども池友会の皆さんたちとやっているということがあったときに、民間のすぐれたね、やる気のあるパートナーをぜひこれは探したいと思っていますので、今度の私がやるべきことは教育です。しかも、地域の教育、画一的ではなくて、生きる力を育てる、あるいは武雄を本当に誇りに思ってもらおうと、そういう教育を武雄にもぜひ根づかせたいと思います。そうすることによって、やっぱり近くに通いたいという方がいらっしゃると思うんですよ、市内でも。ですので、それは小学校になるのか、中学校になるのか、高校になるのか、まだわかりませんが、そういった形での企業誘致じゃないですけども、そういうパートナーをぜひ引っ張ってこようと思っていますので、これは御期待ください。

ですので、もしうまくまとまれば――まとまればですよ、これは相手のある話ですので、来年の4月に発表したいと思います。来年度じゃなくて、来年の4月にこれは絶対発表して、こういうフリースクール、コミュニティースクールを武雄でぜひ設置するというのが私の次の政策課題です。病院が落ちついて、今度図書館がもう落ちついてます。いよいよ本丸です。これは議会の皆さんとともに、やっぱりこれは上田議員からもたびたび質問がありますけれども、学ぶ場が近くにあるというのは絶対大事です。ですので、そういう意味で私自身、力を注いでまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。もう一度教育長にお尋ねしたいんですけど、やっぱり分校は分校でなければならないというのではなくて、使い方というところをですね、子どもたちを支援し

ていくというのに枠を外したというか、そういう形でここが大きく利用価値が上がるような、分校も含めてですね、そういう形になっていってほしいなという願いに対してお答えいただきたいというのと、とてもよかったなと思うのは、私はちょっと議員研修かなんかで参加できなかったんですが、学力向上のタウンミーティングというふうに、地域の学校区の方たちとの対話集会があったと思うんですね。その中でいろいろ声が上がったと思うんですが、どういふ声が大きかったのかなというのをお聞きしたいですね。

今後とも、そういう学校区でいろいろ情報交換というか、そういう対話集会は続けていかれるのかというところをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

3点話をさせていただきます。

先ほどの、ちょっと通告を十分聞き取っていませんでしたので、部活につきましては、現状ではかなり縛りがあるようでございます。ただ、生徒の立場を考えたら、先ほどのようなことになろうかと思いますが、例えば、個人競技、これについては現状では合同ができないような仕組みになっているんです。それから、どちらも人数が足りなくて成り立たないと、そういうような何か条件があるみたいですが、ちょっとここは私も今後確認をしていきたいというふうに思います。

もう1つ、分校の件でございますが、各学校とも地域の皆さんの思いというのは、片方には非常に強いのがありまして、分校につきましては、特にそういうふうなことがあります。立野川内につきましては、特に地域の支援も受けているような状況がございます。教室の空きぐあいとかにもよりますけれども、確かに現在は単学年しかないんですが、27年度以降は2学年できるような形ですね。それから、船の原につきましては、27年度なんかは1、2年生で19名というような予定になっております。ただ、犬走のほうは28年度以降ちょっと少ないんですけれども、いずれにしましても、状況を見ますと、そういう少ない人数のところもあります。ここ数年でどうこうということは考えておりませんが、当然、各学校の本校舎まで含めまして有効な活用というのは当然のことですので、今後も注意深く見ながら、そして有効に活用していきたいというふうに思っております。

タウンミーティングについてお尋ねがございました。

12月に学力・学習状況調査の結果につきまして、学校別の公表をいたしました。それについて誤解があってもいけない、あるいは一番は、5年間の学力調査等があったわけですが、全国と県の調査等があったわけですが、もう各学校とも先生方は非常に頑張ってくれていると思っております。もう本当に遅くまでであったり、いろんな面で頑張ってくれているんですが、さらに子どもたちの力を高めようとしたときには、やっぱりこれはもう学校と、さら

に家庭の協力、地域の協力をいただくことで、さらに向上させることができるんじゃないかという、そこを第一の目的としてお話をいたしました。そのことは、きょう質問にもありましたように、単に学力の向上だけではないんだということで、心の問題、あるいは、あとのほうで出ましたけれども、やっぱり体力も必要じゃないかというようなことも出ました。そういう意味で非常に、学力向上を中心にしてというサブテーマで開きましたけれども、結果といたしましては、いろんな面の子どもたちのことについて話をお聞きすることができました。

何より、武雄ならではだと私が感謝しましたのは、雨が降ったり、寒かったりしたんですけれども、3分の1ぐらいの出席の方が区長さんであったり、あるいは民生委員さんであったり、孫世代の方を子どもにお持ちの皆さんが3分の1ぐらいどこの会場でもいらっしやったんですね。これは本当にありがたいと思ひまして、今後もまた地域と一緒に進めていくことができるんじゃないかという期待を強く持ったところでございました。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございました。子どもたちの環境もどんどん変わっていくので、支援のあり方もそれに対応して、いろんな形で教育委員会のほうも対応していただきたいなというふうに思っております。

では、最後のおもてなしのまちづくりについてお尋ねします。

最後の中の1番目、花いっぱい運動についてお尋ねします。

モニターをお願いします。（モニター使用）これが今山公民館で、これは2つが婦人会のほうで、大きいほうが老人会のほうです。これですね、老人クラブのほうから置いてある花ですね。あと、ここが公民館は、これは山内町の婦人会が花いっぱい運動をされていて並べているところです。これもですね。これは支所前です。これが、老人会のほうもハナボタンを提供されています。ここが、北方はとってもきれいなサクラソウが、これは北方公民館の前です。これは武雄市役所の前ですね。これは、若木小学校が若木小学校児童一同という形で、4つプランターが並んでいます。

それで、私が一昨年というか、前、議会のときにグリーンカーテンの後の活用をお花いっぱいにしていただきたいなというふうに挙げていたんですが、ちょっと残念ながら、ことしはお花が入っていません。このことなんですが、やっぱり職員さんが多分パンジーとかをされていたと思うんですが、もう職員さんは忙しいと思うんですね。だから、皆さん地域では花いっぱい運動で、各家庭も花をいっぱい植えているし、いろんなボランティアグループがお花を植えているところです。だから、ここのですね、せっかくなさくさんのお客さんがいらっしやって、やっぱり足元は大事だと思うんですね。市役所にたくさんの方が研修なりなん

なり、行政視察なりたくさん来られるので、ぜひとも足元をきれいにさせていただきたいなというふうに思って、あいたプランターの活用を言っていたんですが、ことしはちょっと残念なことに、そういう時間がなかったみたいです。

今後のことを考えまして、ぜひとも花いっぱい運動は自主的にですね、ボランティアとかいろんな形で既にもうやっておられますが、婦人会の場合は環境課に言えば、花苗がその分いただけるようです。そういう形で、市役所の周りもですよ、こんな形で花いっぱいにできないかなというふうに思っています。

あと、ちょっと庁舎の外に出れば、ここが市役所前のバス停、これは委託されているのか、庁内の人がされているのか、私はそこまで調べていませんが、ここが整地されたところの市役所横側ですね、もうすごいお見事、プランターにパンジーが生けられて、それはきれいですね。そんなふうに花いっぱい運動を市内でできたらいいなというふうに思っております。庁舎は特にたくさんお客さんが訪れていらっしゃるので、そういうところでいい形で花いっぱいさせていただきたいんですが、いかがでしょうか、質問いたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

花いっぱい運動ということでございまして、庁舎につきましては、環境課のほうで自主的に、現在、夏場には緑のカーテンをしてもらって、その後にパンジーを植えていたということとあります。24年度、今年度につきましてはパンジーが植えられていないということで、ちょっと寂しいような感じがいたします。そのほかに、都市計画課棟もされておまして、市役所周辺の道路を利用して、街路樹の足元、あるいはプランター等を置きながら景観形成に努めているところでございます。また、その作業をやっていただいている方につきましては、やっぱり周辺の長寿会の方、御船長寿会、天神区、それから武雄市建設業協会の方たちもボランティアとして御協力いただいているところでございます。市庁舎の直接の職員での対応というのは、なかなか今、時間的なものもございまして、議員御指摘のとおり厳しいものもございしますので、今後は少し知恵を出しながら進めていく必要があるかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私自身がこのところって余り通らないんで、今、多分こうなっているんですね。もう早速撤去します。もう見苦しい。ですので、撤去した上で——ただ、今度やるときというのは、ちょっとお願いしようと思っているんですね。うちも残業禁止令を出して、業務は物すごくふえているんでね、なかなかここまで目が届かない。やるにしたら徹底的にやらなきゃいけないんで、実際ボランティアでされている、例えば、老人会の皆さんであるとかにお願い

いしようと思っています。その上で、こういうふうに各種団体が、建設業協会でもやってくださっているんですよね。ですので、お願いした上でやっていただくということに切りかえていきたいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、職員の方ではなかなか手が回らないと思うんですね。でも、お見事なグリーンカーテンとかもできていたし、ここは本当に行政視察もこのように並んでいるようにお客さんは多いので、ぜひともそういう形で、いい花いっぱい運動ができたらいいなというふうに思います。

それでは、次に、イベントなどの対応についてお尋ねいたします。——すみません、せっかくモニターを用意していたので、（モニター使用）2番目に入る前に、佐賀県の佐賀城下ひなまつりが、ことしは特別に花いっぱいというか、花を生かしたオブジェでひなまつりが飾られているんですね。やっぱりお花というのはすごく効果があるんですね、まちづくりとかに対して。このように、ことしは花をたくさん飾られています。そういう意味でも、花のあるまちづくりというのはとてもいいんじゃないかなというふうに思っていますので、今後ともよろしくお尋ねいたします。

モニターはいいです。ありがとうございました。

それでは、次の2番目、イベントなどの対応についてお尋ねします。

前日も申しましたけど、物産まつりとか、飛龍窯灯ろう祭りとか、武雄市のイベントがたくさんのお客さんでいっぱいになる、想像つかないぐらいにお客さんに来ていただくようになっていて、その対応というところで、やっぱりもっと考えていかなければ、次の図書館まつりとか、市民がゆっくと楽しめるような形にならないんじゃないかなというふうに思って挙げさせていただきました。

飛龍窯灯ろう祭りは、私は昨年行けなくて、ことしはぜひとも思って車で出かけていたら、武内のJAもいっぱいになりました。武内小学校もいっぱいになりました。中川内医院もいっぱいになりました。最後に用意された北中に上ってくださいということで、上ったのはよかったんですが、1時間以上そこで待ちました。もう本当に対応をどうしたらいいのかなというふうに思って、皆さん、どうしても見たいから、文句を言う人はおられなかったんですね。だけど、私はやっぱり議員でもあるから、皆さんに御説明させていただいて、歩か、ここで帰るか、そのままバスを待つかという形を自主的に選びくださいというふうに一生懸命頭を下げてですね、それでも皆さん文句は言われなかったですね。

だから、このように想像を超えてお客さんがいらっしゃっているので、やっぱりそういう対応をですね、順路とか、そういうのをもう一度飛龍窯灯ろう祭りに対しては考えなければ

ならないということと、あと、図書館まつりをたくさんの方が私の周りでも楽しみにされておりますので、そういう対応を、お客さんがふえているというところで市民がゆっくり楽しめない状態になってきているんじゃないかということも踏まえて御意見がありますので、今後のイベントなどの対応についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、飛龍窯のほうなんですけれど、去年、反省を踏まえて、ことしもバスの増便とかやったんですけど、それでもやっぱり来訪者の方々の数に追いつけないということがあって、今回もさまざまな反省点がありましたので、そこはもう一回ちゃんと見直そうというふうに思っています。

いずれにしても、楽しく歩けるようにね、歩ける方は歩いてその会場に向かえるようにね、そういう仕掛けをぜひしていきたいと思っておりますし、図書館のほうは、オープン前の3月31日の午後に市民の方だけ開放いたします。3月31日日曜日の午後、武雄市民に開放をしていきたいと思っております。4月1日がオープンなんですけれども、やはり武雄市民の皆さんたち、早くやっぱり見たいということの御期待に応えたいと思っておりますので。

それと、もう1つが、3月31日にどうしても行けない方に関しては、ちょっとこれ、教育委員会でもよく調整しますけれども、5月か6月ぐらいに市民デーをちゃんと設けようと思っております。恐らく4月になると、全国的に多分報道されることになって、物すごい人がやってくると。そこにあって市民デーを設けると、せっかく楽しみに来られた方々とどうしてもやっぱり違和感というのが出てまいりますので、少し落ちつくのが、多分5月か6月には落ちつくと思っておりますので、そのときには1日フルで市民デーを設けたいと思っております。最初は4月3日にしようと思ったんですよ、市民だから。ですので、これは混乱のもとになりそうなので、そこはちょっと変更をさせていただいてやる。ただ、確定しているのは、3月31日午後ですね、ぜひ市民の皆さん方、お誘い合わせの上、おこしいただければありがたい。その際は私も当然いるようにしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

どちらにしても、武雄市が本当にお客さんが訪れて、とてもいいまちづくりになっているんじゃないかというふうに思います。やはり市民の方が満足できなくていいおもてなしができないので、そこら辺のことをよろしく願いいたします。

それでは、これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で4番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、10分程度休憩をいたします。

休 憩 15時57分

再 開 16時6分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、5番山口良広議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

こんにちは。私、ただいまより登壇の許可を得ましたので、山口良広の一般質問をしたいと思えます。私に与えられた時間は130分ですので、一生懸命頑張りたいと思えますので、どうぞよろしくお願ひします。（「90分」と呼ぶ者あり）90分か、どうもすみません。

私の一般質問では、行政視察対応について。次に教育問題について、学校におけるいじめ対策、体罰に関するアンケートの公表について。そして農業問題について行いたいと思えます。

その前に、農業問題ということで、T P Pの問題で、今、大きく騒がれております。県内の市町村では、意見書の提出ということで、いろんなところが動いております。今、小池議員を中心にしてT P Pに対する意見書の提出ということで検討されておりますので、その際、皆様の御協力をよろしくお願ひします。

私は、この問題では、農業は守るべきだと思ひし、またそれと同時に、これが米がもし自由化で規制緩和でもなったら、つくる自由、売る自由の中で大変な米の販売をするんじゃないかなというふうなことを考えております。ぜひ皆様の御協力よろしくお願ひします。

では、私の質問に移ります。今回、私は会派の研修で、まちづくり、地域のものづくり、また観光ということで、金沢のほうに研修に行きました。今、新幹線、北陸線の金沢駅乗り入れを2年後に控えまして、金沢のまちは活気づいておりました。そんな中で、J R金沢駅のすばらしさ、またいろんな施設や観光施設を回ったですけど、そんな中で、いろんな人が一生懸命これに期待して、まちづくり、市づくりがつくっておられているのが印象的でした。武雄も数年後には新幹線が乗り入れがされます。それに向かって、ぜひ大いなる市民運動として盛り上がることを期待したいと思ひます。

そんな中で、私はおもてなしの心というもので質問したいと思ひます。それは金沢市役所に行ったときです。私たち、案内された部屋で、温かいお茶を一人一人にふるまわれました。寒い北国の身も凍るような中で温かいお茶です。最高のもてなしです。もしここに冷たいペットボトルでもあったら、寂しいというものを感じたものです。

そこで私は提案したいと思ひます。武雄はお茶どころです。それと焼き物の産地です。そ

れをセットにして、武雄市役所に行政視察の方におもてなしができないか。武雄は出湯と陶芸のまちで有名です。ぜひお願いしたいわけです。

この焼き物でも、私は地元の陶芸家の焼き物というものを利用されないかというものがここのでの市の提案です。そしてそれを一、二カ月、できれば2カ月単位ぐらいで窯元に提供をお願いして、その焼き物でこれは武雄内でできた焼き物ですよ。そしてそういうことが会話の一つになり、その行政視察の団体の皆さんが窯元めぐりでもしたいなというふうな声が出るような雰囲気をつくって、ぜひ窯元まで足を運んでもらうような形での行政視察対応というものができないかということをもまず質問したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

行政視察のお話がありましたので、ちょっとグラフにしてみました。（資料を示す）これ、電子版じゃなくて恐縮なんですけど、合併したときに18件ですよ。それが平成24年だと1月までに154件で、恐らく平成24年は180件になろうとしています。これ掛ける10となると、もう1,500人の、あるいは1,800人の皆さんたちが武雄市に平日お越しになっていると、平日ですよ。お越しになっているということからすると、今、議会事務局の特に奥さんが、奥さんの奥さんなんですけど、非常によくやっております。今、私もよく視察対応はしますけれども、議長も対応していただきますけれども、今、レモングラスティーをガラスに入れて出していると。しばらくすると、お茶を奥さんがよく頑張ってお出されています。

そういう中で、先ほどちょっと器ですよ、部分については、確かにそうだなと思いましたが、ここは話すきっかけにもなりますので、ぜひ山口良広議員から呼びかけて（発言する者あり）いただきたいと思っております。なかなかやっぱり行政が言うと、何かちょっと僕らは非常におくてですので、やっぱり突破力のある山口良広議員様にそれをお願いをできればありがたいなと思っております。おっしゃったことについては、全く同感です。

これが今回はだめでも、次にじゃあ来たときに窯元に行きたいとかというふうになるように、我々もそういうふうな工夫をしていきたいと思っております。今、武雄の産品でやっていますのは、今、来た議員さんたちにFB良品をカタログ化して、これはうちの古賀敬弘さんのアイデアなんですけれども、カタログにして売っているんですよ。売って、買ったものを後で送りますと。お名刺いただきますので、お名刺を控えた上で、同意を取った上で、お金をいただいて送っていると。これが多いとき、月間でも50万円超しているんですよ。その議員の皆さんがお越しいただくのが。ですので、もちろん、物産館に行ってもらったりしてもおりますけれども。そういう意味で我々とすれば、武雄のいいものですよ、黒岩幸生議員からもありましたように、武雄のきちんと名のつくものをしっかりそういう場を使って今やっているということは、今やっております。

その中で、これは私から最後にしますけれども、なるべくせつかく来ていただいたので、おっしゃったように、窯元であるとか、さまざまのところに行っていただくように、動線づくりというのはちゃんとしていかなければいけないなと思っております。図書館がオープンすると、恐らく物すごく行政視察がふえると思います。泊まっていた方々に対しては、それはちゃんと受け入れますけれども、なるべく図書館で私自身説明をしたいと思います、図書館で。ですので、特にこうします、2泊3日で来られた方は図書館でやります。1泊は市役所。ですので、2泊3日泊まれた方は図書館でやりたいと思いますので、これは結構全国の方々が見られていると思いますので、そういうことで我々ができることは、やっぱり多くの皆さんたちに来ていただくと。特に議員の皆さんたちはまた発信力がありますので、それを次の観光につなげていくということも含めて、私どもは考えなきやいけないなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ私に与えられた使命と今言われましたので、ぜひそういうメンバーの方と会合する席には、こういうふうにして市役所に売り込んで行かんやということば、（発言する者あり）貸してくいございて言いたいと思います。

そんな中で、今、宿泊のことが出ました。（発言する者あり）

ここに新聞がありまして、2012年3月の佐賀新聞です。「武雄市の行政視察急増、宿泊先、旅館さっぱり」という新聞です。「ユニークな事業を打ち上げ、全国各地の議会から行政視察が絶えない武雄市。宿泊による経済効果も出ているが、市内のビジネスホテルとシティホテルに集中し、温泉宿に泊まる議会はほとんどない。政務調査費などの公費で泊まるため、「温泉宿は歓楽のイメージがあって報告書に書きにくい」というのが主な理由」というふうに載っており、くっきり明暗が分かれ、宿泊施設団体が潤ってほしい市や温泉関係者は困惑しているというものがあります。ぜひ今度、今市長が言いましたように、図書館も新しくなりますと、またこれ以上の数字の行政視察があると思うわけです。それをやっぱり私はおもてなしの料理や観光事業につながるような形で温泉旅館あたりに泊まってもらうために、これまた結局、市がするでもなく、ただ本来ならば、業者の方がこういうふうなメニューを持っているから宿泊をお願いしますという前向きなる行動があつていいんじゃないかと思っているわけです。

例えば、今、市内に若い農業後継者の組織してあります武友会という組織がありまして、これは農業者団体です。そのメンバーと武雄市内の旅館が手を組みまして、自分たちがつくった農産物で料理をつくるというふうなイベントをやってみたり、朝市に商品を使ったもので料理をしていますとか、先ほど言いましたように、市内の焼き物を器にしている料理で飾

りますよとか、また、僕らがつくっていますレモングラスを使ったお風呂ですとか料理とか、またイノシシを使いました料理というふうなアピールをぜひ温泉街の旅館のおやじさんたちのほうから声を出してもらおうというのが何よりだと思っわけです。そんなことを市としても、ぜひこういうような形で、ここに金が落ちるんだから、それを皆さんも温泉街に泊まってもらって、所得向上につながりませんかというふうな声かけというものをして、そういうふうなことになれば、F B良品にしても、いろんな商品にしても、もっと地元潤って、地元が活気があってこそ、本当の行政だと思っわけですけど、その点どう思われるか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それはやっぱり議員が御指摘のとおり、旅館であるとか、飲食に携わる皆さんたちのお気持ちだと思いますよ。僕らは行政ができることというのは、やっぱり武雄までいっぱい人を連れてくるというのは行政でできます。ですが、その先にじゃあどこに泊まっていたかということに関しては、それは魅力をちゃんと持った上で、旅館であるとかホテルであるとか、レストランもそうですけれども、やっぱりきちんと発信をすることじゃないでしょうか。それが僕はおもてなしであるし、それが競争だと思っています。

おかげさまで、これは武雄市議会のおかげで、今、行政視察を含めて、もう圧倒的にふえて、今度、図書館も多分、年間で100万人を超す勢いになってくると思っんです。そのときにいろんな問題とか課題とか、山口裕子議員さんからもあったように、交通渋滞とか、多分問題出てくると思っんですよ。ですが、多くの皆さんたちにお越しいただくという意味では、これは非常に意味があると思っていますので、ぜひこれを聞いておられる、例えば、旅館の方とかホテルの方は、図書館と連携したパックでもつくってほしいと。パックは顔だけじゃありませんよ。ですので、そういうパックとかツアーをつくった上でね。それは僕もある意味、もう広告塔ですので、私も使ってくださいということで、ぜひ、やっぱり今、資源があります。

それでよく言われるのは、もっと温泉売れとか、もっと陶芸やれとかといろいろ言われるんですけど、それだけじゃだめなんですよ、やっぱり。もう全国同じことをやっていますから。ですので、図書館が今度はある意味、情報の発信になるということになれば、それは全国とは違う意味で人を引き寄せる大きな力になる。ですので、それをぜひ図書館を、またこれいろんな御批判はあるというのは重々承知していますけれども、ある意味、今度は日本最強の図書館です。私、今まで世界で一番好きだった図書館が、ニューヨークパブリックライブラリーだったんですよ。こんなニューヨークパブリックライブラリーなんかはるかに超っていますよ。これみんな笑いますよ。笑っただけど、僕は中に入りました。入って、その空

間に圧倒されました。ですので、そこでやっぱりまた来たいとか、ここで本を借りたいって
いうので、観光の一つの大きな要素になると思いますので、ぜひそういう意味で、図書館で
あるとか、あるいは武雄市政であるとか、病院もそうだと思うんです、新武雄病院も。それ
とうまく連携して発信するように、また改めて旅館組合等をお願いをしたいと。それに頑張
っているところは僕らも応援します、徹底的に応援します。底上げは、もう無理なんですよ、
底上げは。ですが、頑張っているところをやっぱり応援するというのは、僕らの得意技です
ので、そういう意味で、ちゃんと応援をしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私もぜひ今昼間に図書館には年間100万人のお客が来るというふうな、（発言する者あ
り）超すというふうな感じを聞いたわけです。今、私もお酒が好きでありまして、夜は川端
通りに行くわけです。その際に、今、地域のよそのほうから聞くわけです。武雄のまちの夜
は元気かねえて。（発言する者あり）あれだけの夜の元気が昼間にもどがんでないとなし
て武雄んまちに金が落ちるような政策というものが私は必要だと思うんです。それができてこ
そ本当に武雄市民が、ああ武雄市は頑張っている、これにうまいところ乗れば、我々の懐ふ
えるなというふうな——つながると思います。ぜひそういうふうな形で我々もいろんな機会
の中でこの図書館とか、いろんなものをうまくミックスした形で頑張ってもらうように発信
したいと思います。よろしくお願いします。

次に、教育問題について移ります。

最近のマスコミ報道を踏まえて、なぜいじめが多発するのか。いろいろなところで川原議
員のほうからもありましたように、全国で報道されているわけです。その背景を教育長とし
ては、どういうふう考えておるか、見解をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いろんな報道についてですが、私どももいろんないじめを体験しながら成長してきただろ
うというふうに思うんですね。調査によりますと、子どもたちの8割以上が加害者側と被害
者側、両方に丸をつけるというんですね。つまり、それぞれ人間として、やっぱりそういう
両面を持っているというのが現実のようであります。しかも、そのほとんどが半年前にした
調査と変わってくると。「いじめを受けていますか」、「いじめられていますか」というこ
とに、それがなくなってみたり、「いじめしていますか」に今度丸がついたりというふうに
ですね。

ですから、ほとんどのいじめは、やっぱりいつの時代もあるわけですから、半年ぐら

いを超すような長期的な継続のないじめというのは、数的には非常に少ないというようなことも言われるんです。ただ、お話にありましたように、東京とか愛知とか福岡では、中学生の自殺の例もありまして、大河内君とか鹿川君とかいう名前がまだ浮かんでくるわけでありまして。本当に悲痛な叫びを残して亡くなった子どもたちも片方にはいるわけでありまして、そういう子どもたちの叫びに絶対そういうことは、こんな目に遭わせたらいけないというのが今の私たちの新たな覚悟であろうというふうに思います。そのたびに、どうしてこう気づけなかったのかというような反省が、あり方が問われてきているわけです。

今申しましたように、特徴的なことは、ほとんどやっぱりスタートは、ほんな冷やかしか、からかいとか、嫌なことをさせるとか、仲間外れ、無視、軽くぶつ、金品を隠す、盗むとか。最近では、どうしてもインターネットを使ったネットの掲示板への書き込みと。それをまた今度は第三者があおるというような、非常に見えにくい情報モラルでのいじめ等も特長として出てきているということでございます。

いじめの背景、簡単にはなかなか言えませんで、どの例もやっぱりいろんなのが複雑に絡んでいるというのが事実でございます。児童・生徒の対人関係をうまく育て切れていないなということもありますし、あるいは先ほど来の質問にありますように、本当に学校で満足感を持って夢を持った生活ができていかなというようなこともあります。あるいは家庭の問題として、やはり少子化の時代というようなこともありますし、一番私どもがふだんに学校で教える側としてどうかというようなところも常々反省しながらやっているわけですが、一つ一つの例が、背景といえども非常に複雑に絡み合っているというのが現実でありまして、現在のところ、そういう把握をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

このいじめというものは大変な問題でありまして、児童・生徒の生命、身体の安全を預かる学校としては大事な責務だと思っています。そんな中で、このいじめ対策というものは、いじめをどうするかといたら、どうしても学校だけでは無理があると思うわけです。そんな中では、家庭、特に保護者、地域社会との連携ということで、後ろに朝日の区長会の方も見えておりますけど、朝日のまちづくりのほうでは、武雄中学校に昼間の時間帯に校舎内見回りというふうな形もやってみたり、いろんな活動がなされているわけです。

武雄中学校も一時的に荒れた学校ということでレッテルを張られたりしていたわけですが、そんな中で、保護者、地域との連携が必要ということで、今、武雄中学校のほうでは、学校取り組みとして、武中のちからという地域先輩の力をかりた活動が行われているわけです。もしよかったら、教育委員会が把握されている範囲内でいいですので、その活動内容等、御報告してもらえればありがたいですけど、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）お話しのように、武雄中学校では、「武中のちから構想」ということで、一番上に書いてありますように、家庭・学校・地域連携支援体制づくり推進事業という名目で、平成23年度、平成24年度、一応、来年度まで計画をしているわけです。その事業の支援も受けまして、「武中のちから構想」というのを推進をさせていただいております。

学校のそれぞれの努力に加えまして、家庭、地域の方の応援を得て、さらに元気な、本気な大人との出会いということで進めてもらっているわけでございます。一例を、構想でございます。家庭の力、学校の力、地域の力を合わせまして、特に地域の方が入っていただくことで、異年齢の交流とか、そういうことまで含めまして、中心を武中のちから実行委員会ということで、ちょっと見えにくいかわかりませんが、コミュニティーの日とか、校内見守り隊とか、武中応援団とかお話し「ほんわか」、土曜学習会のボランティアとか、赤ちゃん登校日とか、本当にさまざまなことを発案をさせていただいて、家庭・学校・地域が連携した支援体制づくりをさせていただいております。そういう中で、キャリア教育の推進、将来を見据えた子どもたちを育てると。それから同時に、PTA活動の活性化にもつながるという取り組みでございます。

一例としまして、お話し「ほんわか」ということで、最初は中学生に読み聞かせというのがどう通じるのかというような話もされていましたが、本当に真剣に子どもたちが、生徒は聞いてくれるというような話を聞いております。また、3年生の家庭科ですね。育ち合い講座と、胸までもない保育園児との交流でございます。最初、どう接していいかわからない、どきまぎした様子が、次第に笑顔になっていくというようなことも聞いております。赤ちゃん登校日ですね。お母さんのほうがちょっと心配されていたというような話も聞いておりますが、いろんな交流ができているということでございました。6月18日は武中のちから実行委員会ということで、生徒会の本部役員と実行委員の方が懇談会もされているということでございます。

いろんな課題が今言われますけれども、特にいじめ等につきましては、その学校の生徒諸君がどういうふうな動きをみずからできるかと、やっていくかというところが最終的な狙いかなというふうな気もいたしております。そういう意味で、実行委員会の人初め、皆さん初め、いろんな方がいろんな形で応援に入っていただくという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、こういうふうな形の中で、地域との連携というものが大事なことだと思います。それ

にプラスしますが、この前、今度は我々より3つ先輩が武雄中学校の同窓会をやるということで、その第1回目の実行委員会を武雄中学校の校長室でやるということであったわけです。「同窓会の準備は武雄中学校でや」と言うて、「そがんとろでなしすつとや」というふうな話を聞いたわけですが、校長先生のほうから、ぜひ地域の方に中学校の現状というものを見てもらって、いろんな形で、先ほどの話じゃありませんけど、協力する分があったら、声でもかけてもらって、いい中学校、いいまちの子どもたちと一緒に育てましょうという思想のもとで頑張っていますよというふうな話を聞いたことも紹介したいと思います。

次に、体罰に対するアンケートの公開についてです。

市内では、体罰に対するアンケートが実施されたと聞き及んでおります。そのアンケートの内容は、どんなもので、なぜされたのか。また、どう公開されたのか。その中身は新聞報道で知り得ていますので、その体罰の中身をあえてここでは触れないで結構ですので、今をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

御存じのとおり、大阪で体罰を原因とするような自殺の事故があったわけでありまして。その体罰については、法的に縛りがあるわけでありまして、そういう重大な事故に鑑みて、全国的に調査があったわけですね。その調査の一つは、今年度4月から1月までの間に体罰として各学校で対応した事例ですね、これについて何件あったかということでございます。

もう一つ、今調査をしているのが、事実確認をしているのがありまして、同じく今年度中に再度聞き直して、子どもたちと保護者の方に聞き直して、体罰を受けたことありませんかと、あるいは見たことありませんかというような調査が第2次の調査でございます。そこで出てきました件につきましては、そのままその数値として数えることはできないわけでありまして、事実確認を各学校で行っているということでございます。それがその1つ目の調査について公表をしたところでございます。

その公表につきましては、いろんなことを検討したわけですが、一つは、この公表を契機として、さらにより強い信頼関係を築きたいということであります。つまり、これだけありましたと、これは反省をしていますということで、これからさらに信用していただきたいというのが一つでございました。

それからもう一つは、大変だけれども、やっぱり法的にこの体罰は許されていないんだということを改めて強く意識していきたいということでございます。それは3つ目としまして、同様に、特に各学校の教職員については、その体罰についての意識の向上を図るということで公表したわけですが、これにつきましては、その当該校の若干の範囲においては特定されるということもあったかもわかりませんが、極力、当事者の特定がないよう

な形での公表を心がけたところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

体罰は絶対やってはならないことです。それが大原則です。教育現場、特にふざけなど、日常学校生活でのルールを無視する子どもたち、そんな問題行動をどう指導するのか、これまた大事な問題です。そんなとき、市としてどう先生たちに指導されておられるのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いろんな方の御意見があるわけですが、あの自殺事件につながったような、あれはもう本当に体罰の域を超えるような、いわばかなりの暴力だろうというふうに思うんですね。ですから、体罰、体罰と言いますが、本当に今、私に聞こえてくる声は、うちんとはこうされたみたいだけど、体罰と思うとらんよというような声も片方にあります。そのような体罰、あるいはやっぱりこれは学校で対応しないとイケない体罰であろうと。あるいは、いや、これはもう体罰の域を超えているぞというような、いろんな程度によって判断をしていかないとイケない面があるかというふうに思います。

ただ、どうしても法的には守れないところがございます。体罰をした場合にですね。ですから、その事情等を踏まえて対応していくということでもありますけれども、そこだけ見ると、それだけで大変なんですけれども、やっぱり日ごろからの信頼関係をいかに築いておくかというところが非常に大事なことかなというふうに思います。ひどい言葉をかけて、その次のフォローはどうしているかとかですね、厳しく叱った後の対応とか、あるいは本当にその子の気持ちを理解した上での言葉になっているかとかですね、そういうようなところを十分今度も指導していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

体罰等が報告されたときに、どう検証し、公表するのかについてお尋ねしたいと思います。

先ほども言いましたように、私は体罰など暴力は絶対だめで、肯定はしません。しかし、公表されるリスクを恐れ、教育や指導がおろそかになり、荒れた学校、荒れた教室、それを見て見ぬふりをする先生、そんな学校にしたら、誰でもが不幸になるわけです。その点、配慮された公表が必要と思うわけですが、その点、また再度になるかと思っておりますが、公表

というものが大事な局面になると思いますけど、その点についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市内では、この五、六年の間でも、たたかれてもたたかないで指導してもらった先生もたくさんおられます。公表が配慮はしないといけませんけれども、ある一定の限度であれば、これはやっぱり生徒指導上、厳しい措置もしないといけませんし、あるいは生徒がそうであれば、自己防衛というのは当然あるわけでありますので、先生方についても、そういう対応も考えないといけない。ただ、13、14、15の子どもたちであります。わからなくてするのも非常に多いわけであります。したがって、その内容によりまして、公表するところは公表をして、そして先生方にとっても、その対応をしっかりと考えていくということが、これから大事になってくるかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私も今度、体罰とかいじめというものを教育のことについて、私なりにいろんなところに聞いたり勉強したりしました。その子どもというものには待たなしのそのときです。大事に指導してもらえるようにしたいと思います。

最後に、いじめにしても体罰にしても、未然防止と早期発見、早期対応が大事で、それをしっかり地域を含めて支えることが大事だと思っています。先生も安心して教育指導ができ、武雄での教育生活は楽しく充実しているよ、子どもや保護者からは、楽しく元気に学校生活を送っているよと、いわゆる教育環境が武雄市にもあるよとなるようなことを願って、教育問題の質問を終わります。

次に、農業問題です。

13年度予算が閣議決定がなされ、その中で農林水産関係予算が2兆2,976億円と、伸び率5.7%、13年ぶり増加と、1月30日の新聞で報道され、安倍総理は攻めの農林水産業を展開し、成長戦略の話し合いに出るための予算の増額に転じた農業農村整備事業の復元、経営安定化対策、戸別所得補償制度の堅持、農産物の輸出拡大対策、経営多角化の3項目に特化した政策として発表されていますとあります。

そこでお尋ねです。武雄市では、具体的にどんな農業振興策を考えられ、どう進めようとしておられるのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

武雄市の農業振興策をどう考えているかということでございますけれども、今現在、農業者の高齢化、担い手不足、あるいは先ほど議員さんもおっしゃられましたけれども、TPPの動向等、農業情勢を踏まえた地域農業を維持していくためには、後継者や新規就農者の確保が重要であると認識しております。そのためには所得が向上するような農業を展開していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、所得向上は大事だと思っておりますので、よろしくお願いします。

次に、将来の地域農業を考えたときに、平成24年度より人・農地プランが制定されているが、それではどのような内容なのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

人・農地プランは、どのようなものかということですが、地域農業の5年後、10年後をどのような方向に持っていくかということで、地域の話し合いによって、担い手の農地の集積、地域農業のあり方などを市内9町ごとに定めているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

人・農地プランを進めていくために、重要な担い手対策について質問します。

まず、ことし1年、武雄市内で新規就農者はどれくらいおられたのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

平成23年6月1日から平成24年5月31日の間の新規就農者の数は、農業法人への就農者が7名おられまして、合わせて14名というふうなことであります。

農業法人以外の7名の内訳につきましては、米、麦、大豆の土地利用型農業に従事される方が2名、それから施設園芸と米麦の複合型が5名というふうなことであります。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

農業は、今のTPP問題など、不透明な要素はあるものの、今の世の中、意外と農業は成

長産業で、自分の頭と体で勝負でき、何よりも自然相手ではうそはつかない、人間関係に苦勞することはないし、パートナーさえいれば、私は楽しい生きがいのある仕事だと思います。問題は、生きがいがあって楽しい仕事でも、ある程度の規模と経験で育てられる技術と、それらが育つてこそ、ある程度の収入が確保されるものです。それまでには数年かかります。でも食っていくには金が要る。勤めに出れば、最低賃金は保障されています。しかし、農業者には最低賃金は保障されていません。そこに農業後継者が育ちにくい現実があると思うのです。そこに救いの手が差し伸べられているのが、青年就農給付金だと思うのです。その内容と市内での取り組み状況を説明してください。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

青年就農給付金ですけれども、これは準備型と経営開始型というのがありまして、準備型としましては、就農に向けて研修を受ける方への支援を行うものです。経営開始型につきましては、経営リスクを負って就農する新規就農者の経営が軌道に乗るまでの間を支援するものであります。対象者へ年間150万円、最長5年間給付する事業であります。給付の条件としましては、就農者就農予定時の年齢が45歳未満であること、それから親元就農ではなく、独立自立就農であることなど、幾つかの条件があります。

平成24年度の対象者は1名でありましたけれども、平成25年度においては、新規5名の対象を見込んでおります。市としては、地元農家、JA、県と強く連携をしながら、青年就農給付金を積極的に活用しながら、より多くの就農者を確保していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

今、経営開始型で平成24年度に1名、平成25年度には5名が計画されるというふうに聞いたわけです。私はもっとこれはいい制度ですので、これを情報を広く伝えて、たくさんの方が今は高齢化と後継者不足に悩んでいる農村に入って、頑張る農業者を応援してもらえるようによろしくお願ひしたいと思います。

そんな中、市内では私たちと同じ6代のお勤めをリタイアされた新規就農者がアスパラガス栽培に、またキュウリの生産農家などでは、高度の省エネルギーのハウスなど、佐賀の強い園芸農業確立対策事業補助金等を利用し、積極的な農業展開がなされていることは、私たち議員もエールを送り応援したいと思っております。

武雄市の農業を考えると、集落営農についてお尋ねします。この集落営農が今、武雄市の米麦農業の中では大事なウエートを持っているわけです。そんな中で高く評価したいのは、

朝日町中野みつば集落営農組合だと思います。この組織をまとめて、より理想の集落営農組合を築いてこられた組合長の岩永敏雄さんが先日亡くなりました。心からの御冥福をお祈りしたいと思います。

中野みつば集落営農組合は、よそとどこが違うかといいますと、水田の作付の権利が各農家に放棄させ、その集落営農組合に集積されていることです。そこで、水稻の品種が面で統一されている。すなわちこの地域は夢しずくをつくりなさい、この地域はさがびよりをつくらうというふうな、面で取り組まれているということです。それで、代かき、田植え、稲刈り等、隣から隣へと農機具の移動も近くて済み、より効率のよい作業が行われています。この中野みつばの取り組みをどう評価されているのか。もっといろんな地域で中野みつばのような集落営農組合ができ、またライスセンターを中心にできている橋下集落営農組合のような、水田農業を核とした集落営農組合ができればいいなと思っております。その点、どうこれらの集落営農組合を評価し、推進しようと思っておられるのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

現在、市内には47の集落営農組合がありまして、人・農地プランにおいて、担い手に位置づけられております。従前より農地集積による作業の効率化、機械の共同化による経費節減、作業の効率化、共同購入による経費削減等、担い手の創出、後継者の育成など、地域農業の継続に重要な役割を果たしておられると思っております。特に中野みつば集落営農組合や橋下営農組合につきましては、市内の先進的な事例として参考にしているところであります。JAや県などと連携をしながら、ほかの集落営農についても、法人化を含めて、それぞれの地域の成熟度に合わせた組織の強化、指導を行っていきます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

機械の効率化ということで、大事なところで、今、農業集落営農組合はつくっているわけです。私も以前、機械利用組合ということで、ライスセンター等ができる30年か40年ほど前にそんな組織を一生懸命頑張ってきたわけです。結局、その時点では、機械の有効利用ということで、個人の農機具の処分というものがなかなか進まずに、個人が持っているところと持っていないところが機械利用組合でやるということで、その組織でしたので、長くは続かずに終わったわけです。今度は農機具も高いということで、機械の効率化のために農機具の整備は大分進んでいます。しかし、今言いましたように、中野みつばのような作付の面的な確立ができれば、もっと効率ができるということを、もっと訴えていろんな場でこういう形が、集落営農ができれば安定した農地への配当、またオペレーター収入等があつて、農業が確実

に進むんじゃないかなと思っていますので、その点よろしく御指導お願いします。

次に、麦、大豆振興では、排水対策と思っているわけです。今はどうなっているのか、将来展望はどう考えておられるのか、お尋ねします。

私は地域営農を考えると、今は排水をする場合、私の農地の排水をしてくださいと、手挙げ方式で行われています。それでは面としての生産性の高い農業振興を考えると、どうしても効率のよい農業振興はできません。なぜなら、さきに述べましたように、今では農地が将来営農や小作により地主から離れてしまい、直接排水をしたからといって農地からの所得向上にならず、反対に経費負担になっているのが現実です。でも、排水対策をやらないと、その水田の多面的な利用はできないのです。そこが今の問題です。費用負担等も含めて改善されるべきと思います。また今回の国の農業振興策にのっとり、よりよい振興対策として、圃場整備農地のより広い農地への再圃場整備等も含めて、排水対策等も含めて、ぜひ振興施策を考えるべきと思います。この農地の面での農業振興対策というものをどう考えておられるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

農業の効率化、営農の効率化ですけれども、地域農業の継続のためには、圃場の条件整備というのは重要と位置づけておりまして、各種事業等の取り組み、農家負担の軽減など、その地域営農組織の実態を踏まえながら、事業を推進していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

間もなく5時になりますが、議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ地域の声を聞きながら、よりよい農業振興になるようによろしくお願いします。

次に、ブランド農産物についてです。これが最後ですので、よろしくお願いします。

（「頑張れ」と呼ぶ者あり）

生き物を育てるお米付加価値向上という新聞報道を見たわけです。それは兵庫県の丹波地区の話でありまして、ここは以前、日本中に生息していたというコウノトリが最後の生息、今、コウノトリの保存地域として頑張っているところです。そこでは、コウノトリを守るために、農地を冬場にでも水をためたり、また夏場の稲作時期には、ドジョウやカエルさん、いろんなものが生息して、コウノトリがすめるような農地をつくっている。そのためには、どうしても手間暇がかかるということで、そういうことで考えられたのが、生き物を育てるお米付加価値向上ということで、消費者の心をつかみたいということで、いろんな形でイン

ターネット等を利用して対策を考えたそうです。そしたら、今は作付が始まった時点で、予約でその年の米は売れるような地域になったそうです。それが大々的に行われているのが、この米です。

そこで、私は武雄で何かできないかなということ考えたときに思いついたのが、今からの案です。今、平成25年度全国で791万トンを主食としようとして米が生産されます。面積で換算すると、150万ヘクタールです。JAに尋ねますと、その育苗用土です。焼土1トンで苗箱を250箱分ができるそうです。それで、全国で150万ヘクタールとなると、計算上では120万トン、10トンダンプで16万台分が要るということです。これが全国で毎年山が削られていくわけです。その山が削られた跡地はどうしても自然破壊ということで、土石流等、いろんなことにつながって自然破壊につながっています。

そんな中で、また考えられたのが、また新聞で見たわけです。それは今、山里で一番やっかいになっているのがモウソウ竹です。この竹を粉になす機械です。それが福岡あたりの業者が開発したとです。これは市内にあります中山鉄工等がしておりますように、岩を砕く機械だそうです。それに竹をぶち込みますと粉になって、その粉で水稻の稲の苗をつくれば、軽くて水を含んでも従来の土の半分以下の重量になるそうです。

それでこの自然に優しく、また竹というものは、3年たてばまた再生可能なる資源になるわけです。そうすることにより、それがあつたわけです。それをぜひ今、市内の製材所屋さんや建設業者さんに見ますと、せつかくの施設があつているのが現状じゃないかと思つます。そんなところにそういうふうな機械等を導入してもらいまして、竹で粉をつくつた自然に優しい、そして竹というものは油分があつますので、農薬等の利用が極力抑えられるというふうにも載つておりました。それを考えますと、自然に優しい農法です。こんなのでつくつた武雄の稲です。ぜひ自然を守る我々の米を買つてくれませんかというふうな形で、得意の市長のPRで頑張つてもらえば、いいブランド化になるんじゃないかと思つています。もしこれが成功したら、チンゲンサイ、キュウリ、またアスパラガス等の土づくり等にも利用できるんじゃないかと思つています。ぜひ大きなロマンですけど、夢物語として提案したいと思つますけど、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

よくわかりませんが、頑張りたいと思つます。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私は今回、この竹というものは、今、昨年度の平成24年度事業でも、佐賀県の環境税とい

うことで、北方あたりでもその竹を切って、どこかに集めるという事業が始まっているし、今、地域の区のほうでは、ちょっと名前忘れましたが、モウソウ竹とかいろんな竹を広い単位で処理して集積するというふうな事業がこの前、地域でどがんしますやというふうな話もあったわけです。それら等を含めたら、おもしろい私は地域循環の農業になるかと思えますけど。よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私は議員のほうがよくおもしろいと思うんですがね。それっておいしいんですか。確かに世界遺産米と、能登で、ここでも御講演していただいたローマ法王に米を食わせた男で、もう世界的に有名な高野誠鮮さんのお米、僕はいただいたんですよ。これ物すごくおいしいですよ。物すごくやっぱり工夫がされていて、有機でつくられていて、ジャポニカ米という品種なんですけれども、本当においしいです。これ、普通の単価のやっぱり6倍ぐらいでも売れるというのはよくわかります。

ですので、単に生産者であるとか、いろんな地域が工夫をするというのは、どこも工夫しているんですよ。ですので、そのポイントはおいしいか、おいしくないかなんですよ。おいしいんですか。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

私もそれをつくった米を食べていませんので、それはここでは答弁できません。しかし、さがびよりは特Aということで、おいしい米ということが証明されております。それに磨きをかけて生産に愛情と真心を込めれば、おいしい米は絶対できると思っています。そのために私はできれば、この竹の粉を、1町歩ぐらいの量を確保してつくってみたいと思いますので、そのときはよろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ぜひ小池議員も一番心配されていると思うんですけどね、環境破壊にならないようお願いをしたいと思うのと、もう1つは、今あるものを活用するという意味では、僕は全く同感なんです。大刀洗のお米、これは山口裕子議員さんもシンガポールで食べたときに、小泉元総理が「これはうまい」と言って唯一褒めた米が、大刀洗のお米なんです。これF B良品にも出ていますけれど、これ、ご飯に米ぬかをかけてあったんですよ。それが何で米ぬかかけるなんて、せっかくおいしい米に米ぬかかけたらおいしくないでしょうと思ったら、食

べたらきな粉みたいで本当においしくてね。ですので、それもすごく無農薬とは聞いていませんけれども、低農薬でちゃんとつくっていると。ですので、やっぱり議員が竹を使ってご飯を僕に一回食べさせてください。それで議員もおいしい、私もおいしいとなると、それはやっぱり売れると思います。

確かに全国、値段が高くてもおいしいお米を待っている層というのは確実にあります。それで、今、和食に回帰しています。世界食遺産ですよ、和食がどうも認定されそうなんですよ。という意味からすると、和食回帰というのは健康志向であるとか、地産地消も含めて、そこに物すごく今戻ってきていますので、そこはチャンスがあると思いますので、ぜひその際は、山口良広議員の顔を焼き印したもので出したいと、このように思っております。焼き米。

○議長（杉原豊喜君）

5番山口良広議員

○5番（山口良広君）〔登壇〕

竹というものを言ったのは、今、一番里山でやっかいになっているのがモウソウ竹の林です。これをどう切って、どう処分するかというのは、里山の自然を守り、いろんな大事な事業につながると思いますので、ぜひ一緒になって検討して、いいものをつくっていきたいと思います。

これをもって私の質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で5番山口良広議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 17時9分